

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

319  
345

家庭講座テキスト

我子乃為に

春巻

東京中央放送局

JOAK

始





特220  
478



我子

の爲に

【春の巻】



### 家庭大學講座

「我子の爲に」(春の巻)

期 間 昭和四年三月五日より四月末日迄の豫定

放送時刻 午前十時四十分より十一時十分まで(三十分間)

講 師	
石藤壽子	同上
高田義一郎	同上
松本保造	同上
太田孝之	同上
豊福環	同上
竹内茂代	同上
澤崎元	同上
宇都野研	同上
陰山サダカ	同上
青木醇一	同上
和田富子	同上
和富子	同上

◇「我子の爲に」(花の巻)は四月中旬に發行致します。

1042



## は し が き

只乳を飲ませて放縦に育てましても、子供は大きくなりますけれども、出来るだけ完全な人格を築き上げやうと致しましたとき、育児法の容易ならざることを誰しも切實に痛感せずには居られませぬ。

産みの苦みから育ての苦勞、その母なる女性の犠牲努力が立派に役立つやうに致しますのには、先づその知識を充分に具備しなくては、母としての天賦の職責を完全に成し遂げることは出来ませぬ。

こゝにはまだ育児のことに経験のお有りにならない若い御母様方の爲めに、それぞれの道の大家に頼ひ申上げまして、保健と教育との有らゆる方面から育児上の知識を放送して戴きます。

此放送は、育児と云ふ大きいお仕事の、たしかに燈明臺であると、堅く信じて居ります。

テキストは、三月五日より七月二十日までを期とし、春の巻・花の巻・青葉の巻として次々に發行の豫定で、先づ第一巻春の巻を上梓することゝ致しました。どうぞ放送御聴取の際の御座右に御備へ下さいませ。

尙ほこのテキストの表紙の書、畫共に嘉悦孝子女史がお書き下さいました。テキスト發行に際し、厚く御禮を申し上げます。

昭和四年春

愛宕山放送所

社會教育課家庭係識



# 家庭講座 テキスト

## 我子の爲に〔春の巻〕

### 目次

赤ちやんの被服類「編物」(放送五回).....	石	(イロハ順)	頁
哺乳兒の榮養法(放送五回).....	豊		五
乳兒と幼兒の取扱ひ方(養護)と躰方教育(放送三回).....	太		三
子供の心の育て方(放送六回).....	和		九
畸形兒の話(放送三回).....	陰		九
妊娠より分娩迄(放送三回).....	竹		三
幼少兒童の日記の記入事項と其効果(放送三回).....	高		三
體質異常の話(放送三回).....	宇		三
小兒の病氣の見方とおもなる小兒病に就て(放送五回).....	青		三
お産の話(放送六回).....	澤		三
幼兒の眼の爲めに(放送四回).....	松		三
以上	本		三
	保		三
	元		一
	一		五
	研		一
	郎		三
	代		三
	家		九
	子		九
	之		三
	環		三
	子		五
	藤		三
	壽		五
	子		五



赤ちゃんの被服類  
『編物』  
(五回放送)

石藤壽子



赤ちゃんの被服類 〔編物〕

目次

ベビーマントの編方……………五

襪襟カバリの編方……………八

小児の足袋……………〇

可愛い雪帽子(二回)……………三

ベビィサック……………七

外挿圖七

以上

石藤壽子氏





赤ちゃんの被服類 〔編物〕

石藤壽子

ベビーマントの編方

材 料

極細毛糸(三本合して用ふ)六オンス

縁飾用フランス刺繍糸(五番)三把

鉤 針

編 方

全體長編ばかりで至極簡単で可愛らしい恰好に仕上がります。

順 序

最初衿廻りから編始めます。



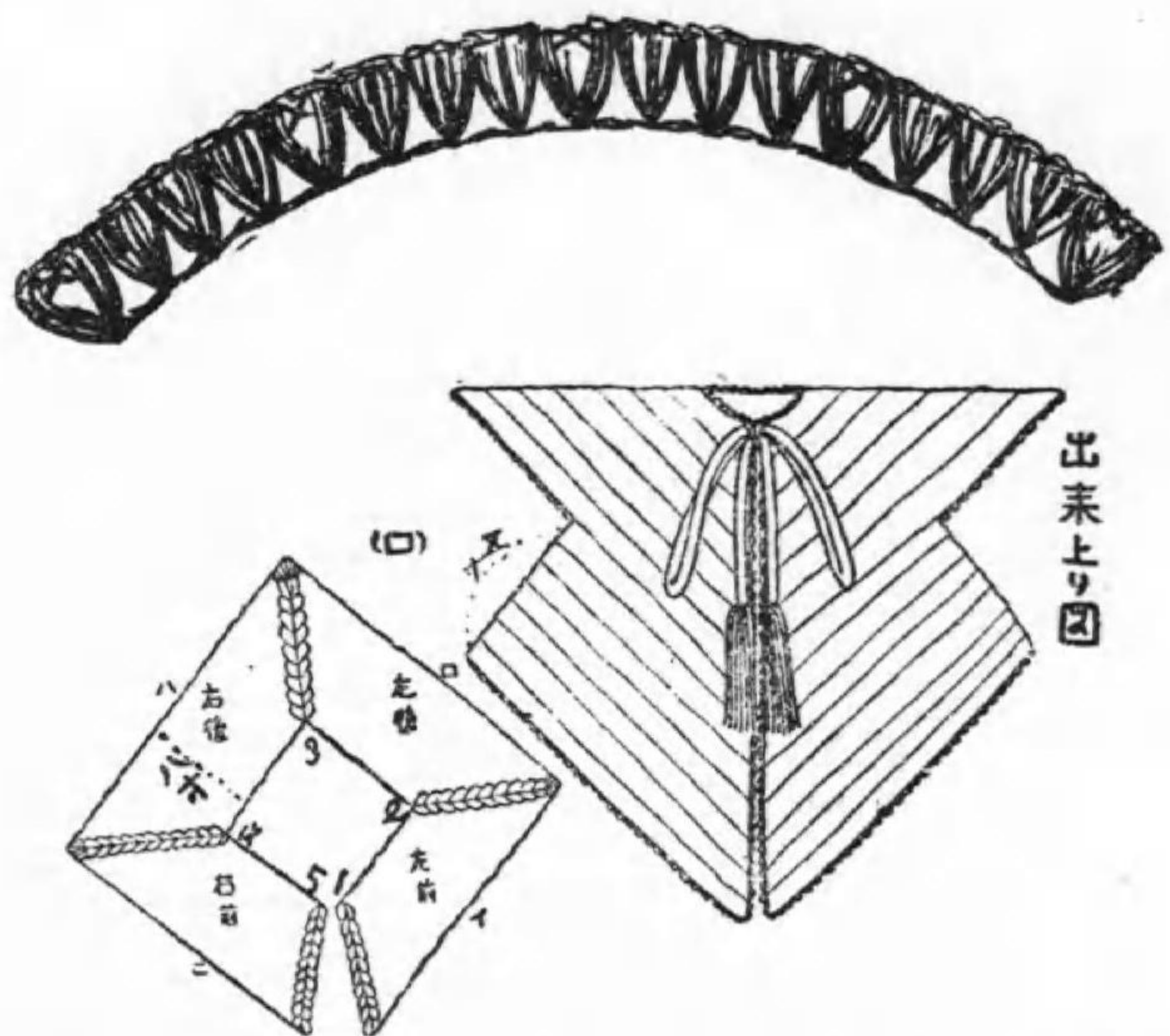
一段目：鎖六十八を鯨八寸位になる様に綾めにお編み下さい。そして終りから四つ目に長編を二度同じ目に編入れますと、端の鎖三つが長編一つの代用となりまして、長編三つといふ事になります。次に鎖一ついたしまして、又長編三つを矢張り今と同じ目に編入れます。つまり一目の中へ六つ長編を編入れた譯でございます。

次は、土臺の鎖三目飛ばしまして、四つ目に長編三つ編入れます。又三目飛ばしまして、四つ目に長編三つ編入れ、今一度三目飛ばして、長編三つ編入れます。四度目は矢張り三目飛ばしまして、長編三つ 鎖一つ 長編三つ を、同じ目の中へ編入れるのでございます。以下これを繰返しますと、五ヶ所に長編六つの柱が出来まして、イ圖の様になります。

二段目：向けかへまして、捨目の鎖三つ いたします。そして、長編三つ 鎖一つ 長編三つ を前段長編三つと三つ との間、鎖一つ の中に編入れます。其次は長編三つを、直ぐ隣の孔に入れます。四ヶ所の孔に編入れましたらば、五度目は前段の長編三つ と、三つ との間、鎖の中に前記と同じに編入れるのでございます。是を繰返しまして、最後は捨目に長編を一つ いたしまして、向け替へ、次段に移ります。

斯の要領で、同じことを繰返し編み進みますと、最初柱と柱の間に四つ孔がございましたものが、一段毎に一孔づゝ殖えまして口圖の様に段々擴がつて参ります。そして袷廻りから鯨八寸になるまで、お編みになったら袖を分けます。

袖：五筋のまん中の柱を背筋といたしまして、二番目と四番目が肩山になります様に、口圖中イロハ順に編つづけ



るのでございます。即ち左前半分(イ)迄編みましたらば、左後のまん中(ロ)の孔へ移り、順次編み進みまして、右後半分の處(ハ)から右前(ニ)に編移ります。斯様にいたしまして、只今編まないで飛ばしました場所が袖になるのでございます。

これから下は今迄通りの要領で鯨五寸編み進まして、身丈が一尺三寸になりましたらば、お止めになつて宜しうございます。

以上で大體は出来上りました。

飾：刺繍糸でピコットを全體の縁へぐるりと編つけ、飾といたします。

紐：糸を適當の太さになる程寄せて、四尺にお切りになりまして、是を繩になひ、袷廻りの孔に通し、兩端へ切房をつけて、完成でございます。



# 襠褌カバーの編方

## 材料

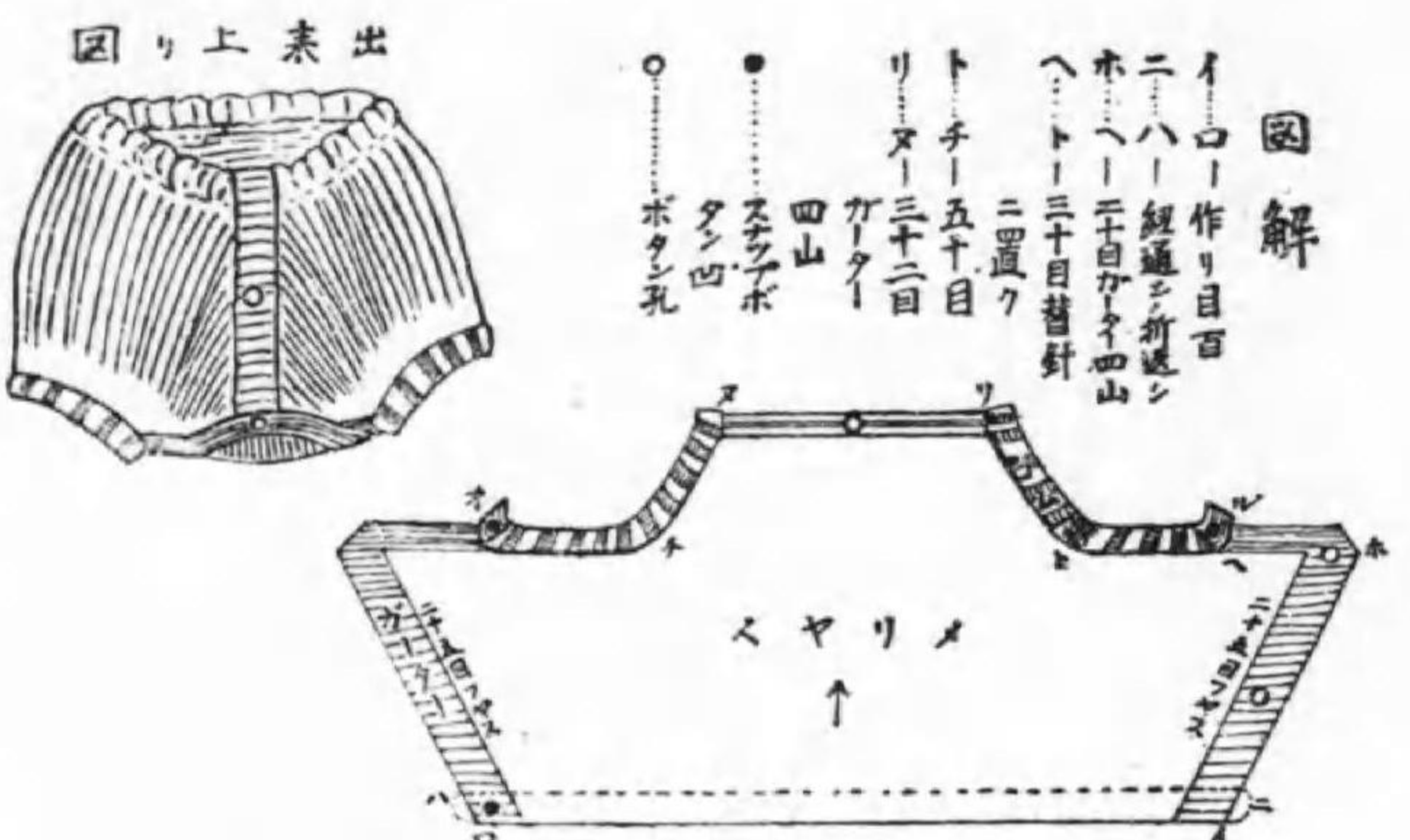
- 毛糸 和製太毛糸 三オンス
- ボタン 半吋二個
- スナップボタン 三組
- ゴムテープ 一尺(鯨)
- 四號二本針 一組 外に替針二本

## 編方

大部分メリヤス編でございまして、只縁に僅かのカーターとゴム編とを用ひます。

## 順序

最初腰にあたる處から始めます。まづ百目を作りまして、両端に八目宛のカーター編をいたします。外はメリヤス編にいたしまして、一寸位細みましましたらば、表を外に二つに折り、最初の作り目の端を揃ひながら編付けて参りませ



此中へは後にゴムテープを通すのでございませす。

紐通しが出来ましたらば、両端のカーターとメリヤス編との境目で一段おきに(いつも表を前にした時)増目をいたしまして、両方で二十五目宛都合五十目殖えます迄お編みになつて、全體の目數百五十目といたしましたらば、其目數を次の様に分ちませす。

表を事前にいたしまして、ホからへ迄二十目だけを編むのでございませす。此時あとの全目數百三十は針に休ませしておきませす。そして只今の二十目は替針を使ひまして、一段置にホの側で一目宛減しながら表編ばかりで七段編み、八段目に伏せて止めませすと、四山のカーターが現はれます。

次に左端の二十目も右端と同様に、端で一段おきに一目宛減しながらカーター四山編みて止めてしまひませす。

今度は、只今迄休ませしてありませす針目から、右側と左側と三十目宛替針に取つて置きませして、中央の五十目だけを編むのでございませす。矢張り兩端で一段おきに一目宛減目をして、三十二目になりましたらば、減



目をよしまして、其まゝ四山ガーターをしてとめます 尤もこの四山の中央にはボタン孔を開けなければなりません。次に替針に移しておきましたへ：トの三十目とへ：ルの横目四つと、ト：リの横目を、二十目と、合計五十四目に拾ひまして、是を二つ宛裏表のゴム編に八分ばかりいたして止めます。

是れで片方は出来上りでございます。

次に片方も總て前と同じにいたせばよろしいのでございます。

それから編始めに折返ししました處へ、ゴムテープを通して兩端を糸でしつかりと綴付けておきます。

尙ほボタン孔及びスナップやボタンをお付けになる場所は圖解で御覽下さいませ。

### 小兒足袋

#### 材料

太毛糸 一オンス半

ピコット用フランス刺繍糸少々

鉤針

#### 編方

脚部を長編くづしにて編みまして、足首から下を短編で仕上げます

#### 順序

脚部：鎖二十五目を緩く編んで輪に致します。(お子さんの脚部の太さによつて多少の加減が必要でございます)。それから長編くづしを五段ほどくるくくと編み廻りまして、足首に達します。

足首：短編で幾分締め加減にして三廻り編みまして、甲に取かゝります。

甲：今迄ぐるく編んで参りましたものを、此處から向けかへまして五分の二、即ち十目だけ編み、戻り、往き復りつゝ、十段編みますと、甲が編上りましたのでございます。

底：今度は只今編ました十段の横の目を編進みまして、足首の處からぐるりと一廻り致します。そして四段だけは減らし目も致しませんで、其まゝ編みめぐり、五段目と七 九段目とに於て爪先の兩側と、まん中と、踵の處と都合四ヶ所で、一目宛飛ばしにして減目を致します。六 八段目は減さないでよろしいのでございます。そして十段目は足袋を裏返ししまして、足底になる様二つに折り、引抜きをして止めてしまひます。元の様に表にかへしましてから足首に紐をつけます。



紐：編始めに一尺五寸ばかり糸を付けて鎖編を始め、鯨八寸お編になりましたらば止めてしまはしないで、又此先へも編



出来上り図



出しと、同様に糸をつけて切ります。斯様に鎖の両端に付けてあります糸で、圖の様な玉房をこしらへるのでございます。

一方だけ玉を編みましたらば、足首の短編の處へ其の紐を通しまして、そして後に一方の玉をこしらへるのでございます。

最後に編始めの處へ刺繡糸でピコットをつけて完成でございます。

### 可愛らしい雪帽子

#### 材 材

- 三號二本針
- 同 四本針
- 糸とち針
- 中細糸 一オンス半
- 四分一吋巾リボン 鯨二尺五寸

#### 編 方

縁をガーター編に、頭部に木の葉編を二模様致しまして、あとはメリヤス編で、後頭部に向つて減しながら止めますのでございます。

#### 順 序

まづ模様の編方を曾得して取かゝります方が好都合でございますから、假りに一模様だけ次の符號によつてお編み下す。

(裏編、表編とも編を省略致します。)

#### 木の葉編 (基本數十六の倍數に一を加ふ)

- 一段目……裏一「二目一度 表五 かけ目 表一 かけ目 表五 伏目 裏一」
- 二段目……「表一 裏十五」表一
- 三段目……裏一「二目一度 表四 かけ目 表三 かけ目 表四 伏目 裏一」
- 四 六 八 十 十二段目……二段目に同じ。



五段目……裏一「二目一度 表三 かけ目 表五 かけ目 表三 伏目 裏一」  
 七段目……裏一「二目一度 表二 かけ目 表七 かけ目 表二 伏目 裏一」  
 九段目……裏一「二目一度 表一 かけ目 表九 かけ目 表一 伏目 裏一」  
 十一段目……裏一「二目一度 かけ目 表十一 かけ目 伏目 裏一」  
 十三段目……二目一度「かけ目 表十三 かけ目 三目一度右（最終の時は二目一度）」  
 十四段目……裏。  
 十五段目……表一「かけ目 表五 伏目 裏一 二目一度 表五 かけ目 表一」  
 十六段目……「裏八 表一 裏七」裏一。  
 十七段目……表一「表一 かけ目 表四 伏目 裏一 二目一度 表四 かけ目 表二」  
 十八 二十 二十二 二十四 二十六段目……十六段目に同じ。  
 十九段目……表一「表二 かけ目 表三 伏目 裏一 二目一度 表三 かけ目 表三」  
 二十一段目……表一「表三 かけ目 表二 伏目 裏一 二目一度 表二 かけ目 表四」  
 二十三段目……表一「表四 かけ目 表一 伏目 裏一 二目一度 表一 かけ目 表五」  
 二十五段目……表一「表五 かけ目 伏目 裏一 二目一度 かけ目 表六」

二十七段目……表一「表六 かけ目 三目一度右 かけ目 表七」  
 二十八段目……十四段目に同じ。

二十九段目……一段目に歸り、以下二十八段目迄を繰返します。

以上で編方がお分りになりましたならば實際物に移ります。

お子さんのお頭（お）によつて、大きさも種々でございますが、此處では模様五つと致しまして十六の五倍に一を加へ、

八十一目を鉤針を用ひて作ります（他の作り方でも構

ひませんがイ圖の様に鉤針で作りますと、綺麗に目が

立ちます）そして表編三段致しますと、作り目共に四

段の譯でありまして、ガーター二山現はれます

それから只今の木の葉編を始めるのでございます。

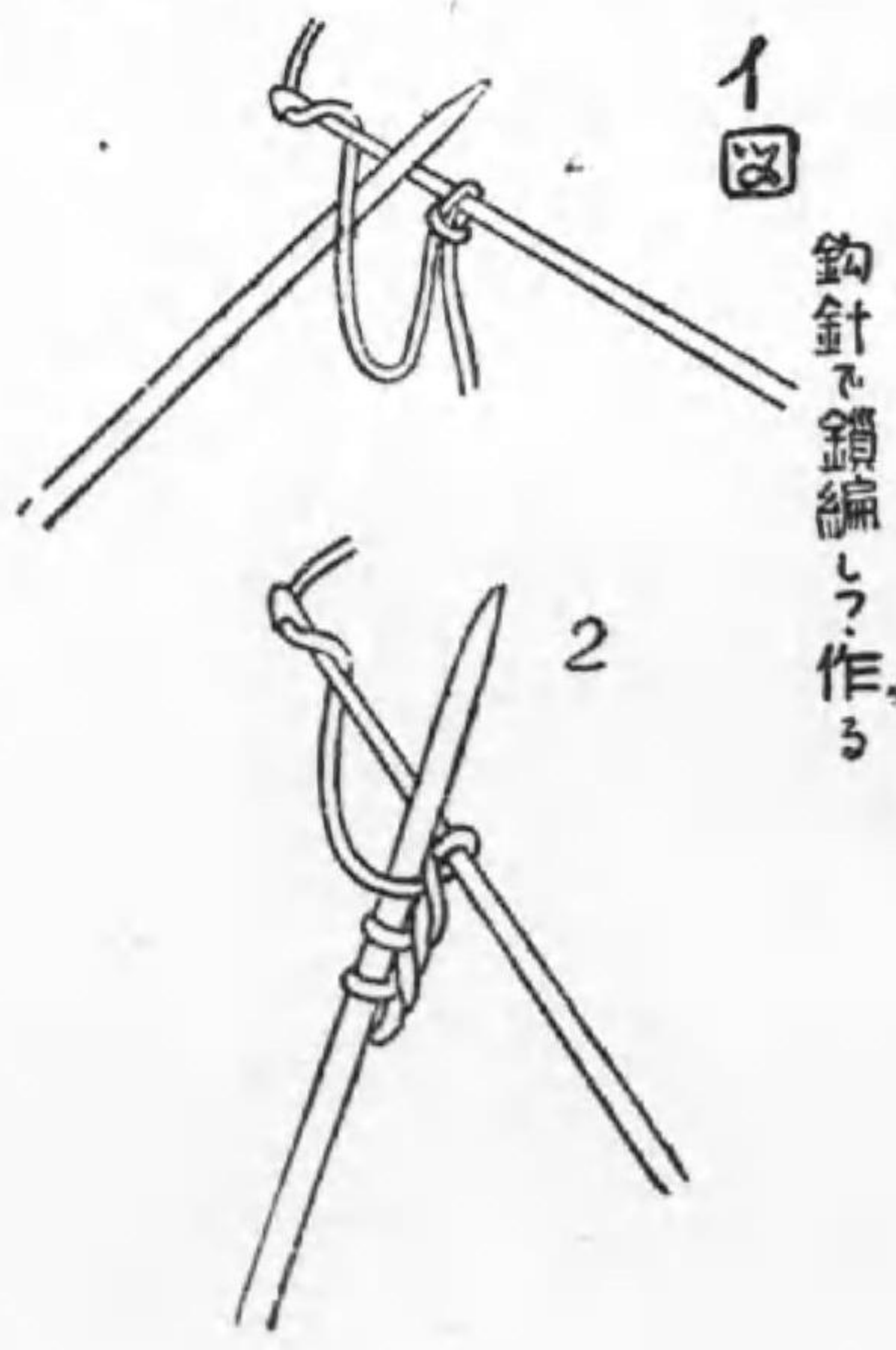
二段模様は現はれましたらば、今度は新たに目を十

五作り出しまして、口圖の様になりました處で、四本

針と取替へ（二）を（ホ）の處へ寄せて輪と致します。そ

してメリヤス編で減しながら、中心へ編み進むのでこ

ざいます。





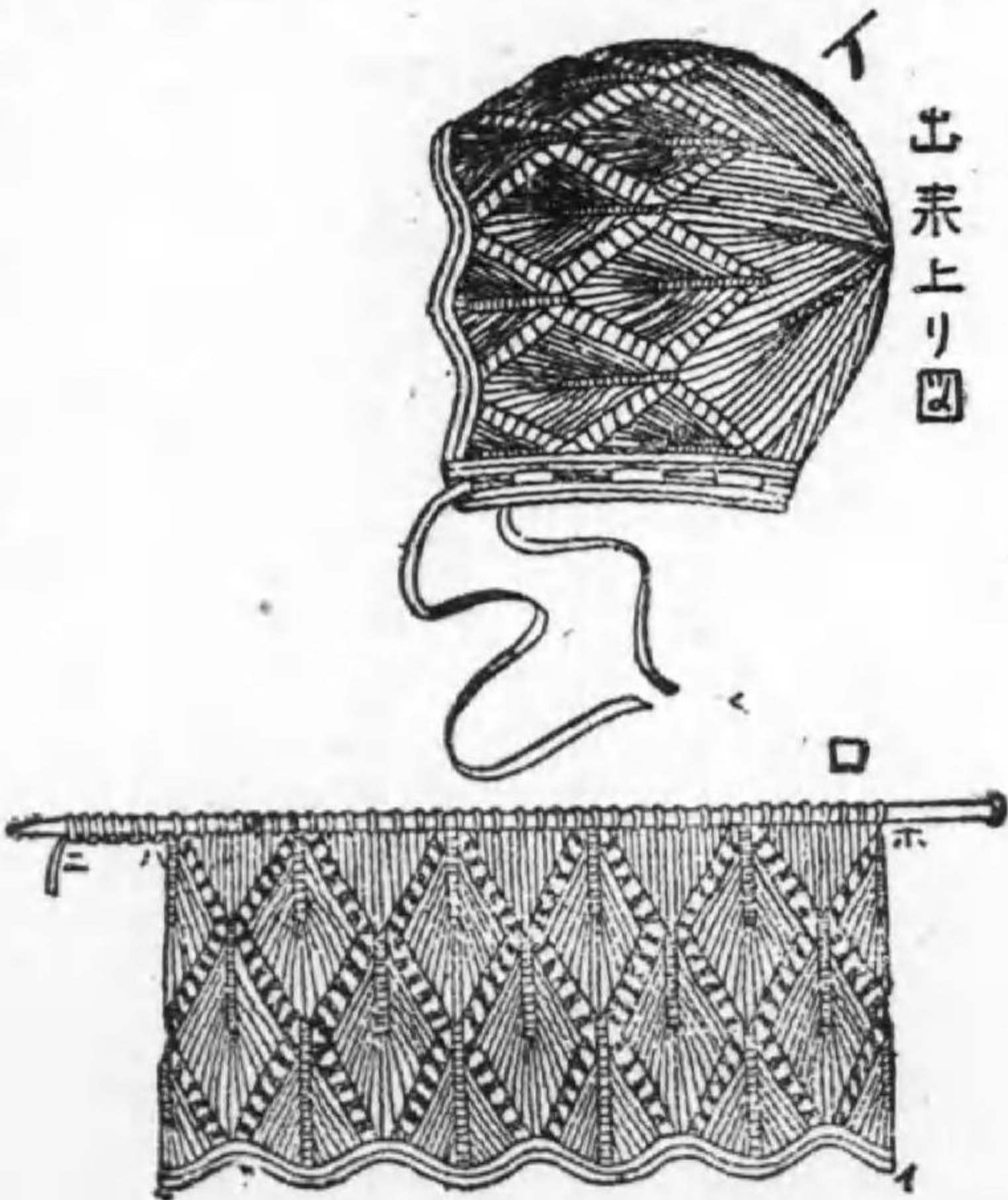
減し方：八十一の作り目に十五目を新たに増しましたから、都合九十六になつて居ります。是れを八ヶ所で減して参ります。

其方法は始め十目編みしましたらば十一、十二目とを二目一度に致します。又そこから十目編みしましたらば、十一番目と十二番目とを二目一度にするといふ様にして、此段を一廻り致します。

次段は減し目を致しません。

その次段は十、十一と二目一度に致します。斯様に一廻りおきに順次一目づゝ減目の間隔が近接して参りまして、遂に八目となつたらば止めてしまひます。

最後に木の葉編の一方の横目を、二十二目に拾ひ、次に後の目即ち新たに作つた十五目の處を十六目に拾ひ、次



イ：作り目八十一  
ハ：作り出し十五  
ニ：輪にして編みつける  
(こゝから四本針を取り替る)

に木の葉編の片方を又二十二目に拾ひまして、合計六十目となりましたらば之を二本針で少し締め加減に二山ガ！ターを編みます。三山目の處で、リボン通しの孔をあける爲めに、二目編んでかけ目、二目一度、次からは「四目編んでかけ目 二目一度」この「」中を繰返しますと、最後に二目残りまして、かけ目にした處が十ヶ所出来ます。次段からは、かけ目も普通に編みまして、全體で四山になりましたらば止めるのでございます。先にかけ目に致しました處が、孔になつて居りますから、其處へリボンを通して仕上りてでございます。

### ベビー・サツク

#### 材 料

- 極細(二本合して用ふ) 六オンス
- 半吋巾リボン 鯨五尺
- 鉤 針

#### 編 方

普通唐松編と申しまして、殆んど長編ばかりでございますが、イ圖の様に二通りの編方を一組としてございますので、便宜上甲乙と分ち、甲の編方を松と申します。



## 順・序

先に編方を會得しておいて、實際物に取かゝります方、便利でございますから、假りに三模様編む爲めに鎖二十五（基本數八の倍數に一を加へます）お作りになつて、甲より編始めます。

一段目甲…鎖三つ戻つて四つ目に長編一、矢張り同じ目に「鎖一、長編一」を、もう三度繰返しますと、長編五つと、其中間の鎖一つが四ヶ所出來ます。

次に下の鎖三目飛ばしまして、四つ目に短編一※、以下※から※の間を繰返すのでございます。

二段目乙…鎖四つ、其根元つまり前段最終の短編の上に長編一つ、次に鎖三つ致しまして、「前段松の中央の長編上に短編一、今度は鎖三つして、松と松との中間短編の上に長編一、鎖一、長編一」を致します、以下「」の中を繰返すのでございます。

三段目甲…今度は兩端だけは、松が半分即ち長編三つになりまして、其他は一段と同じ事をイ圖中↑印の中へ編入れ、前段短編の上に、矢張り短編を致します。

以上を繰返してお編になるのでございますが、サツクのやうに袖など付けますものは、形を整へる爲めに増目をし行かねばなりません。

増目の致し方…いつも乙の編方の時に致しますのでございます。それは只今申ましたやうに松と松との中間、短編の上に、長編二つ入れてございます處へ、更らに又鎖三つ長編一鎖一長編一を編入れますから、つまり短編一目

の中へ四つ長編がはいつた事になります。それでございますから、次の甲の段に松を編入れますと、一模様殖えるのでございます。

大體お分りになりましたらば實際物に移ります。

鎖八十一を鯨九寸位になる手加減でお編下さい、此處が衿廻りになるのでございます。

一段目一段目…甲の編方（松が十ヶ所出來ます）。

二段目乙…の編方でございますが、袖、前身を區別する準備として、四ヶ所で殖やします、その場所はイ圖に記してございます。十印の處の短編の中へ、長編一、鎖一、長編一、鎖三、長編一、鎖一、長編一を編入れて、乙の編方で殖すのでございます。

そして1、2、9、10が前身、3、8が袖、4、5、6、7が後身となるのでございます。

三段目…甲の編方で（兩端は松が半分になります）前段殖やした處へ、松を編入れて參ります。

四段目…は又乙の編方で、二段目で殖した處で、又殖やすと云ふやうに致しますと、最初二つであつた前身の松が六つとなり、一つであつた袖の松が九つになり、四つであつた後の松が十二になります。

此處で袖、身を分ちまして、只今殖えて九つになつた袖を兩方とも編まないで、前身六つから、後身十二に編み續け此れからは増し目なく裾に向つて適當の丈になる迄編んでとめます。

次に袖は中止してある處へ編口（脇の處）を付けまして、之も増し目なく、ぐる／＼輪に編み、衽を見はからひ、適



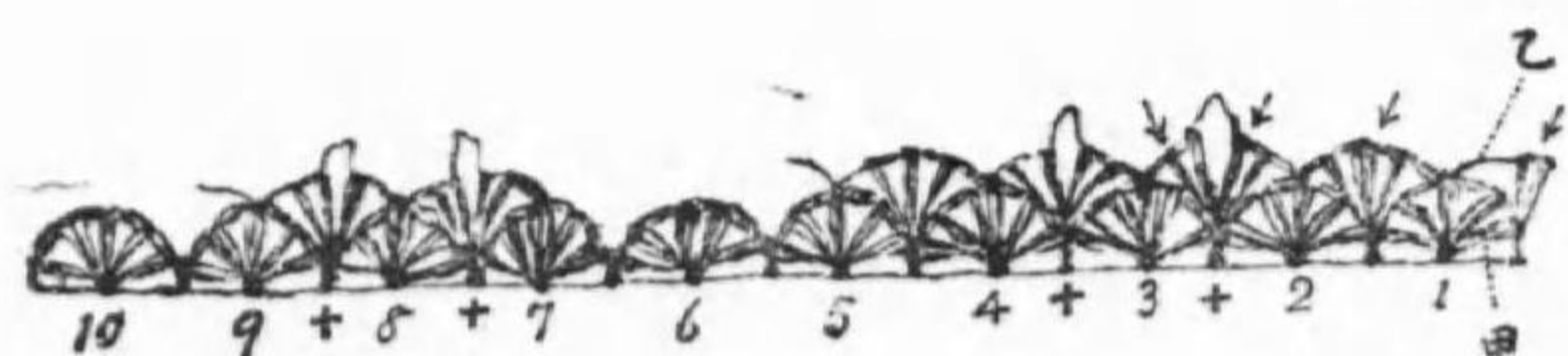
宜にとめます。

飾：袖口、身頃全体のぐるりへ鎖三、其根元へ長編三、  
三目飛ばして短編一を繰返しまして飾編と致します。

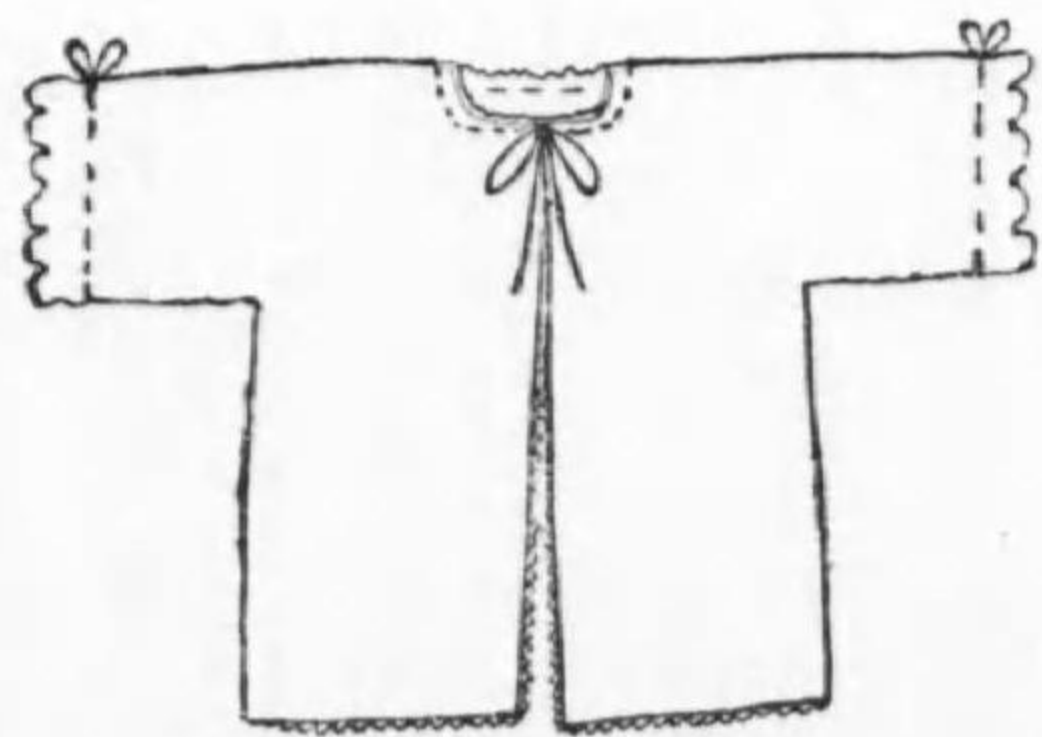
最後に両袖口のリボンを一尺宛に切りまして、袖口の松  
編の處を縫ふやうに通し上で蝶結びに致します、衿廻はり  
は通しました両端を糸でとめて、リボンが抜けないやうに  
いたしておけばよいのでございます。

—【終】—

イ図



出来上り図



# 哺乳兒の榮養法

【放送五回】

醫學博士 豊福環



# 哺乳兒の榮養法

## 目次

緒言.....	三	特別な場合の乳の飲ませ方.....	四
母乳第一.....	六	人工榮養.....	四
乳に就て.....	六	牛乳の稀釋法.....	五
乳房に就て.....	三	乳兒の發育と牛乳の量.....	五
乳の分泌に就いての注意.....	三	牛乳を與へる回数.....	五
授乳の方法と母親の注意.....	三	牛乳の調理法.....	五
産婦の衣食住.....	三	食餌の種類.....	六
廢乳又は減乳の場合.....	四	稀釋物と添加物.....	六
廢乳の時期.....	四	副食物.....	六
乳母の乳.....	四	榮養と日光.....	七

醫學博士 豊福環氏





# 哺乳兒の榮養法

醫學博士 豊 福 環

## 緒 言

乳兒の保育上には榮養の問題が一番重要な事項であります、茲に榮養と申しますのは、簡単に云へば消費したゞけのものを補つて、尙その外に熱と力とを與へる物質を體内に供給することを申すのであります。併しこれは大人の場合でありまして、小兒時期に於きましては、これ等の外に、尙發育する物質を多量に與へる必要があります。

子供は乳兒に限らず總て割合に多くの食餌を要求致します。少し成長した子供は殆んど大人と同じ程度の食餌を取るものであります、之はその消耗したゞけを補給するのみではなく、尙發育する爲に必要な多量の物質を要求するからであります。

小兒期にありましては幼いだけにその發育が盛んで、従つて食餌も又澤山取る必要があります。譬へて申しますれば、初生兒期に於きましては體重は凡そ三疋でありますが、その一疋に對して、凡そ百四十カロリ以上を與へる必要があります。乳百瓦の溫量は凡そ七十カロリでありますから、七十カロリの三倍即ち凡そ三百瓦を與へなければなりません。然し段々發育するにつれまして、その必要量も減じて參り、一年前後では體重の一疋に對して凡そ七十カロリで充分發育するものであります。



此等の物質は發育する爲に必要であり、又熱を起し力を出す基となります。そして殘餘の物質は皮膚、呼吸等から發散し、又尿及び糞便となつて排泄せられるのであります。

身體の發育を保つて行くのに大切な物質は、蛋白と鹽類でありまして、熱と力とを與へますのは、主として脂肪と含水炭素即ち乳兒の場合には穀物糖類等であります。これを蒸氣機關に譬へて見ますと、力と熱とを與へますのは石炭と木林でありまして、木林は熱量が低く、石炭は熱量が高いのであります。その中で石炭は丁度脂肪で木林は含水炭素に譬へられるものであります。即ち脂肪は外の含水炭素に比較しますと凡そ倍の熱を與へます。簡単に計算致しますと、脂肪一瓦が凡そ九カロリーで、普通の含水炭素類即ち穀物糖類は四カロリーを與へ、又蛋白の一瓦も凡そ四カロリーを與へます。

營養品として、是等の外に熱も力も即ち體を組成する。物質は作りませんが、無くてはならない營養素があります。これを副營養素と申しまして、此頃やかましく云はれて居りますビタミンがそれでありまして。このものが無いと一般營養素がその働をする事が出来ません。ビタミンにはA、B、C、D、E、F、等種類を區別してありますが、今日乳兒保育上最も必要とせられてありますのは、その中でA、B、C、D、の四つであります。

## 母 乳 第 一

哺乳兒の營養は大人の場合と違ひまして、その消化器管が未だ完全に發育して居りません爲に、極めて大切に取扱

はないと直ぐ故障が起ります。従つて一定の食餌でないと、これを消化し盡す事が出来ぬのであります。

乳兒に一番適當した食餌は、母乳若くは人乳でありまして、その外の食物は只これに堪へ得ると云ふのに過ぎないであります。それは他の獸類の場合に就て見ましても同様の關係でありまして、牛の仔は牛の母の乳が、そして山羊の仔は山羊の母の乳が一番宜しいのであります。若し假りに人間の乳を山羊の仔に與へましても、その發育は非常に悪いと云ふ事になります。この様な動物の中で人間の子供の發育が一番徐々であります。茲に一つの例を申上げて見ませう。即ち家兎の發育を考へて見ますと、家兎は生れた時に例へば六十瓦と致しますと、六日目には百二十瓦となり、十二日目には百九十五瓦つまり三倍以上になります、この家兎の乳の成分を見ますと、人間の乳よりも蛋白の含有量が十倍以上ありまして、鹽類の含有量がやはり十倍以上であります、即ち體の組織を組成致します蛋白や鹽類が十倍以上も含まれて居ると云ふ事によつてお分りでありませう。つまり斯様に發育が強い爲には、乳の組成が全く違つて居らねばならないのであります。人間の子供の發育は如何と申しますと、丸四ヶ月以上たちますと初の目方の倍になりますのが普通であります。即ち家兎の子供が十二日で發育するところを人間の哺乳兒は、一年かゝる割合であります。その外に同じ蛋白質でも鹽類でも又脂肪でもその性質が皆違つて居ります。これ等の色々の意味から人間の哺乳兒を保育するには、母乳若くは人乳が一番良いと思はれます。

そこで母乳は哺乳兒期に於きまして、少くとも百日は飲む必要があります。若し初めから少しも人乳を飲まないと思ふ様な子供には、非常な不利益が起る事があります。母乳は殆んどすべての人に於て百日位の間は充分に與へら



れるものでありますから、若し乳がこの期間に出ないと云ふのならそれは出ないのでなく出さないのであると云ふ學者もあります。勿論何か特別な病氣が母親にありました時には別問題であります。

斯様な場合に吾々小兒科醫は色々の工夫を凝らしまして、母乳と同じ様な効力ある營養品を得ようと努力致して居りますが、未だ如何にしても人乳に近い食物を得ることが出来ません。

## 乳 に 就 て

次に乳に就て少し説明を加へて見たいと思ひます。乳は御存じの通り灰白色で半透明の少し黄色味のある液體であります。特種の芳香を持つて居りますのみならず。極く愉快な甘味を持つて居ります。この乳の中に含まれて居ります蛋白には色々の種類がありますが、主なものは乾酪素即ちカゼインであつて、これに酸を加へて見ます。例へば胃の中にある稀鹽酸を加へて見ますと、細かに凝固します、これが消化の初めであります。このものゝ凝固の仕方は動物によつて異つて居ります。例へば牛乳は極く粗く凝りますが、人乳は細かく凝ります、この凝り方が細いだけ消化が良いのであります。牛乳の場合でもお湯や重湯で薄めますと細かくなります。私共は、小さい子供に牛乳を與へますのに、昔しから稀釋して用ひましたが、それは母乳の成分に近いものとして與へると云ふ意味によることの稀釋でありました。けれ共かうした爲に消化が良かったのは、實はこの牛乳が細く凝ると云ふのが大事な事實であつたのであります。

次に乳の中に脂肪は、極く微細な滴として含まれて居りますので、その形態は顯微鏡で見ますと、丁度紙に着いた蠶の卵子を見る様であります。これを瓶等に入れて放置して置きますとその上に黄色い膜が出来ます。これがバターであつて、脂肪の集つた膜であります。乳の特種な匂は主にこのバターの匂であります。若しこれが古くなりますと匂が強くなります。それは脂肪の中に含有されて居る揮發性の脂肪酸が増加した爲であります、ですから普通のバターでも古くなりますと匂が強くなります、あまり脂肪酸が増加致しますと、その乳は有害であります。バターの場合でも同様であります。

この外に乳の中に含有されて居りますもので乳糖と云ふ砂糖があります。これは母乳に最も多く含まれて居ります。その爲に人乳は外の獸乳に比べて甘さがずつとあまいのであります。そしてこの糖は外には何處にも無く只乳のみある唯一の含水炭素であります。

次に鹽類は動物の種類によりまして乳に含まれて居る鹽が異ります。殊にその中で磷酸鹽類は神經や骨を組成する爲に必要であります。

茲に一つ面白い關係があるのは鐵であります。哺乳兒が發育するに従つて血液が殖えます。それには鐵分が必要なのであります。然るにこれは乳の中には非常に少いのであります。併しながら哺乳兒の肝臟を分析して見ますと、その中には多くの鐵があります。そこで吾々にはこの鐵が肝臟に多く貯められて來て、その持つて生れた鐵分を一ケ年間なくづしに消費されるのだと考へられます。早産兒がいつまでも顔色が悪いと云ふのはそれは鐵分の貯藏が不



完全であつた爲に、血液が充分造られない爲であります。斯様な關係でありますから、貯藏された處の鹽類は月が經つと共に消費せられ、不足を生じて参ります。故に鹽類を含有した食物を相當な時期になると與へる必要が起ります。即ち既に半ケ年以上になりますと、どの子供でも段々乳のみならず副食物を増加する必要が起ります。

乳は人間に於ても何の動物に於ても、初めに出る乳は薄くて段々と濃厚になります。そして又一體に乳が少いときには濃くて多量に分泌するときは脂肪の含有量少く、即ち比較的薄いものであります。然しながら人間に於きましては斯様な關係は割合に少いので、勿論初めは薄いのであります。多量に出てもさう成分に相違は無いのであります。つまり十ヶ月や十六ヶ月間位はよく出る乳に於きましてはそんなに成分に變化がありません。勿論多少は最も濃厚な時より薄くなると云ふ事は事實であります。然し取り立てゝ云ふ様な變化はありません。

そこで牛乳と人乳との比較を申上げて見ませう。擧げて見ますと

	蛋白質	脂肪	糖分	鹽
人乳	一・〇	四・〇	七・〇	〇・二
牛乳	三・五	三・〇	四・五	〇・七

で、牛乳の蛋白質は人乳の三倍、脂肪は人乳の方が少し多くて、含水炭素は人乳の方が多くあります。これは即ち乳糖の事でもあります。計算致して見ますのに、全體の營養價は殆んど伯仲の價であります。

### 乳房に就て

乳房に就いて少し述べて見ませう。乳房は凡そ十二三歳迄は男女同じ様な發育であります。その後になりますと男子は發育が停止するのみならずむしろ萎縮するのですが、女子は發育を續けて参ります。殊に破瓜期になりますと急に發育致します。けれども妊娠する迄は其の程度で止つて居ります。妊娠すると急に特別な發育を致します。若い處女の乳房を見ますと、皮下の脂肪組織が澤山あり、其の下に堅いものを觸れます。これが乳腺の基となるもので、若し妊娠するとこの乳腺が急に發育致しまして顕微鏡で見ますと、丁度葡萄の房の様になつて見えますそれが段々集つて参り、枝になり、幹になります。斯様に集りました幹は凡そ十五、六の管となり乳頭に開きます。然し全部は開かずに、出口で互に癒合して居るものもあります。乳房が急に發育すると皮下に赤黒い線が多數に見られます。それはあまり急に發育した爲に、皮下の組織が切れそより少しづつ出血し其の爲に出來た線であります。それが後に瘰癧となり、光澤のある光つた線として見られます。これは乳房に限らずに、この時期の女子にはよく見るのであります。例へば下腿の後側等によく見られます。

乳房の形態により乳の出方の善悪が論じられて居りますが、それはあまり意味の無いことでもあります。小さい乳房でも相當よく分泌するのがあります。大きな乳房でも中に脂肪組織が多くて乳腺の少いのは矢張り分泌が比較的悪いのであります。世間によく垂乳と云はれて居ります大きな乳は、やはり乳腺の少い關係から見かけ程の分泌がありません。つまるところ乳腺が澤山含まれて居ると云ふ事は大事なことであります。



次に必要なのは乳頭の形でありまして、このものがよく發達して居りませんと、哺乳に非常に困難を來します。例へば乳頭が突出せず却つて陥没して居る様な事があります。斯様な乳頭は初めて乳を吸ふ初生兒は到底哺乳しませんから、妊娠當時から充分に注意して引き出して置かなければなりません。そして容易く哺乳し得る様に準備して置く事が必要であります。普通の乳頭でも充分授乳し易い様に普段から注意して、刺戟を與へて乳頭の形を整へて置かなければなりません。

### 乳の分泌に就ての注意

人乳は少くとも三ヶ月は充分哺乳し得るものと申しました。この時期に哺乳し得ないと申しますのは、それはつまり色々な原因で母親が授乳を避けるのが第一なのであります。

次に催乳劑としては日本のみならず各國に於て色々なものが出来て居ります。然し私共小兒科醫の経験では適確に利くと思はれますものはありません。即ち一番大切な事は常に乳房に機械的の刺戟をあたへる事でありまして。其次には食餌を充分に取る事が必要でありまして、次には精神を安らかに保つて居ると云ふ事が大切であります。次に最も大切なのは母性愛であります。母親が子供を愛する事が少いと乳の出が悪いので、殊に母親が授乳を嫌ふと云ふ様な事がありましては出るべき乳も止つて終ひます。此の事實は特に乳母の場合に大事な事柄であります。催乳食餌としては、各國に於て色々上げられて居りますが、日本に於ては餅、鯉、味噌汁等が用ひられて居ります。又西洋では

牛乳、ソップ、マルツビール、コ、ア等色々挙げられて居ります。然しながら私共はこれ等は恐らく意味の無いものと思ひます。要するにお餅等を與へて分泌を増しましたら、それは比較的豊富な食物を取つた事になるのであります。即ち母親の食慾を増す事が一番必要であります。ですから授乳して居るものは、又適度な運動も必要であります。そしてなるべく多量に食餌をとる方が良いのであります。又食餌を度々取ることも必要なのであります。即ち授乳前三十分か一時間に自分の好むものを澤山食するのであります。非常に粗惡な食餌は別として普通の食物を取つて居ります時は、其食物の性質によつて乳汁の性質が異ると云ふ様な事は人間の場合にはありません。又人間では野菜類を澤山取りましても、葉緑が乳汁中に出て來る様な事もありません。獸乳の時には、時によつて青草を多く取りました時に乳汁が葉緑を多く含み、これを飲むと下痢を起す様なものを見る事があります。又粗惡な食物のみを與へますと薄くなります。人間では然しあまり脂肪に富んだもの即ちテンブラ等は控へました方が宜しいのです。精神の動搖が直接に乳の分泌に關係すると云ふのは問題となつて居りますが、私は矢張大なる關係があると思ひます。成分には關係ありませんが、量の影響は大變強く、非常な心配の爲に乳が急に出なくなつたと云ふ事はよく聞く事があります。故になるべく授乳時は乳母の時でも同じであります。精神の動搖を避けねばなりません。然しながら此等はすべて一時的のもので長い間影響する様なことはありません。

母親が子供の泣くのを聞いて授乳を思ひ出し、それと同時に乳が張り乳汁が自然に流れ出て着物を汚す事があります。これを見ましても如何に母性愛が乳汁の分泌に影響するかと云ふ事がお分りでありませう。従つて授乳を嫌氣する



時は、乳の分泌が不足となる事は勿論起り得べき事でありませぬ。初産婦の場合には時に授乳に當り乳房に比較的強い疼痛を感じる事がありまして、其爲に授乳を避ける様な事が實際度々見られるのでありますが、この時乳を與へせんと乳房の發育が停止しまして後には出て不完全であります。初めの内の乳腺の發育は後來の影響が強いのでありますから極めて大事な事であります。

又乳汁の分泌は、熱病とか其他人體の衰弱する様な病氣に懸りますと減するのであります。これが長く一ヶ月又はそれ以上もかゝりますと分泌は半量以下に下りまして、如何に努力致しましても元の量に恢復する事は不可能なのであります。旅行其他事故の爲に二三日授乳を止めて居るのはさほど影響がありませんが十日二十日と止めて居りますと矢張り元に恢復することが困難になります。

又催乳の方法として近來人工太陽燈を用ひまして、成績の良いと云ふ報告があります。最も良いのは力強く吸ふ事が一番大切なのであります。同じ様に子供が毎日吸つて居りましても、充分に吸はない場合には矢張り乳の發育も不充分で、出來得べくんば發育の良い子供に力強く吸はせて居りますと、乳は良く發達して參ります。

それから授乳の仕方が悪い爲に乳の分泌に影響を受ける事があります。例へば多くは子供の頭を母親の左の方に抱く癖があります。故に何時も先づ左の乳を與へ、次に右の乳を與へます。故に左の乳房の發達が良く右の方が悪い様な事がありますのを私共は割合に度々實見致します。之は是非改めなければなりません。必ず初めには與へる時に交互に與へます。初め右なら次には左の云ふ風に、つまり兩方共一日に一回から二回は充分に一滴も残さず飲み干し

てしまふ事が必要でありまして、一方を飲み干し尙足りない時には、外の方の乳を與へる方法を取ります。

又乳房は適當の刺戟を與へる事が大切であると云ふ事は前に述べました通りで、それには乳を飲ませますのが一番であります。その出來ません時には、乳揉みに揉ませます。それを數回繰り返すのであります。若しこれの出來ない時には自分でそれに似た様な揉み方を致します。つまり氣が付いた時に常に揉んで居りまして、乳房に適當な刺戟を度々與へます。故に乳量は力強く飲む子供が澤山飲みますと相當な量が出て參ります。例へば一人の子供を發育させますのに充分な場合には、更にもう一人の子供を附けますと、更に乳量が増します。最近獨逸では一日に四立リットル(二升二合)の乳を出した人があります。それは二人の子供に與へ、後は搾り取つてそれを合せたのであります。普通の子供の發育には凡そ一日に千瓦迄即ち五合位迄が必要であります。少く飲む子は分泌少く、多く飲む子によつては刺戟の爲に乳の分泌量が多くなります。故に必要な量の乳汁の分泌は自然に一致します。然し一定の年齢になりますと、乳のみではいけません。必ず外の副食物を與へなければなりません。

又乳をどの位に飲むかを見ますのには、哺乳の前後に乳兒の體量を計りますと分ります。これは一二回量だけを計りまして一日量を推定する事は出來ません。乳汁の分泌は時間により異つて居ります。即ち一回に二百瓦のことも三百瓦のことも亦百瓦の事も御座います。ですから一回の量を見ますのには毎回計りました量の和でなければならぬのであります。



## 授乳の方法と母親の注意

乳児が乳を飲みますのは全く其の本能によるのでありまして、誰が教へなくとも良くその方法を知つて居ります。人間の哺乳児は初めの中は非常に下手であります。動物殊に犬に就て御覧にたります様に、犬は目の開かない内に自ら乳を探し出して喰はへ、同時に前足で乳に規則正しい刺戟を與へて居ります。斯様に本能的に乳児は乳を飲むものであります。

授乳致します時の母親の位置は、産後間も無い間は側位でもつて與へます。既に一週間から十日経ちますと、坐位すわてで膝の上に子供を置き、そして授乳する乳の方の側の上膊に子供の頭を支へて授乳致します。西洋では極く低い安樂椅子に母親が腰掛けて、この膝の上に子供を載せて手で支へて乳を與へます。

乳は出初めの時分には、初乳と申しまして黄色を帯びた濃厚な乳であります。これは成分が普通の乳と異りまして多少下痢させる様な傾きがあり、その爲に乳児には特にマクリ、其他の下劑を與へる必要はありません。

乳児が乳を飲み初めると初めの二三分間は急で、その後は段々緩かに吸ひます。最後には一二回口に吸つては、次に一回位呑み込むと云ふ様な方法を取ります。故に乳の分泌は初めの數分間に殆んど大部分を出して了ふものでありまして、其後は極く少量の分泌に過ぎません。假りに一回百五十五分位と致しますと、初め二三分間に百五分以上を飲み、次の十分間位で僅かに五十五分位に過ぎないのであります。それ故に乳を飲ませます時間は凡そ十五分位で充分であります。それ以上は乳房に付けて置かない方が宜しいのであります。何等かの原因により哺乳量を限定せな

ければならない時には、餘程短時間で離乳しなければなりません。例へば一、二、三分間と云ふ様に限定致します。又反對に乳の出方の悪い時には比較的長い間飲ませます。けれども二十分以上は有害であります。乳児が口の中で乳頭を弄んで居ります場合にも、尙乳を離さないのは非常に悪い事でありませぬ。

乳児は一日の中で早朝に於て一番多量に飲みます。實際母親の乳の分泌も此の時が一番多いのでありまして、多い時には胃の大きさよりも多く飲む事があります。之は飲み込んだ乳が飲みつゝある中に腸に移行しますので、凡そ三分の一はその間に腸に移行致します。乳を飲み終りますと健康な子供は、そして殊に幼い子供は直ぐに眠りに入るのであります。そして空腹となりましたとき初めて目を覚めます。故に少くとも初の中の哺乳時間は大抵乳児自身で定めます。若し短時間で目を覺して泣くやうな時は大抵便意を催した時であります。若し母親が之を誤解しまして泣きさへすれば、直ぐ乳を與へると云ふ様な悪い習慣を附けます事は慎まねばならないのであります。その爲に飲み過ぎに依て下痢を起す等屢々實見する所であります。ですから母親は或る程度までは必ず時間を定めて授乳する心得が大切であります。之は乳児の教育上にも非常に大事なことであります。

次に乳児は大きくなるに従つて段々多量の食餌を必要とするものであると御考へになつて居ります方が多い様じあります。それは間違でありまして、勿論ある時期迄は乳汁の分泌も増し、子供の保乳量も増します。併しながらある時期以後はすつと同量を取ります。既に申しました通り六七ヶ月以後には、外に乳以外の食餌を附けて行く必要が起りますが、乳の量は増す必要がありません。乳児は出生後一週間位の間は極く少量の乳で足りませぬ。之が段々に増



して参りまして、六七週間の間には、凡そ最高の乳量に達します。それ以後はずつと同量の哺乳量であります。乳児の飲む乳の量は一日最大量一立(五合五勺)で澤山であります。若しそれで肥らない時期が参りましたら、それは外の栄養素を要求する證據であります。勿論人乳は牛乳等に比べて、消化の良いものでありますから、多少それより多くとも少くとも左程影響はありません。然しながら非常に多量の乳を飲みますと、下痢に傾く虞れがありまして、それは發育上あまり良い事ではありません。

授乳を初めますのに、凡そ生後二十四時間を経過しました後に與へるのが良いと申します。其以前には發育の良い子供でありますと、左程慮れる必要がありませんが、普通以下の子供の場合には往々微菌が腸から體內に侵入してその爲に發熱する様な虞れがあります。初生児の消化器管は生後十數時間の間、非常に通過性に富んで居りますから、色々の異物を通過させるものであります。丁度一日位經過致しませんと、母親の乳房の發育も完全になりません。丁度その時分になりますと、乳児も食慾が出て、乳房の發育も完成し、授乳し得るやうになります。

初めて乳を附けます時に、赤坊は吸ふ事が非常に下手で、その上母親が初産婦である時には、母親自身も非常に下手でありまして、又體位が極く不便な位置である爲に大いに授乳に困難を感じる事があります。殊に乳房に疼痛が起るやうな時には、よく授乳を思ひ切る人があります。之は最も悪い事で、此やうな場合には非常な堪忍と努力とを以て授乳せねばなりません。又家庭の方々も努めて授乳を奨励するやうに致したいものであります。

授乳の回数は一日どの位かと申しますと、六回乃至五回で充分であります。場合によりますと、一日四回でも充分

に育つ事があります。然しながら生れて間も無い間は、比較的回数を多くしまして、乳の分泌も良くなり、哺乳量も多くなつて参りますれば、段々回数を減じて一日五回に致します。それは丁度一ヶ月位の時期になつてするのであります。六回の場合には、朝の七時と、九時半、午後一時、四時半、六時、十時に與へ、五回の場合には、午前七時、十時、午後二時、六時、十時と云ふやうに、規則を定める事が必要であります。此時間は多少前後が伸縮しても宜しいのですが、夜間は必ず授乳せぬ習慣をつける事が大切であります。斯様に規則正しく授乳する事は乳児の教育上に最も大切で、乳児の生活は實に此の哺乳に依つて初められるのであります。

又これは前に既に申上げました事ですが、授乳の時には必ずその乳房を交互に與へて行はなければなりません。もう一つ御注意申上げたのは、嬰兒が乳を含み二三回吸ふと眠り込む事があります。斯様な場合には二三分して後に又附けます。尙十分に飲まぬ時は、又一回これを繰り返します。斯様にすると大抵充分に飲んで了ふものであります。一般に乳を與へた後には、極く安靜に床の上に寝させる事が必要であります。でないといふ子供はよく乳を吐きます。乳児の胃は凡そ三角であります。そしてその口が大人のやうに捻れて居りません爲に易く胃の内容物が口の中に戻つて來るのであります。斯やうな場合に私共は溢乳と申して居ります。溢乳は左程恐しいものではありません。然しながら眞實に吐く時、つまり逆り出る様な吐き方の時には何か病氣があるのでありますから注意せねばなりません。

## 産婦の衣食住

母親になりますと、急に食餌を變へたり、運動を變へたりして、色々な生活の状態を全然變化させます事は非常に



悪い影響を起しますから、急に變化を與へる事は慎まねばなりません。日本のある地方では産婦の食餌は、非常に嚴重で色々の物を禁ずる地方があります。又非常に美食を與へる人もあります。斯やうな事は勉めて慎しまねばなりません。急に榮養に富むものを多く取る等、偏つた食餌を與へますと、必ず後には産婦の食慾が落ちて参ります。前にお話し致しましたやうに攝取量が減すると必ず乳の分泌に影響がありますから、産婦には常に産婦の好むもの即ち最も食慾をすゝめるやうなものが一番宜しいのです。そして度々與へますことが大事であります。間食も實は間食で無く此時間にも好める食物によつて榮養を取る所以であります。つまり産婦はその生活を保つ外に、尙自分がお産の爲に弱つた體の恢復と、もう一つ乳兒をも保育しなければなりません。即ち普通より尙二つの條件に適するだけの榮養が必要であります。けれどもあまり過食すると肥り過ぎが来て、その爲に乳が減つて來ることが往々あります。母親は又殊に乳母の場合にもさうであります。適當の運動が必要であります。家事には勉めて働くやうに致します。散歩も大變宜しいのです。勿論常に慣れて居ります運動等は結構であります。旅行等も過度で無いときは差支へはありませんが、成るべく避けられた方が宜しいのであります。

### 廢乳又は減乳の場合

母親の方に故障ある爲に、又は乳兒の方に故障のある場合等に於て、授乳を減じたり、或は斷乳したり致します。併しながらこれは極めて稀でありますから、このことをよく御注意申上げて置きたいのであります。世間では廢乳や

斷乳が全く必要のない場合にも易く行はれて居ります。これが爲に子供の運命が非常に悲しむべき状態に置かれると云ふことを知つて置いて戴きたいのであります。

斷乳が必要な場合と致しましては、先づ第一に母親の方に故障のある場合として、母親のチブス、赤痢、虎列拉等の急性傳染病、その外の大病に罹りました時には勿論乳が出ません。又肺病、肋膜炎の場合にも乳を止める必要あることがあります。この場合や又死の近づいた時等には乳兒を近付ける事の出來ない場合が多いのでありますし、勿論與へる事も出來ません。然しながら乳を與へることがいやだとか、體がだるくて衰弱した感じがするとか、頭や腰が痛んだり、睡眠が不足したりするとか、此の位の軽い精神状態や疲勞の爲に與へませんのは最も慎むべきであります。斯やうな容體の人でも乳を與へて居りますれば、與へない時よりも早く恢復するのであります。又乳房の病氣の爲に授乳の困難な場合があります、この時は非常な努力が要りませんが、必ず廢乳してはなりません。第一に先づ乳房炎に就いて申しますれば、この時は乳房に塊りが出來まして痛みます。斯る場合には授乳しながらそれを治します方法を取るのであります。授乳を止めますと塊りが尙大きくなります。若し之が化膿致しました時には止むを得ず一方から切開して廢膿するのであります。その時に於ても矢張り乳は與へます。非常に膿の分泌が多量の時には、時によつて乳兒が下痢や吐乳を起すことがあります。然しながら酷い程度でない時には斷乳の必要はありません。次に乳頭に糜爛や皸裂が出來、其の痛みに堪へ兼ねて廢乳する人があります。これ等も常に乳頭を清潔にして置きましてアルコールとリスリンをませ合せたもの、或はこれに單寧酸を加へた物を塗つたり、又は膏藥を塗つたり致します。



そしてこれ等の塗布薬は乳を與へます時に拭ひ取りまして、授乳後に又塗つて置くやうに致します。勿論斯やうな場合には廢乳致しますと早く治りますが、之が爲に必ず永遠に乳量が減じますから、なるべく堪忍して授乳を持續しなければなりません。この外に乳頭の形の悪い爲に、授乳が困難な場合があります。けれども、之につきましては前に述べてあります。母親が腎臓病の爲に尿に蛋白が多く出て参りますやうな時に、子供が下痢を起すことがあります。然しこれは稀でありまして、子供の發育が良ければ多くの場合差支へありません。母親が何かの病氣に罹り、非常に衰弱して居ります場合にはあまり多くの授乳は母親の恢復を遅らせますが、乳兒の方から申しますれば、成るべく度々與へて貰ひたいのであります。そのみならず不足勝ちでも授乳を致して居りますと、母親の新陳代謝が高まりまして、その恢復を促進します。貧血もこれにより却つて早く治り、殊に子宮の恢復は授乳が最も良い刺戟になるのであります。授乳しない爲に子宮の恢復が遅れまして、この爲にその位置が變つたり、又曲つたりする事等が往々にしてあります。

授乳によつて母親の容姿が衰へると云ふ考へを持つ若い婦人も少くは無いであらうが、絶対にそのやうなことはありません。然しながら只あまり屢々の妊娠は母親の體を弱くする事がありますけれども、授乳それ自身が容姿を衰へさせる事は決してありません。

次に乳兒自身の方面に於て起る乳を飲ませますことの出来ない場合について申しますれば、色々ありますが、殊に口に先天的の異常のあります時、例へば鬼唇の時等には飲むことが困難のことがあります。然しこれも若し何か特別

の方法で乳を供給致します時には差支へありません。日本には又特異な乳兒脚氣がありまして、母親に脚氣がある時にその乳を飲んで、乳兒脚氣に罹ることがあります。併しながらそれは稀でありまして、世間で唱へる程に多くはありません。乳兒は母親が脚氣でも自分は罹らないで済むことが多いのであります。世間では母親が脚氣の場合に直ぐ廢乳する人がありますが、それは最も慎まねばならないことであります。若し乳兒脚氣に子供が罹りましたと假定致しましても、軽度な時には**ビタミン**を與へる事のみで治ります。やゝ重いものでも少しく母乳を控へこれに外の榮養品を補ひまして、少し良くなると、又母乳を増すやうに致します。併し衝心脚氣の時のみは**全然廢乳**しなければなりません。又人乳中毒と云ふものがありますが、これは非常に稀で數ふべきものでありません。私共は未だ一回も見ただ事がない位であります。又所謂**腦膜炎**と云ふ病氣が乳兒にあります。これは幸ひ東京には割合に少ないのですが、關西には多いと聞いて居ります。これは乳兒の急性に表れました**鉛中毒**であります。即ち母親が鉛を含有して居る白粉を用ひた爲に、子供にその中毒が起つたものであります。而してこの場合には必ず直ぐに**全部哺乳を廢す**ことが必要であります。子供が若し**微毒**に罹つて居りました場合には、所謂**先天性微毒**でありますからこのやうな場合には勿論母親も微毒を持つて居りますのでありますから、母親に傳染させると云ふ心配はありません。必ず**母乳を飲ませる**のであります。乳母に付けますとこれに**感染致します**恐れがありますから、乳母の乳を飲ませてはならないのであります。この反對に乳母が微毒を持つて居りまして、乳兒に微毒が無い時も同様な理由のもとにその乳を飲ませることは出来ません。若し微毒を持つて居りまして、それが治療によつて全快しました時などには**免疫素**がある間だけは傳染致しま



せん。故にどちらの關係でも乳を與へる事が出來ます。

要するに日本で最も多く廢乳を行ひますのは、主もに下痢の場合であります。乳兒は急速に乳を飲むのでありますから、時によつて大量の事或は少量の事があります。で、この過飲が長く続きますと、下痢が起ります。そしてこれは直ぐには治りません。斯やうな場合に母乳を廢する人があります。然しこれは慎まなければならぬのであります。即ち乳兒が幾ら下痢を致しましても、體重が増加して居れば差支へがありません。つまり便通の爲に乳を取るのではなく發育の爲に取るのであります。子供がよく發育して居れば、其の下痢は又易く醫師によつて治癒させる事が出來ますから廢乳の必要はありません。又綠便が出ると云つて多く乳を止めたり、綠便を脚氣の爲であると間違つて考へ廢乳するやうなことがあります。けれども等も意味の無い事で大なる誤りであります。

母親が第三階級の人等であつて、社會的地位の爲に働かなければならず、乳兒の始末に困る時があります。このやうな時には大きな都市に於ては何處かで保育して貰うと宜しいのであります。若しこれの出來ません場合には混合榮養か、又は外の榮養品のみによつて保育しなければなりません。又母親が社交の爲に授乳を止めるなどと云ふのは大變間違つた考へであります。乳を早く廢しますと次のお産も早く參ります。

最後に大事な事として乳の出方が悪いと云ふ事に就て一言申し上げます。之は屢々大便によつて分るのであります。大便が一日に二三次ありましたのが自然減つて參り、一日に一回、或は二日或は三日に一度と云ふやうになりました。そして此の場合子供の發育が思はしく無い事があります。このやうな時には乳汁の分泌が少いのであります。斯や

うな場合に於きましては授乳の回數を増加致します。即ち五回の處なら、六回か七回に致しますと、多量が殖えて參り、大便の回數、又體重も増加致します。如何しても是等が増加致しません時には、止むを得ませんから牛乳又は他の製劑を加へまして、所謂混合榮養に致します。成長した子供にはお粥や、まじりを與へます。然しなから茲に混合榮養に移ります前に必ず試みて見なければならぬ事があります。それは乳の分泌を増加させる方法で、即ち乳房に刺戟を與へたり、又大きな子供に吸はせたりするのであります。

保育者は常に乳兒の大便を注意する事が必要缺くべからざる事としてありますが、尿利も注意せねばなりません。例へば乳不足の時等には必ず尿利が少いものであります。

## 廢 乳 の 時 期

何時廢乳すべきであるかと申しますのは大切な事であります。日本のみでなく他の國に於きましても大にその國の習慣がありまして、一年半若くは二年或はそれ以上も授乳を續けて居る處があります。殊に我國では昔からの習慣として次の妊娠まで繼續すると云ふやうな處があります。然しながらは**大變悪い事**で必ず止めなければなりません。獨逸では普通八ヶ月から九ヶ月で全く離乳して了ひます。又獨逸でも處によつては、六ヶ月になると離乳する處もあります。私は左程これは嚴重にする必要が無いと思ふのであります。然し大抵授乳は**一年位**で打ち切ります。發育の良好な子供で他の食餌を早く與へる事が出來ましたら、八九ヶ月で離乳すると云ふ事等は勿論良い事であります。實際



色々の事情で、比較的早く離乳しなければならぬ事、又一年以上も飲ませる事、殊に離乳期が盛夏にかゝりました時等は秋まで延した方が多いのであります。

離乳の方法は色々ありますが、突然廢乳して全部他の食餌に變へますよりも徐々に廢乳の方法を取つた方が宜しいのであります。普通は先づ母乳を牛乳に代へるのであります。澤山の乳が出ます場合には必ずしも牛乳に變へてから他の食餌に移つると云ふ方法を取る必要はありません。要するに一定の時期から副食物を與へまして、之を段々に増加致します。我國に於きましては、八九ヶ月には既に一二回のお粥を加へます。一年頃になりますと堅いお粥を一日に二三回、そして牛乳を二三回と云ふやうな具合にするのであります。是等は初めは比較的薄く又量も小量を用ひます。そして徐々に非常に注意を用ひながら増量して参ります。このやうに致しませんと、消化不良のやうな恐ろしい結果を惹き起す事があります。

## 乳 母 の 乳

乳兒の榮養は母乳が第一でありまして、何等かの事情により母乳が與へられませんが、乳母を雇ひますのが一番良いのであります。乳母の乳で行ひます榮養法は全く母乳の場合と同様でありまして、只乳母の選擇に特別の注意を要するのであります。つまり乳母が全く健康で、そして乳の分泌の多い事が第一の條件であります。乳母に若し慢性の傳染性疾患、例へば結核や梅毒等がありました場合には雇ひ入れてはなりません。又他の傳染病のある場合も同

一です。次に又乳母が馬鹿でもいけません。大切な子供を托するのでから相當に教育があれば、これに越した事はありません。その他は全く母乳の時と同じであります。只注意すべき事は乳母の取り扱ひ方によつて、乳母自身が非常に家庭の勢力を得て、女王の位置を占める事が屢々ありますから、子供を教育すると同時に、乳母を教育する方針を誤つてはなりません。

乳母の年齢には左程關係がありませんが、凡そ二十歳位より三十歳位迄が一番宜しいのであります。又初産婦でも差支へはありませんけれども、一三回の經産婦の方が保育の經驗に富んで居る等の點から良いと思はれます。

次に産後の月數の關係を世間では大變喧しく申します。例へば一月に生れた子供は、乳母のお産も一月頃で無ければいけないと云ふ人があります。然しこれは誤つた考へで數ヶ月の差はありましても何等差支へはありません。

又乳母の性質は溫和で清潔と云ふ事を良く理解して居るものであらねばなりません。總て子供の保育には清潔が第一でありますから、この教育を充分にする必要があります。

若し乳母の健康を診斷する機會がなかつた時等に於て一番大切な事は、乳母の子供を観察する事でありまして、その子供が良く發育して居り、健康であれば乳母の發育も良く、又外に色々な恐ろしい病氣の無い證據であります。然しながら梅毒は傳染して來る子供と、しない子供がありますから、その子供に梅毒が表れて無いと云つても母親に無いと云ふ事は絶対に保證する事が出来ません。



### 特別な場合の乳の飲ませ方

子供が非常に衰弱して居るとか、早産で活力が無いとか、或は口の中に病氣があつて、吸ひ着く事が出来ないとか、ふやうな場合には色々な方法で乳を與へなければなりません。即ち是等の時には吸ひ付く力が無く、又疼痛の爲に吸ふ事が出来なかつたり致します。又乳を計つて飲まなければならない事がありますから、このやうな場合には時によつて乳を搾り出して瓶に入れ、牛乳の時と同様に與へる事が出来ますし、又オシヤブリに垂らし込んで與へます。或は搾り出しながらある一定のオシヤブリの機械がありましてその中に乳を搾り出すと、それが自然に口の中に這入つて行くやうな方法を取ることもあります。乳搾りの機械があつて、その機械で搾りますと、それが自然に乳口に流れ出して、口の中に入るやうな方法になつて居るものもあります。極く活力の弱い時には飲む氣力が少しもありませんから、口を開けて匙で垂らし込みます方法があります。又吸ひ呑みの口の長いのがありまして、その先にオシヤブリをつけ、それを口の中に入れて汪ぎ込むと云ふ方法も取ります。全く口を開かずどうしても飲まない時には、鼻より護謨管を入れまして、一日に數回胃の中に汪ぎ込みます。このやうな方法を取つて居りますと、段々氣力が出て参りまして乳を飲むやうになります。重い病氣の爲に乳を飲まないとか、今述べましたやうな時には色々な方法を講じ、又努力して飲むやうにする必要があります。屢々このやうな場合には、一日に二三四回も風呂に入れましたり、特別な保温装置のあります中で保育する必要があります。弱い哺乳兒は温めますと、一般に哺乳力がよいものであります。

### 人工栄養

乳兒を母乳又は人乳で育てるのは自然栄養でありまして、若し外の物で栄養を行います時には、不自然栄養であります。人乳の場合には天然又は自然栄養と申します。不自然栄養は又人工栄養と申します。私は人工栄養と云ふ言葉を以て申上げます。

人工的に子供を育てますには、餘程衛生の心得及び保育上の知識が必要でありまして、さうでないと動もすれば栄養法を誤つたり、疾病を招いたりする危険が伴ひます。そればかりではありません。人工栄養の直接の影響としては色々な病氣に罹り易く、又若し一端病氣にでも罹りましたら、天然栄養兒よりも非常にその病氣を重く經過致しますから従つて人工栄養兒はその死亡率が非常に高いのであります。西洋の乳兒死亡表を見ますと、死亡者の大多數は消化障害の爲に斃れて居ります。之は皆人工栄養の結果であります。我國に於きましては幸ひ未だ天然栄養が比較的多いのでありますから、西洋よりも栄養の病氣で斃れる数が少ないのであります。重い栄養障害に罹りますのは、我國でも外國でも主に盛夏の頃でありますが、我國では死亡率の點から見ますれば、冬期の呼吸器病で死亡致します方が多少多いやうであります。これ等の影響の外に間接に影響する點を挙げて見ますと、各々國によつて異りますが、人工栄養で育つたものは、天然栄養で育つた者より、五倍の死亡率があります。又七八倍の死亡率を擧げて居る國もあります。







第一例 健康哺乳兒營養表 (外國の例)

年齢	回数	一回量	全量	混合割合	稀釋液	全量
生後1日	茶	c.c.m.		牛乳		Gr.
2日	6	10	60	1. 2水	水	2
3日	6	20	120	1. 2水	水	2
4日	6	30	180	1. 2水	水	5
5日	6	40	240	1. 2水	水	5
6日	6	50	300	1. 2水	水	10
7日	6	60	360	1. 2水	水	10
2週	5	100—120	600	1. 2水	水	20
3—4週	5	150—160	750—800	1. 2重湯	重湯	30
2月	5	160—180	800—900	1. 1重湯	重湯	30—40
3月	5	180—200	900—1000	1. 1重湯	重湯	30—40
4—6月	5	200	1000	2. 1穀粉煎汁	穀粉	50
7—8月	5	200	1000	2. 1穀粉煎汁	穀粉	50

すから、適當な温かさにする事は必要であります、又あまり熱いのを與へますとやけどするのみならず、發熱したり發汗したり致しますからよく注意して、夏期と冬期に於ても夏期は少しぬるいもの、寒い時には比較的温いものとして與へます。

牛乳に味を付けますには普通砂糖を用ひます、乳の中の砂糖は乳糖として市賣して居りますけれど、之は時々下痢を起すばかりではなく、高價でありますから外の砂糖を用ひます。

牛乳を飲ませますには、その年齢及び發育の程度によりまして、その濃度を變へる必要があります。又同じく量も如減するのであります、然しながら人々によりまして、各々その増量稀釋の度が異つて居りますから、普通こゝに

	全乳	$\frac{1}{3}$ 乳	$\frac{1}{2}$ 乳	$\frac{2}{3}$ 乳
蛋白質	3.5	1.2	1.75	2.4
鹽類	0.7	0.23	0.35	0.46
脂肪	3.5	1.2	1.75	2.4
糖分	4.5	1.5	2.25	3.5

最後のを三分の二乳と申します。その次には全く釋めないもの、即ち全乳を用ひます。その釋めたもの、成分を比較して見ますと、次のやうになります。そしてこの釋めた乳をそのまま用ひますと、營養價が非常に低くなつて居りますから、そこでこれに色々なものを加へて營養價を高めて行かなければなりません。

この牛乳を飲ませます時には、初生兒期に於ては三分の二乳、生後十五日乃至二十日位から二分の一乳を用ひまして四ヶ月頃から三分の二乳を用ひます。そして七ヶ月目に這入りますと全乳を用ひます。然しながらこの用ひ方は人により非常に相違があります。

一例として茲に表を掛けて置きます。

牛乳の消化率と云ふものは、釋めれば釋めるだけ良いのでありますが、これは従つて水分が多くなりますから消化液を多量に要しますし、又消化液自身も非常に釋められます。故に今日は昔のやうに薄い乳を用ふるのは、實際消化に悪いと云ふ事に氣が付きまして、比較的濃厚な乳を用ふるやうになりました。場合によりましては初めから全乳を使用する事があります。そしてよく注意を拂つて用ひますと、よく發育する事が出来ます。牛乳の濃さは人乳と同じ程度の濃さが必要なのでありますが仲々さうは行きません。又風味も人乳と同じやうにする事は不可能であります、甘味は砂糖を加へて適當に直す事が出来ます。

温度は不注意で、あまり熱くし過ぎますと口を焼く事、或は又あまり冷た過ぎて、乳兒の體温を失ふこともありま



第二例 健康哺乳兒榮養表 (外國の例)

年令	一回の量及び回数	全量	混合割合	稀釋液	糖全量
生後1日	茶	適宜			
2日	6×10 <sup>cm<sup>3</sup></sup>	60	1…牛乳 1…薄い重湯	薄い重湯	5
3日	6×20	120	1…牛乳 1…薄い重湯	同	5
4日	6×30	180		同	5
5日	6×40	240		同	5
6日	6×50	300		同	10
7日	6×60	360		同	15
2週	5×100—130	500—650		同	20—25
3—4週	5×130—150	650—750	1…牛乳 1…重湯	重湯	30
2ヶ月	5×150—170	750—850	同	同	35—40
3ヶ月	5×180—200	900—1000	同	同	45—50
4—6ヶ月	5×200	1000	2…牛乳 1…穀粉煎汁	穀粉煎汁	50—60
7—8ヶ月	5×200	1000	同	同	50—60

五十四  
 挙げました様な表を示さないのが規則になつて居ります。茲に挙げました表は、只其の一例を示すに過ぎませんのであなたの御子様を外の規則に従つて育ててお出になりましても決して悪くは無いのであります。保育の方法は、實際これに携はつて居る人によつて異り、色々な方法が取られて居りますが、要は何等の障害も起さず、よく發育して行く事が必要であります、それで健康な御子様の場合でも、人工榮養を行つて御出になります方は、度々經驗ある小兒科醫に御相談なさる事が必要であります、近來保育相談が到る處に出来て居りますから、充分それを御利用なさると良いのであります。

### 乳兒の發育と牛乳の量

保育上第一に大切な問題は清潔に取扱ふことでありまして、子供の周圍は勿論食餌にあづかる人々は全部清潔を守る事が大切であります、第二は乳を増して行くのに、年齢が大きくなるに従つて、何時までも増量して行かねばならぬかと云ふ事でありまして、然しながら之は母乳榮養の時にもお話し、ました様に、一定の年齢以上は必要がありませんそれで良く發育致しません時は同様に他の食物を加へて行く事が必要なのであります。母乳の場合でも生後四五ヶ月が最高で、乳房自身の分泌も八九ヶ月になりますと多少減じて参りますのが普通であります。即ち斯様な時にも外の食餌で補ふのであります、乳兒がどんく發育する間は乳の量を増加する必要はありません、體重増加が止つた時に乳を増加致します、然し實際少しも故障なく又不足せずに發育の止つて居ることがあります、又病氣になつて發育が遅れ或は乳の量が多すぎた爲に榮養障害が初まり、この爲に發育が止つて居る事もあります。斯様な場合には乳を減じると却つて體重を増す事があります、世間には子供が適當に、發育して行きますのに、尙々大きくし様として、度々乳を増す人がありますが、これは前に述べました様に榮養障害を起す大事な原因になるのであります。

乳を與へます量は、一日量全體で九百瓦から、多くても千瓦を越してはなりません、之は人工榮養に於きまして大切な規則であります、我國の一合は凡そ百八十瓦です、そして先づ五合以上は用ひない方が宜しいのであります、一回の量は濃厚な乳を用ふる場合には少量與へます、薄い乳を與へます場合には、比較的多量に與へる事が出来ます、



次に大切な事は一回量は百八十瓦から二百瓦を限度としまして、之を越えない事であります。

### 牛乳を與へる回数

牛乳を與へます回数は、人乳の場合と同一であります、凡そ四時間の間隔を置きます、然しながらそれは又月齢によつて相違があります、生れて間もない子供は比較的屢々與へ段々減じて参ります、既に一ヶ月以上になりますと五回が一番宜しいのであります。即ち

午前六時、十時、午後二時、六時、十時  
午前七時、十時半、午後二時、五時半、九時

と云ふ様に與へます、人乳の時には多少時間の間隔が短くなりましても宜しいのですが、人工栄養の場合には、充分に時間を守る必要があります、夜間は午後十時以後は絶対に與へぬやうにして、安靜に眠る習慣をつけます、習慣さへつきますれば與へなくとも差支へなくおとなしく眠るやうになります、一體乳汁の胃の中にあります間は、三時間或はそれ以上もありませんから、古い乳のある上に更に新しい乳を與へますと、胃の中で腐敗する虞れがありますのみならず胃腸を絶えず働かせます爲に、これが消化力減退の原因となりますまに一回位回数が、多くなりましても大抵間違ひはありませんが、屢々繰り返しますと大事を惹起す原因となります。

更に繰返して見ますと、初生児は生れて二十四時間は何にも與へる必要が無いものであります、止むを得ない時に

は砂糖湯、サツカリン湯、又はたゞのお湯を二、三十瓦位なら與へる事が出来ます、然しながら成るべく與へない方が良いのであります。

その次になるべく三ヶ月間は少くとも人乳を與へたいのであります、この三ヶ月間の人乳は前に、述べました通りの後の體の抵抗力の爲に非常に大切でありますから、若し母乳が無かつた時には、人乳或は貰ひ乳をして與へるが良いのであります、古來日本で用ひられて居りました、マグリは下劑ではありますが、少しも必要なく却つて有害な事がありません。

でその二十四時間から三十時間經過致しました後には、前に述べました表のやうに三分の一乳を與へます、漸次二分の一、三分の二と云ふ様に致します、初めから二分の一乳を用ひましたり、全乳を飲ませたりする方法もありますが、斯様な事は醫師の注意によつて行ふので、一般の子供にはしない方が安全であります。

夏期は食物を減じ外に一、二回お湯を與へます、夜間など食を慾しがる時はお湯を與へると宜しいのです。

### 牛乳の調理法

牛乳は乳房より直接に飲むのでありませんから、その間に色々な危険が起る事は前に述べましたが、それが搾乳せられて家庭に這入る迄の経路は、如何な風になつて居りますか、東京附近の例を取つて御話して見ます。東京は震災前後で、大分事情が異つて居ります、震災後は牛乳が減つて居りますので、東京附近の乳のみでは足りずに可なり遠



方から補充されて居ります、千葉や埼玉、静岡等より大分這入つて参ります、この内には農家の副業にやつて居るのが混じて居りまして、此等の搾られた乳を集めたものも東京に送られて居るのであります、斯様な事は別問題として牛乳が牛より搾られ、家庭に届けられますのは幾ら近くても十時間はかゝります、時によつて十四、五時間かゝる事があります、故に冬でありますと左程恐ろしい事も起りませんが、暑い氣候でありますと、大分變化して参ります。搾乳には種々の機械がありますが、矢張り手で搾るのが一番成績が良いそうであります、搾る時にはバケツのやうな物に搾るのであります、この時いくら清潔を守つても種々の不潔物が乳汁中に這入り、同時に澤山の微菌が乳汁中に這入ります、殊に専門家でなく副業的に搾乳されます時には、かなり不潔が伴ふのを免れないだらうと思ひます。此の午後に搾り取られた牛乳は大抵その日の中に東京に持ち込まれ、夜の明けない内に一合瓶に區分して詰められ、只今ではそれを低温殺菌即ち六十八度位の温度で、四十分間位消毒致すのであります、夏の暑い時分には高温殺菌であるが、即ち百度以上の温度で充分殺菌しても尙腐敗した乳が家庭に配達される事があります。故に今日のやうな低温殺菌による消毒の時は殊に腐敗が恐ろしいのでありますから、注意致さなくてはなりません、言ふ迄もなく牛乳は色々な牛から搾り取つたのを一緒にしたものであります、併しそれは良いことで、一頭の牛から搾られたものばかりでありますと、時に成分が異つて居る事があります、多くの牛から搾られたのでありますと、互に平均して何時も殆んど同一の成分を得られるのであります。

又乳牛は出来るだけ清潔に取扱はれたもので、全く健康な牛より搾り取られ、出来るだけ不潔物の這入らない牛乳を用ひねばなりません、之等は完全な牛舎でないとは不可能であります、實際牛乳の中には糞便その他かなりの不潔物が多く含有されて居ります、牛乳は又動物の榮養に良いと同じやうに微菌の發育にもよく、培養地として吾々は日常使用して居ります位であります、若し之を極く冷い處例へば零度近くの處に冷して置きますと、微菌が多少這入つて居りましても發育する事が出来ません、出来得べくんば吾々はそれを搾り取ると同時に、その場所で氷詰にするか或は低温殺菌しまして、それを氷詰にして東京へ送つて貰ひたいと思ふのであります。一體乳は新鮮のまゝ用ふる事が大切であります、日本では多くは不可能であります故に、牛乳屋から家庭に配達されましたらなるべく早く調理して了ふやうにせねばなりません、高温殺菌を行ひますと、多少乳の成分に變化が起ります。酵素やビタミンはその幾分かを消滅致します、低温殺菌はこの點では非常に良いのであります、只腐敗の起り方は高温殺菌の場合よりずつと強いのでありますから、家庭ではなく、早く調理を行はねばなりません。

牛乳が如何に不潔であるかと云ふ事を見ますには、**下の方が尖りました瓶のやうなものの中に、一、二時間放置して置きますと、その底に黒褐色のものがたまり、その量でどの位きたないかと分ります、乳の成分を調べる事は一般の家庭では不可能の事であり、先づその不潔物の混入の程度を調べますとよく分るのであります、新鮮でありますか如何か又色々薬品を加へて腐敗を防いで居る等の奸策を施して居るか如何かを調べますのは、家庭ではむづかしいのであります、どの位の程度に變敗して居るかを見ますには、甚だしいのは、熱を加へると瓶内で凝ります、之れ程甚だしくなくても六十八%のアルコールを試験管に入れ、乳をこれと同量に加へますと腐敗して居るの**



でありましたら、直ぐ凝固してしまします。左程變化して居りません時には乳の塊が見えませんが、この程度のもは使用に堪へるのであります、種々な混和物が入れてあり、胡魔化してあるのを即ち水とか白水だとか、或は煉乳を釋めたもの等が加つて居る事があると聞いて居りますが、この様なを見分けましますのは素人では見分にくい、只色だとか舌ざわり匂ひ等で經驗のある人ならば分ります。

牛乳の調理は相當に知識のある人でないと過ちが起り易いのでありますから、女中委せなどにせず、なるべく母親が行ふふやうにせねばなりません、それから牛乳が家庭に届きますと直ぐに調理にかゝります、それは別に述べましたやうに、二分の一或は三分の一乳等適等の稀釋のものを作り、それに砂糖を加へ、その他加味すべき栄養品があります時はそれを加へて殺菌して、それから使用致します、實際低温殺菌で充分消毒出来て居りますなら、初め一本はそのまゝで使用し、その後に色々調理したものは殺菌して使用する必要があります、殺菌致しますのには、低温殺菌が良いのでありますれども、之は家庭では不可能であります故に、高温殺菌致します、之を致しますのには御飯蒸しを用ふる時には瓶の乳の高さと同じ位の處までお湯を入れましてそれがよく沸いて参りましたから、夏なら十分間冬ならば七、八分間位煮沸します、そして之を取り出して水でよく冷やしますしてから、冷蔵庫の中に入れます、ソックスレット」の牛乳殺菌器と云ふものが坊間に賣られて居りますが、それは非常に便利で瓶を立てるものがあります、それに立て、置きますので一回に何本も殺菌し得られます、この殺菌した乳は冷蔵装置の中に貯へて置かれますと、凡そ二十四時間は大丈夫であります。

牛乳瓶は色々の形があります。又度盛のあるのと無いのとありますが、度盛は時として信用出来無いのがありますから、成べくは先づ其不正を調べねばなりません、併し初めから度盛の無いのを使用する事をお勧め致します、瓶は使用後直ちに洗滌して置き、又調理前にもう一度洗滌して用ひます、吸口は英國流の長き護謨管付きのものは使用を禁じます、そして瓶口に直接かぶさるものが良いので之は容易く、而も完全に清潔にすることが出来るものでないといけません、長い管付きのものは兎角不潔になり勝ちであります。又此等は凡て毎回熱湯で消毒して用ひます。

牛乳消毒瓶は一定のものがあります、その口が護謨で出来て居りまして、瓶内の空氣が外の空氣と遮断されるやうになつて居ります、熱い瓶を外に取出すと、直ぐ瓶内の乳も空氣も多少とも冷へて收縮する爲に、瓶口の表面に護謨が吸着せられますから遮断せられるのであります、今瓶口の表面と申しましたが、實際は瓶の口の内輪の線に吸着して居るのであります故に、瓶を洗ひます時に口を壊しますと、瓶口は完全に吸着致しません、若し口の壊れて居るやうな瓶がありましたら、最初にこの瓶から與へるやうに致します、又あまり烈しく熱しますと、乳が中でおどります、吸着しにくくなりまして故に後になる程、なるべく徐々に熱する必要があります、牛乳鍋の中に乳をうつし殺菌して、入用に從つて用ふる方法がありますけれども、これは避くべきものであります、それは乳が一度沸騰すると、一合のものが十分の三位も濃厚になります、時としては焦げる事があります、斯様な乳は大きな子供には使用し得られますが、稀釋乳等を用ふるやうな乳兒には不適當であります、又夏等は腐敗する虞れがあります。又冷蔵庫の代りに魔法瓶に入れて、而も温めたまゝ入れて貯へて居る人がありますが、之は嚴禁すべき事で、直ぐ腐敗致します、若し之を善用して





氷冷な魔法瓶に貯へて置きますと却つて利益があります、又冷蔵庫にしまふのには先立つて水でよく冷し、それから貯へませんと、温くなつて居るのをそのまま入れますと、中々冷へませんから、遂に腐敗する虞れがあります、家庭に冷蔵庫の無い時は簡単に作られます、上圖のやうに、小さい箱と大きい箱と二つを用意しまして小さいのを大きな箱に入れて、その周りに錫屑と小さい氷のまざつたものを入れて、小さい箱の中に乳を貯へ、その上に蓋をし、蒲團を置き、そしてその外の大きな箱に、更に堅く蓋を致します、又急を要します時には、大小の御飯櫃があれば直ぐ出来ます。

## 食餌の種類

この人工栄養の食物は、前に申しました通りに、牛乳や山羊乳が一般に用ひられて居りますが、併しながら是等の食物の中には持続して使用する食物と、一時的に用ふる食物とあります、例へばお腹を下した場合等には牛乳を與へないで、重湯だけを用ひなければならぬ事があります此重湯は栄養價が低く、又大切な脂肪や蛋白がありませんから永く續けて行くことは出来ません、斯様に穀物のみを永く續けますと、恐ろしい穀粉栄養障害が起ります、普通牛乳は連続的に用ひます所謂常食であります、之を特別の場合には脂肪を取り去つて脱脂乳にして用ひます。

之を庭家で簡単に作り出すには、廣口のコップに牛乳を入れて冷蔵庫の中に一、二時間静に置きますと、上の方が濃くなり、下の方が薄くなりますから、その上の方の部分を取り除きますと、下の方にあまり脂肪の無い乳が得られます、若し完全に脂肪を取らうとするには、脂肪分離器を使用しますと、可成り完全に脱脂する事が出来ます、然しながら全部取り去る事は出来ません、脱脂乳即ちかやうな瘦せた乳は栄養價が低いのでありますから、一時的の用に足るに過ぎません。

又蛋白乳と云ふものがありますが、之は豚の胃の粘膜から取りましたラップ或はペグニンと稱するものを、牛乳に加へますと、牛乳は直に凝ります、その凝りましたものを袋の中に入れて吊して置きますと水が出て参ります、この水が乳清であります、出来た塊りは蛋白と脂肪がその中にくるまつて居ります、若し之を再び細かくこはして水に溶かしますと、乳清が混つて居らないものが出来ます、又乳清のみも栄養品として用ひられます、乳清中には或る種類の蛋白と、極く少量の鐵も這入つて居りますが、主に他の種々の鹽類と水であります、この凝固物をつぶして作った乳をラップ乳と申します、ラップ乳は蛋白乳の主なるものでありますから消化不良症の重態な者に用ふるものであります、又場合によつては持続性の食事として用ひられる事もあります。

その外に、吾々は栄養を顧慮しまして、色々な乳を母乳に近いものを作り、持続的の食餌として居ります即ち色々な酸乳類、ケファイヤ・ヨーグルド、鹽酸乳、和蘭乳即ち乾酪乳などを用ひたり、又バター穀粉等を加へまして、ずつと濃厚な乳を拵へ用ふる事があります、即ちバター穀粉食餌と云ふものを作つたり、又クリーム類等も用ひられます



クリームは、大體十二%位の脂肪が含まれて居ります、時にりよますと十五%から二十%も含有され居る事がありません、故にこの濃度を知りまして稀釋して使用致します。

この酸乳類とは脱脂した乳の中に於て、乳酸によつて蛋白が凝まつて出来たもので、つまり脱脂牛乳の中に乳酸を出す微菌を入れますか、或は既に出て居る酸乳の少量を加へまして、酸を醗酵させるのであります、すると一日中に醗酵して酸乳が出来ます、之を牛乳の場合のやうに色々に割つたり、或は之に穀粉製劑を加へ、營養價を高めます、そして持続的に又は治療食餌に用ひます、その外いろいろ數限りない食物がありますが、あまり専門的になりますから此處では申上げません。

コンデンスミルクは日本でも廣く一般に用ひられて居りますが、之は牛乳五合を一合五勺位に濃縮して、その中に半分程砂糖が這入つて居るものです、乳の成分は少いのですが非常に甘い爲に、砂糖を標準にして釋めます、凡そ十二%位が人乳の營養價と等しいと云はれて居ります、けれども實際に持続的に用ひますと、肥りが悪い事があります、そして又相當ひどく釋めます故に多量に飲ませる必要がありますので相當發育する事もありますが、又發育しないものも見るのであります、そして又これを使用致します時には、先づ罐の兩端がふくれて居るか如何かを注意しなければなりません、ふくれて居りますものは腐敗して居るのであります、罐より出します時には、二つ穴を開けて、一方の穴から糸のやうに出して用ひます、十二%を全乳と致しまして、二分の一牛乳を用ふる時には尙それを半分に釋めます、煉乳は穴より流れ出しました時に、糸のやうに長く引くのが良いので、口からポト／＼と落ちますのは悪いので

あります、我國に於ても近頃進歩して相當に良い煉乳が得られます、併しあまり色の濃厚なのは焦げたのがあると云ふ事を聞いて居ります、練乳には又糖を含まないのがありますが、是れは其割合を代へねばなりません、和蘭乳も罐入りのものがあります。

近頃多種の乳粉類が輸入され、又日本に於てもいろいろ作造せられて居ります、これも矢張り九倍位即ち十二%から十三%位を全乳と見て宜しいのであります、獨逸の成書を見ますと、多くの學者は之等の乳粉類は使用に堪へないものであると申してありますが、私共の経験によりますと左程ではなく、使用は出来ませんが、やはりよく注意して使用しなければなりません、即ち専門醫に相談して使用することが必要であります、私共は未だ經驗が薄く生れ立てからこれを使用致します勇氣はありませんが、相當成長した子供には使用されます、然しながら之を用ひます時には、野菜スープ果汁等の新鮮なものを加へます必要があります、乳粉類の中にも乳を主とせず加工していろいろなものを作つてあります、そして夫等は主に穀粉の製劑であります、日本に古來使用されて居ります、チ、コは砂糖と米の粉で出来て居りまして、これのみ使用して居りますと、前述のやうな穀粉營養障害が起ります、何も加工してありますで乳をそのまま乾燥したものもあります、粉乳を使用致して居ります時の注意として必要なのは牛乳それ自身やうに早く腐敗は致しません、矢張り空氣に觸れて居りますと、脂肪酸が出来まして下痢を起しますから、大きい罐よりも小さい罐を使用する方が宜しいのであります、又空氣を抜いた真空罐を使用することは最も理想的です、斯やうな營養品は價も顧慮しなければなりませんから、實際このやうな高價なものを使用して、牛乳よりどれだけ利益



あるかを考へますと、吾々は先づ牛乳による方が利益であると考へます。

### 稀釋物と添加物

牛乳は釋めます爲に營養價が減ります故に、その營養價を高めます爲に、又消化を助ける爲に、又はその風味の矯正をする等の爲に、いろいろの添加物が必要であります、生れ立ての子供には不必要でありまして、唯水又は水と砂糖のみを加へます、後になりますと、多くは穀粉煎汁即ち重湯類で稀釋致します、既に半歳近くなりますと、重湯のみでなく更に穀粒をも加へる事が出来きます、實際に牛乳を幾ら與へましても育たず、穀粉を少し加まへすと、かつと體重が増加する事を私共は屢々見ます、故に營養物としましても、この含水炭素類は重要な位置を占むものであります。

先づ重湯の場合より申しますと、大體一%から十%の重湯を作ります、それは年齢によつて違ふのであります、穀粉も矢張り一%から十%のものを作ります、この穀粉でも穀粒煎汁でも同じであります、吾々の手近にあります穀類の用ひ方に就きましては、濃厚な重湯を作ります時には米又は玄米、小麦等を初めから割り碎いて置きまして作りますと濃くなります、穀粉煎汁は普通乳口を濾す位のが一番よいので、十%以上濃いものは作りません、濃厚重湯を與へます特別な用途もありますが、その作り方は十%の割合にしてお粥を煮ます、一時間或は一時間半煮まして、細かい裏濾で濾過した後で煮つまりましただけのお湯を加へますると初めと同様に十%の重湯となります、重湯自身は相

當に濃厚でありまして、乳兒は堪へる事が出来きます。

その外すつと成長した子供は、乳の含有量少い乳粉類を加へまして、營養價を高める事があります、一般に用ひまもすの、外に、乾酪素即ち乳の蛋白を作つてプラスモン・ヌトローゼ・ガラクトサン・ラロサン等として市賣して居りますが、これ等を加へて蛋白を増加して使用する事があります。

穀粉類としては米の粉、玉蜀黍即ちコンスターチ、小麦、燕麥、くつ粉、そば粉等使用されて居ります、この穀粉煎汁を作りますのには、矢張り初め水で練り置き、凡そ十五分位煮沸しますと出来きます。

それから添加物として一番重要でありますのは、糖類でいろいろ用ひられて居りますが、一番簡單なのは蔗糖であります、之は營養障害の原因と見られて昔は處れられて居りましたが、既に營養障害の起つて居ります場合を除きましては、左程の害は無いと見て宜しいのであります、又種類の内に麦芽糖製品等も使はれて居ります、即ち滋養糖は今日一番廣く使用されて居り、又一番安全であると云はれて居ります、又マルツ汁エキスも用ひます、然しながら之は少し餘計に用ひますと便が軟かになりますから便秘に良く、又水飴も使用されます、滋養糖は多量に使用する事も出来きます、其代りに甘味が少いので、甘味を矯生する方からはあまり効果がありません、普通甘味をつけるだけの問題でありますなら、砂糖や單舍利別を使用致します、單舍利は凡そ六十%の糖水であります、釋めた乳でも五%にこれを入れますと、相當に甘くなります、時に下痢をした場合等は砂糖を用ひますと、酸酵を増長致します處れがありますから、サツカリン等を用ひます、このもの、三百五十倍が砂糖の甘さに等しいのであります、これ等は單味でも



用ひられ或は重湯で釋めた乳とか穀粉煎汁で釋めたものに、更に加へて使用する事もあります、重湯と穀粉煎汁に就ては前に述べてありますが、穀粉煎汁は百日前には用ひない方が安全でありまして、その前は重湯を使用致します若し既に半ケ年経過した子供でありますと齒が生え初めます故にその頃になりますと、含水炭素の消化が強くなります、故に濃い穀粉等を加へます外に、お粥を極く薄く作つて與へます、少くとも穀粉煎汁は乳に加へましても、又は單獨でも宜しいのであります。

蔬菜類もこの頃より少しづつ初めます、然しながら之は調理法をよく考へて行はなければなりません。

## 副 食 物

乳兒が發育するに従ひまして、單に牛乳のみではいけません、成分が不足致します、それを簡単に申しますれば、既に離乳期を過ぎた小兒が、母乳のみ飲んで居りますと、段々顔色が悪くなりまして幾ら多量の乳を飲みましても肥り方が軟くなつて參ります、それは乳のみでは發育する成分が足りない證據であります、それで吾々はある程度の年齢から穀粉煎汁等を加へて參りますが、これも矢張り添加物の形で、副食物を付けて行きます、そして此物を獨立の形で用ひますのは六ヶ月以後であります、然しながら良く發育した子供は、尙それより前から獨立食餌として使用する事が出来ます、この副食物は即ち乳兒が既に蛋白と脂肪は、乳として充分取つて居りますからその外のもの、即ち含水炭素が不足して居りますのは明らかな事、又その他鹽類が不足致して居ります、之はそのまゝでは取ること

が困難でありますけれども、蔬菜類に多量に含有されて居ります、故に此等を與へますと、鹽類の供給と、そしてある程度の特別な養素ビタミンを加へる事が出来るのであります、即ち新鮮味が加へられます、併しながら之等の副食物は最初は實際副食物として與へて居りますが、後には(一ケ年から一ケ年半位になりますと)大事な主食物となるのであります、凡そ其種類は次の五種であります。

- 一、含水炭素及び其の製劑、
- 二、野菜類、
- 三、果物類、
- 四、魚類及び卵、
- 五、スープ類、

副食物は牛乳の場合でも、人乳の場合でも同様であります。

含水炭素類は前に述べました通り穀粉或は穀粒として用ひ、或は菓子類、パン等として與へます、重湯の使用法は前に述べましたが、重湯は副食物として又濃厚な物を用ひます、即ち十%位のを用ふる事が出来ます、初め慣れない内は少量與へ後にどんぐり増加しまして相當の大きさになりますと、牛乳一本を減して穀粒を重湯の中に入れます、即ち重湯を取つた時に作りました御飯粒を一中に三匙位入れます、段々とその入れる御飯の量を多くして十杯位入れますと、相當なお粥になります、段々この濃度を増しまして、一年位の頃には完全に二回濃厚な粥食、若くは軟い



御飯を與へる事が出来ず。

又最初に副食物としてソツプを、即ち牛肉鶏肉で作りましたスープを與へ、その中に碎いた穀粒或はオートミル等を少量入れ、それも初めの内は匙に一、二杯入れて與へます、此を子供が嫌がります場合など、非常に堪忍して與へますと食するやうになります、そしてそれに慣れましたら段々増加したり、或は又外の食餌に移つります、之等は主に西洋で行ふ方法であります。重湯の外に又オネバと申しまして、御飯を炊きます時にコツプを入れて置いてその中に取りますが、これはあまりおいしくありませんし、又栄養價や濃度も時によつて異ります、即ちコツプを入れます時期によつて、相違があるのであります。穀粉類は米麥の外にはコンスターチ、其他種々のものを用ふる事が出来ず、菓子類ではかる焼き類軽いお菓子、即ちウエーハース、風船あられ、初雪等でこれらに慣れて参りますと、ビスケット、甘煎餅、カステラ等に移り行く事が出来ず、このやうにして攝取致します菓子類は、勿論栄養品として攝るのでありますけれども、元來が嗜好品であります爲に、往々その量が限度を越え易いのであります、ですから此を使用致しますのは、九ヶ月頃より初めすれば心配が少いと思ひます。

野菜類では一番早く用ひられますのはほうれん草でありませう、これはビタミンに富み鐵分も多く、カルシウム等の鹽類も相當に含んで居りますから大變珍重すべきものであります、この外トマト、キャベツ、アスパラガス、花菜、青豌豆、莢豌豆、そら豆、人参、大根、蕪の類、球根類即ち百合根、馬鈴薯、大和薯、里芋、甘藷、これら皆使用する事が出来ず、又豆腐類等で小豆はいけません、之等のものを用ひます時には、調理法が大變大切であります、殊に年齢と

發育の程度を顧慮して其の調理法も變へなければなりません、きやべつ、ほうれん草等は初めの内は勿論裏漚しにして使用致します事が大切であります、ほうれん草の調理法を簡單に申しますと先づよく之を洗つて食鹽を少し加へ二十分から三十分間煮ます、そしてよく軟になりました處で、これを裏漚しにかけ漚してそれに少量のバターを加へて用ひます、蕪類も初め小さく切りよく煮て、食鹽若くは醬油を加へて煮て味を付け裏漚しにかけます、人参の場合等も同様な調理法を行ひます、そして煮汁をなるべく棄てない方がよいのであります、それは鹽類、ビタミン類が其煮汁の中に出て居りますから其れを捨てますと、其れだけ是を失ふ不利益があるからであります、キャベツ又球根類、大根、人参等は大根おろしで下ろして煮るのであります、殊にこの人参やトマトは各種のビタミンを多量に含んで居り、割合に栄養價が高いと云はれて居ります、豆腐類は見掛けは軟でありますが、矢張り牛乳に類した蛋白が多く含有されて居ります關係から凝固し易いものでありますから相當年齢の大きい子供に與へます、豆腐より作りました豆乳も少し加工致しますと、乳兒の食物として用ひられます。これら野菜類を與へます時には、最初から多量に與へてはならないのであります、即ち初めは極く少量づゝ與へまして慣れるに従つて多く與へます、野菜類には蛋白や脂肪等の方からは栄養價が少く、他の方面より見る處の栄養價が高いのでありますから、其意味で少量なら六ヶ月目位、相當に與へますのは八、九ヶ月頃からであります、ほうれん草や、人参は之を使用致しますと便の色が變化します、即ち青く又赤くなります併しこれだけなら差支へありません、便の性質が變つたり、下痢を起したりした時には止めなければなりません。



次にスープがありますが、之も必ず牛や鶏のスープと限らず、魚のスープでもいゝのであります。スープを作り出すには、先づ其肉を挽いて水に觸れる面を多くしましてなるべく長く水中につけて置きます。この間に蛋白質が水中に溶解して來ます。斯うして後に簡単に煮るのであります。長く煮ますと芳香物はとれますが、同時にゼラチンが多く溶けます。すると液は非常に濃厚な液として見えますが、この物は哺乳兒の胃腸によつて消化しにくいものであります。から、このものが溶けない程度に煮るのであります。スープには世間で考へて居ります程栄養價はありません。即ち蛋白質などは少量に過ぎません。且つ之は煮ますと凝まり、其れを濾しますと尙減少いたします。であります。スープは夫自身としての用途があります。即ちこのスープの中へ野菜を細かに刻みまして入れ煮ますと、野菜スープが出來ます。でこれを濾して使用し、又野菜のみを普通のだして簡単に煮たのも用ひます。元來野菜スープは鹽類とビタミン類を供給する爲に使用するのであります。からあまり長く煮ますといけません。故になるべく細にきざみ、水中に長くつけて置きます。後に簡単に、二、三十分間煮て引き上げます。であります。から前以て味をつけたスープの中に漬けて置きます。簡単に煮て濾しますと、蛋白質も又鹽類も多く含有されて居るものが得られます。又ばん等をから／＼に焼いてよく磨りつぶしまして、其れをスープに入れ濁つたスープを與へます。之等は良い副食物となります。小豆は時々當る事があります。これは相當の年齢迄避けねばなりません。

果物も相當に早くから與へられます。然しながら初めの中は汁だけ與へます。これは既に生後二、三ヶ月目から與へられます。殊に人工栄養の子供の時には早くから與へる必要があります。若しあまり酸味が強い時には下痢を起す事があります。前以て枸橼酸曹達、重曹等で中和し、一日茶匙で一杯から三杯位與へますれば充分であります。七八ヶ月になりますと果物の煮たのをすりつぶして裏漉しにして、矢張り茶匙に二、三杯位與へだん／＼成長すると細かくきざんで與へます。既に一年になりますと、リンゴ、バナ、等を細かくして與へられます。唯あまり早くから新鮮な果物を其のまゝ與へますと下痢を起します。

魚類は哺乳兒には必要がありません。然しながら嗜好品として好む時には少量なら與へても宜しいのであります。然しこれは充分お粥に慣れた時から使用するのであります。即ち少くとも十ヶ月過ぎた後から極く少量鹽のデンプやおか、や小さい軽い小魚等を少量つゝ用ひなくてはなりません。そして又毎日與へる必要はありません。

肉類では鶏肉牛肉共に先づ用ひません。方が安全であります。

卵黄は割合に早くから用ひられます。然しながら實際そんなに必要のないものであります。鶏卵は世間で非常に多く使用されて居りますが、時によつて其爲に中毒を起す事があります。から注意しなければなりません。日本のみならず各國に於ても栄養價の高いものとして濫用されて居る傾向があります。故によく注意を致しまして、初めはスープに少量入れ、かき玉として與へます。或は半熟の卵黄を匙の先につけて少量づゝ與へたりする方が良いのであります。

## 栄養と日光

日光は生物には極めて必要なものであることは周知の事實であります。が北の國の冬季日光に恵まれない處では、特



哺乳兒營養表 (外國の例)

母乳の場合	牛乳の場合
<b>第一日</b> 乳を與へず (只稀れにカツカリン加味の湯茶を與へる)	
<b>二日より</b>	
5回母乳	5回 $\frac{1}{3}$ …牛乳 + $\frac{1}{2}$ 茶匙の砂糖 $\frac{2}{3}$ …水
<b>二ヶ月より</b>	
	5回 $\frac{1}{2}$ …牛乳 + 1茶匙の砂糖 $\frac{1}{2}$ …水
<b>六ヶ月より</b>	
4回母乳	1回細粒煎汁と野菜類 $\frac{2}{3}$ …牛乳 + 1茶匙の砂糖 4回 $\frac{1}{3}$ …蒸麥煎汁
<b>八ヶ月より</b>	
1回細粒と野菜 1回ツウキイバツクブライ	1回細粒と野菜汁 1回ツウキイバツクブライ
3母乳	3回 $\frac{2}{3}$ …牛乳 + 砂糖 $\frac{1}{3}$ …燕麥煎汁
<b>九ヶ月目より</b>	
	1回細粒と野菜 1回ツウキイバツクブライ 3回全乳
<b>十五ヶ月目より</b>	
	晝食 夜食 3回……牛乳一杯とパン

附記  
細粒とは細かく米、麥、をくだきたるもの  
ツウキイバツクブライとは甘味なきビスケット様のものにて作りたるどろくの粥

別な營養上の病氣が起ります、例へば佝僂病などは其一例であります、又かく特別の病氣でなくとも、人工營養の場合など、特に日光浴をさせますと、目立つてよく發育して參ります、人工太陽燈を用ひましても、やはり成績がよくなるやうです、日本でも冬季など試むべきものと存じます、又最近牛乳に、此人工太陽燈をかけて與へますと成績が好く、佝僂病の發生を防ぎ、且つ之を治療することも出来るると謂はれて居ります、是は其紫外線の働きに依りまして、かくれたるビタミンDが出濕して働くによるとされてをります。

(完)



哺乳兒食餌カロリー熱量又は温量表

量 (ccm) ...	100	200	300	400	500	600	700	750	800	900	1000
人乳...	70	140	210	280	350	420	490	525	560	630	700
牛乳...	60	120	180	240	300	360	420	450	480	540	600
脱脂牛乳...	33	66	99	132	165	198	231	247	264	297	330
蛋白乳...	38	76	114	152	190	228	266	285	304	342	380
ラロサン乳...	39	78	117	156	195	234	273	292	312	351	390
バター乳...	28	56	84	112	140	168	196	210	224	252	280
マルツ汁エキス...	46	92	138	184	230	276	332	345	368	414	460
5% 穀粉煎汁...	20	40	60	80	100	120	140	150	160	180	200
2% 重湯...	3	6	9	12	15	18	21	22	24	27	30
10% 糖類...	40	80	120	160	200	240	280	300	320	360	400
3% 單舎...	12	24	36	48	60	72	84	90	96	108	120
練乳 (ca. 11%)...	38	76	114	152	190	228	266	285	304	342	380

1/3 牛乳+2% 糖 ...	28	56	84	112	140	168	196	210	224	252	280
” +5% 糖 ...	40	80	120	160	200	240	280	300	320	360	400
” +5% 穀粉+5% 糖...	53	106	159	212	265	318	371	397	424	477	530
1/2 牛乳+2% 糖 ...	38	76	114	152	190	228	266	285	304	342	380
” +5% 糖 ...	50	100	150	200	250	300	350	375	400	450	500
” +2% 重湯+5% 糖...	51	102	153	204	255	306	357	382	408	459	510
” +5% 穀粉+5% 糖...	60	120	180	240	300	360	420	450	480	540	600
2/3 牛乳+2% 糖 ...	48	96	144	192	240	288	336	360	384	432	480
” +5% 糖 ...	60	120	180	240	300	360	420	450	480	540	600
” +2% 重湯+5% 糖...	61	122	183	244	205	366	427	457	488	549	610
” +5% 穀粉+5% 糖...	66	132	198	264	330	396	452	495	528	594	660



乳兒と幼兒の取扱ひ方

〔放送三回〕

醫學博士 太田孝之



乳兒と幼兒の取扱ひ方

目次

乳幼兒の養護と躱け方(教育)……………三  
以上

醫學博士 太田孝之氏





## 乳兒と幼兒の取扱ひ方

醫學博士 太田孝之

### 乳幼兒の養護と躑け方（教育）

夫婦の間に恵まれた愛兒を健全に育つことは、父母たる夫妻の尊い義務であります。たゞかほゆいといふ親の愛情のみでは、この尊い義務を遺憾なく遂行することはできません。我が子を抱き上げる右手にはやさしい温かな愛の血を波立させ、左手には理智の正しい親みのある神経を働かせて、はじめて我が子の健康な發育の悦びを朝な夕なに體驗できるのであります。かくして我々の生命を永遠に我が子によつて傳へ行き、親としての尊い義務を圓滿に果たすことが出来るのであります。

ラヂオを通じてお子様をもつ多くの父母の方々へ、私は皆様と膝をつきあはせて、對談する親しい心もちを抱き、私の力の許す限り出来るだけ平易に、出来るだけ明瞭にお子さまが生れてから、一二年の間の育兒について、主として養護の方面、即ちどういふ風に取扱つて行くことが、愛兒の健康を確實に保證することになるか、又た教育の方面即ちいかやうに躑けて行くことが、保健上最も緊切な要求であるか、短い時間ではあります。必要な事柄を數へあ



げてお話をするつもりであります。

最初には養護の根本になります清潔について、その意義を述べます。乳児にしても幼児にしても何れかよわい小さな身体は、抵抗力の少ないものであります。小児の生活してゐる環境はその心が純であり清浄であると同じく、少しの汚れのない清らかさでなければなりません。小さい子供に接觸する人は、神にかへまつると同じ清浄の身を以て臨まねばなりません。かくしてあらゆる病気の侵入を一步も近よせぬ準備が出来るのであります。

小児の居住する室は、どういふ方針で設備すればよいか——勿論こゝに設備するといつても、その意味は、新しい乳児室を建築するといふことではありません——どういふ室で育てるがよいか、室内の設備から光線や空気や、その温度について細かい注意を述べます。これらもすべての生活程度に共通に、且つ又た我邦の風俗に適應する保健上の要求をお話するのであります。つゞいて小児を寝かす寝具はどうすればよいか、衣服は、又お襦袢は、どういふ材料を用ひて、どういふ様式にすればよいか、寒暑に應じての心得ねばならぬ點を數へて平易に述べます。

養護の上から必要の項目である入浴はどういふ風に行つてよいか、子供をお守するには、どういふ心得がなければならぬか、抱き方お負ひ方の最も合理的な方法をお話し、最後に乳児幼児を健康に育てる躰け方について今日の、小兒科學の要求を述べます。およそ躰け方の保健上必要なことは小児の物心つく日をまつては、既に十日の葛蒲、六日の菊の後悔をくりかへすのみで、チェルニー教授も乳児の教育は生後第一日に始めねばならぬことを力説されて居ります。安静を教へ、清潔を學ばせ、規律と秩序を訓練させ、かくして強い神経を鍛へて、整調な身體機能を正しく働か

せてはじめて強健な發育が期待されるのであります。

〔二〕多くの家庭に等閑に附せられ易い躰け方をお話すると共に、とらすれば誤つた躰け方を指摘し、其矯正手段をも述べます。且つ又身體の鍛練抵抗力の増強についての必要をも叙べて、如何にもして多くのお子さまの強く健かに育ち行く私の切實な願を、廣く我邦の父として、又母としてお子さんをもつ方々へお傳へしたいと思ふのであります。



胎兒より  
三歳まで

子供の心の育て方  
【放送六回】

ドクトル・オブ・  
フィロソフィー

和田富子



胎兒より  
三歳まで  
子供の心の育て方

目次

第一講 子供の心の衛生……………	九
第二講 胎兒の感應と胎教……………	九
第三講 初生兒の精神生活……………	九
第四講 嬰兒の精神生活……………	九
第五講 幼兒の精神生活……………	九
第六講 三歳迄の教育……………	九

ドクトル・オブ・  
フィロソフィー

和田富子氏





胎兒より  
三歳まで  
子供の心の育て方

ドクトル・オブ・  
ファイロソフイー

和田富子

第一講 子供の心の衛生

春の芽生と共に新しく生れた、みどり兒の手足はすく／＼と伸びてまゐりますが、それと共に、子供の心も成長をはじめて居る事を考へて行き度いのであります。近來子供の身體の事に就きましては、可なり注意されるやうになりましたが、子供の心の事に就いては、學校や幼稚園に行く頃になる迄放任して置かれる方が、すゝぶん多いやうであります。或學者の許へ、熱心な母親がまゐりまして、「私の子供も、もう三つになりましたから、これから教育をせう／＼始めやうと思ひます」と指導を仰ぎました處、その學者が申しますには、「奥味、それは残念な事をなさいました、貴女の御子様の教育は、恰度三年手遅れをしました」と申した由であります。本當の教育といふものは、子供が幼ければ幼い程其の効果が大きいのであります。生れました日から、否、胎内に居りました時から、もはや既に周囲の影響を受けて居るのであります。

子供が生後一年から三年迄の間にいたします心の發育といふものは、人間が一生のどの時期に於てするよりも多く



又その子供の一生の發育をすっかり加へても、この子供の時の發育には及ばないといふ事が、近來心理學で證明されました。双葉の時に子供の心を放任いたしましたして、いろ／＼な害虫や悪い感化に虫ばませて了つては、後年どんなに高い教育を施しましても、決して立派な人間には成れないのであります。それらを考へますと、父母の責任は、強い身體を育て、やりますと共に、生れます前から、家庭の空氣を和氣藹々たるものとし、母の心身を安んぜしめ、子供の魂の發育の場所として、美しいホームを準備せねばなりません。子供の心を育てるために、魂の衛生準備についてこの講では御話をいたします。

## 第二講 胎兒の感應と胎教

胎生四五ヶ月頃から、延髄大脳等の神経が髓鞘を始める時期の母胎の營養、ことに、磷やカルシウムの攝取量と胎兒の神経の發育とは關係が無いものであらうか。

胎生六ヶ月頃、胎兒の平衡維持を司る神経や、小脳が成熟しますので、此頃からの胎動は胎兒の感應と密接の關係があります。ジョン・ホプキンス大學で試みた實驗に依りますと、胎動には、自發的なものと、母の精神や感情に反應したものとの兩方ある事が證明されます。

ことに母親の感情、情緒の状態は、神経系統と内分泌との兩方面から、胎兒の上に直接間接の影響を及ぼすものと考へられます。内分泌説やキアノン博士の實驗を紹介します。

以下概要だけを記しまして、詳しくは放送時間の許す限りに於て要點を摘んで申上げる心算です。

## 第三講 初生兒の精神生活

出生及び生後一週間、二週間、三週間、四週間の初生兒の反射運動、感覺、表情、感情衝動と周囲との關係を述べて感覺情緒衝動に關する實驗を御話します。ワトソン博士の幼兒の實驗パプロフの條件反射の學説をも御紹介いたします。従つて此の時期の心理學的注意、家庭教育の第一歩の注意を致します。

## 第四講 嬰兒の精神生活

生後一ヶ月から滿一年迄の嬰兒の精神發育を述べ、兒童の睡眠、衣服、食物と、神経質との關係を述べます。性格教育の基礎が此處にあります。

## 第五講 幼兒の精神生活

滿一年以後の幼兒の歩行、遊戲、言葉並に周囲の物や、人や、動物に對する感情を社會生活の一步として如何に導いてゆくべきかに就いてお話をいたします。宗教教育、道徳教育、感情教育の基礎を如何に備へたらよいかに言及いたします。フロイド派の精神分析學の稱へる「三歳迄に人格の基礎が定る」といふ點も、實例から考へて見ませう。



## 第六講 三歳迄の教育

満三歳迄の間に發育して來る精神各方面の特徴を考へて、興味の指導、言語の發達、童話、童謡、音樂、繪畫、繪本、質問に對する答へ方、玩具の選び方、家庭教育と幼稚園教育の得失、兒童の交友、性教育、家庭及社會に對する指導に就いて、總括的に結論いたします。

—【完】—

## 畸形兒の話

【放送三回】

醫學博士 陰山 案



# 畸形兒の話

## 目次

一、如何にして畸形兒は生るゝか	九	七、脊椎後屈症	一九
一、先天性畸形	九	八、脱腸	一九
二、後天性畸形	一〇	九、指趾の畸形	一九
二、畸形の種類と其概要		十、肘膝の屈曲症	一九
一、兔唇と狼咽	一〇三	十一、彈撥膝	一九
二、耳の畸形	一〇三	十二、先天性股關節脱臼	一九
三、顔や身體の痣	一〇四	十三、〇字脚 字脚並に下腿骨彎曲症	二三
四、頸や肩の瘤	一〇四	十四、足の畸形	二四
五、斜頸	一〇五	十五、先天性骨發育不全症 骨脆弱症	二五
六、脊椎側彎症	一〇五	十六、小兒麻痺による畸形	二五
		附圖 四葉 入挿寫眞	十二葉

醫學博士 陰山 案氏





## 畸形兒の話

醫學博士 陰 山 案

### 一、如何にして畸形兒は生るゝか

#### 一、先天性畸形

先天性の畸形は現代の醫學の知識では獨逸の學者、ホツファ先生の區分によりまして、更に之を**特發性畸形**、と**續發性畸形**に分類致します。特發性畸形は胎兒が成立する初期に尙未だ細胞連續せる状態、即胚葉を形成して居る節に細胞に自然に不足の個所、即細胞缺損部が、存在する時に參るものでありまして、何等外部よりの刺戟なしに生ずるものであります。續發性畸形と申すのは胎生初期の細胞序列は完全に成立して居るものが、胎生の或期に外部よりの暴力を受けて細胞の序列を亂す等の事がある場合に起るのであります。更に明瞭に申上げますと、**特發性畸形**の出發點は婦人側では卵子、男子側では精子に非生理的な状態がある場合、卵膜或は胎兒原形に發育障礙がある場合に參るのであります。卵膜或は胎兒原形の發育障礙は遺傳關係が存在して居て、よく云ふ**隔世遺傳**と云ふ様な形式でも



出現して参ります。又不思議なことには或種の畸形は男児に多く、或種のは女児に多い等のこともあります。續・發・性・畸・形は遺傳は致しません。之は全く妊婦の用心如何にて豫防も出来、成立を促すことも出来るのであります。妊娠の初期に胎児に暴力が作用する様な原因を作ることにより起るものであります。胎児に動搖を與へたり、突撃的な暴力を加へたり、することが畸形の因と認めらるゝことは往々見受けます。甚しい場合は胎児が死産するやうなことは、已に御承知のことでありませぬ。之等の暴力の最多く來ますのは胎児が保存されて居る羊水を充たして居る羊膜と申す部分に來る變化でありまして、羊膜に外傷が加はつて其爲め、胎児と癒着し、其間に索狀物などが形成せられ、之が胎児の四肢に巻き纏き、栄養障礙を來し、四肢の發育障害ある兒が生れたり、甚しきは手足が切れた兒が生れる様なことがあります。産科で見ると臍帯の頸部纏絡などが生ずることもあります。更に最も多いのは羊膜に外傷が出來ますと、之が月日の経過と共に普通の様に成育することが出來ず、從て狹隘なる羊膜内で胎児が發育しなければなりません。之を醫學上では強迫姿位と申し、最も畸形が出來易い狀況を形成致します。即胎児が自由に發育致さうとしましても、運動や發育の範圍に制限を受けますから、體全體として發育が不全になるか頸が曲るか、手や足が無理に壓迫せらるゝ等の事も生じ、十ヶ月の胎内生活の間に畸形が成立してしまひます、次に恐ろしいのは羊水の不足の場合でありまして、之が爲めに胎児が自由に運動することが出來ず、遂に胎児の體中に畸形を作ることがあります。其他母體の子宮壁に腫物が出來て居て、從て子宮腔が狹隘となる爲め強迫姿位に胎児が置かるとか。婦人科的の疾患が子宮附屬器にある場合も畸形形成の因となることがあります。如斯子宮内の強迫姿位の爲め來る畸形を加重性畸形と申します。

胎児内に何か疾患が存して居る場合には、健康なる胎児の場合よりもより多くの場合に於て加重性畸形に陥り易いのであります。第一位に胎児の腦神經に異常があります時、次に骨系統に病患がありますとき、所謂胎生時尪病などがあれば勿論のこと(下腿骨屈曲症寫眞参照)、其他軟骨組織發育異常症、骨發育不全症、骨脆弱症などが存しますれば、一寸法師が生れたり、生れる前から手足の骨が數ヶ所折れて生れたり、又此骨が不規則に繼がる爲め手足が曲り屈つた兒が生れます。(最後骨脆弱症寫眞参照)。

## 二、後天性畸形

後天性畸形に就てホッフワ氏は二種を分類して居ます。第一種類は其原因が分娩中に起つた場合でありまして、産中に初生兒が受けたる外傷により起る不幸であります。筋肉の皮下断裂症、腦出血、骨折、關節捻挫等が之に屬します。第二種類は御産は無事に済して居にも拘らず、其後年月の経過する間遭遇する病氣又は外傷が因で來るものであります。之等は其原因も比較的明かでありませぬから、豫防や治療の方針も先天性のそれに比してはつき易いことと思ひます。簡単に申上げますれば、小兒の臥せ方により頭形に變化を來すことや、兒童が腰掛けの高さと机の高さの割合により或は右に、或は左に脊推が屈曲し、所謂習慣性脊推側彎症を起すことや、兒童に餘り重荷を負はせる様な習慣より、乃至は不斷に立位を餘儀なくせらるゝ商店の若い店員に職業的扁平足が生じ或は靴の持ち方が一側に偏する





手術前



手術後

爲め體位に畸形を生じ、衣類の狭隘なものを用ふることにより鳩胸其他の不自然なる體格を生じ、其他病氣としては尙儂病、骨軟化症、骨髓炎、梅毒、結核、筋肉、臃腫、皮膚の外傷疾患、神經系統の疾患にて小兒麻痺、リツトル氏病等が起り之によりて跛行を來す様になるものであります。之等は後天性畸形に組入るべきものであります。

## 二、畸形の種類と其概要

### 一、兔唇と狼咽

三ツ口と俗に申す、之は生れると直に氣がつく畸形で、人目につき易く、家人特に夫は妻に三ツ口の小兒を見せると疔氣にでもなりはせぬかと心配する位です。治療には心配の要はありません、一日も早く其途の醫師に御連れ下

さい上唇のみならば直ちに手術が出来ます

上唇のみならず、上顎骨、口蓋迄も裂けて居る場合があります。此場合の治療法は特に専門家を要します、一般には哺乳兒では口蓋破裂の手術は困難であると云ふので、只上唇のみ縫合し口蓋破裂は其儘放置致しまして、後日之を縫合致さうと試みますが、左すれば其子女は一生言語が普通に話せぬ不幸者と成つて仕舞うのであります。米國ではブローフィーと云ふ齒科醫師が開いた口蓋の骨を、銀線で近く引き寄せて置き、口蓋の破裂を縫合して成功して居ますが、此法は齒列を亂すと云ふ缺點があります、然るに此手術では吾が日本に非常に有名な醫者があることを申し上げます、之は東大整形外科の××教授で氏は開いて居る口蓋の骨即齒槽突起と申します部分を毎日毎日指で押しますと近寄ります、二三ヶ月に及ぶと寄せた骨が開かない様になることを見出されました、如斯上顎骨を近寄るだけ寄せて置て、口蓋の開ける部分を手術で縫合せますと、割合に困難なく治療が出来るのであります。此治療法は日本獨特で吾等は世界的に誇りとして居るものであります。でありますから我々も口蓋破裂の子女には生れると直ちに手尖を用ひて口蓋の骨、即齒槽突起を壓迫して近寄せることを試みます、押しは絆創膏で口唇を寄せてをき、匙にて乳を飲ませます、斯うして二三ヶ月経過しますと手術を致しまして、目下では成功する様になりました。従つて此等の子女は言語も自由に話せますから、將來畸形兒としての不幸から免れる事が出来ます。

### 二、耳の畸形

耳の缺除したるものに耳を造ることは甚だ六ヶしいことですが、耳の半分無きものを補足したり、耳輪が皮膚の下



に陥致する様なものは、之を器械や硬護膜等で治療することが出来ますから、生後直に其専門の醫師に御連れを願ひます、一年未滿の小兒で周圍の者の自由になる時機が必要です、二歳以後で小兒の手や腕の力が強くなると無意識に手尖にて、器械を取除くため治療が困難になります、十歳以上、子女に自ら治療の物心がつけば、また治療は出来易くなります。

### 三、顔面や身體の痣

先天的に顔面や身體の皮膚に赤痣があることがあります。之は血管腫と云ふ腫物で捨て置くかと擴がりますから、可成小形の時に切除するか、「ラジウム」で跡の残らぬ様に焼くがよい様です、母斑と云ふ青色の痣も同様で、之は「ラジウム」が及かないから、手術によるより外に方法がありません、時機を逸しないやうに致さないといけません。

### 四、頸や肩の瘤

先天性に頸や肩の部分、或は胸部等に瘤が出来て居る事があります、之は淋巴管腫と云ふ腫物ですから、捨て置く時には腫大して後には手術が大袈裟になりますから小さい内に其途の醫師に連れて行き除去して貰はねばなりません。

### 五、斜頸

斜頸は生れた許りの時は氣が付かないことが多いやうです、只頸の一方の側に硬い抵抗物が骨ではないかと思ふやうに手で觸れます。之れに二種ありまして御産の時に出来た新しい腫物の場合には、多くは血の固まりですから、その凝固物が自然に吸収して消散するを待つてよろしいのです。其後尙御産以前胎内より存在するやうな、纖維が指尖に觸るゝやうであるならば、専門の醫師を御訪ねになつて御相談なさるがよろしい、必ず醫師は其子女の將來の容貌の爲め、顔や身體の不平均の起らぬやうに、又手術を致しましても現今は皮膚に目で見ゆるやうな痕跡を淺さぬ様巧妙に硬き纖維を延長する手術を致しますから、此點は現代の醫學に萬事を御任せになつて宜しいと思ひます。尙斜頸の中に頸の一侧に硬結を觸れないものもあります、即骨が曲つて居ること、或は單に習慣性のもなどもあり、神經が麻痺して居ることなど種々でありますけれど、其都度遅れないやうに見せるが宜しいのです。

### 六、背推側彎症（脊骨が横にくの字に曲る病氣）

此畸形は外國には數多いが日本には比較的少ないやうであります、哺乳兒の頃には餘り見當らないのが成長と共に五六歳より明瞭になつて症状も人に見えて來ますから、之は其時代になつたら注意しないと云はせぬ、此場所には詳説は略して置きます。



## 七、脊椎後屈症（背骨が前に「く」の字に曲る病氣）

此病氣は結核と云ふ病氣が脊椎骨の中に宿り、其骨の中で其小兒の姿勢で一番力の加はる部分が病的に骨折を來し碎けて參り、其爲めに畸形を起すので所謂後天性の畸形であります。此病氣は病みたる骨が幼兒の頭及上體の重荷を運搬する勞作に堪へぬ爲めに碎けるのであることを知らぬ人が多い爲め、此病みたる背骨に力の加はらぬやうな方法を取ることを等閑にし只内服藥や注射藥乃至は放射線療法などのみを以て治療を加へられることを不思議に思つて居ません、之は非常な考へ違ひであります、注射、内服藥、放射線皆無効なものはありませんが、背骨の病的破砕が脊骨に器械等の補助器を用ひて豫防せられない場合には、其破砕して行く損耗は内服藥、注射藥、放射線療法の一部を用ひても補ふことは出来ません。毎日治療を受けながら病患は重つて參ります。それでまづ致さなければならぬことは體の動搖の爲に背骨が自然に碎けて行く、即病的壓迫骨折を豫防する爲めに「ギブス」繃帯を巻いて貰ふか、之に類す補助器を附けて貰ふことでもあります。然る後に建設運動として體力の増進を計畫致さねばなりません即内服藥、注射藥、日光浴、空氣浴、人工太陽燈等結構であります。之が前後致さない様に心掛けて頂かねばなりません

## 八、脱腸

脱腸に關する知識は、他の畸形のそれよりも比較的多く普及して居て、脱腸は捨て置いては生命に危険を及ぼすことがあることは知られて居り、鼠蹊部から陰囊に亘りて、哺乳兒が啼泣する際腫物が出来る時は直に脱腸として、醫師

に診せるより以前に藥店から脱腸帶を取り寄せて用ふる方もある位です。已に御存じの如く脱腸に種々ありますが哺乳兒に遭遇するものは股の基根即鼠蹊部に先天性に腹膜の囊狀物が垂れ下り、此囊狀物の中に乳兒が啼泣し腹壓が加はる際に、腸が下りて來るのであります。屢々陰囊水腫と間違へられることがありますから、必ず一度専門醫に診察を乞ふが宜しい、之に對する手當を一言致しませう。乳兒の脱腸も箝頓したる場合（一度脱出した腸が腹腔内に還納せぬ場合を申します）には時を移さず手術をして處理致しませぬと、腸管閉塞症の爲めに死亡します、然らば何れの例にも手術したら良さうなものです、乳兒は麻酔に弱い事と尿管閉塞症の爲めに死亡します、縫合部が化膿して不快な結果を見る事がありますから、乳兒から五六歳迄は脱腸帶を用ひて治療し、不治の場合は學齡に達する前に手術を受けるが宜しい。今脱腸帶は就て一言しませう。之は藥店に賣つて居ますが、出来合ひでも専門の醫者に見せて、丁度脱腸の出口を上手に押さへるやうに合せて貰ひ、他方母親は指尖にて脱腸の穴を捜り、充分穴の所在を知らなければ、穴以外に鈕を當ても治療にはなりません。充分此點を了解された母親にて、帶にて脱腸を治療せしめた例は數少くありません。少くとも一年に一回も脱腸を穴から起さしめない決心で帶を爲さなければ治療は六ケしう御座います。通常は注文で帶を體に合せて作成します只脱腸帶が出来ない乳兒があります、非常に神経過敏で、帶を占めては睡眠も出来ず、榮養も害せらるゝと云ふ場合、脱腸の穴が大きすぎて鈕が間に合はない場合、之等の際には充分氣をつけて置て、箝頓せぬ限り放置し學齡近くに手術致すやうにせねばなりません。

今一つ臍帶脱腸に就て一言致しませう。之は昔から一錢銅貨を紙に巻き、臍部を押壓し、絆創膏にて固定すれば瘡



ると申す。其言の如くです、直ぐ治療せしめることが出来ます。只注意すべきは絆創膏を長くし、背を廻して臍部を両側から押さへ、水引を懸けるやうにすることを忘れてはなりません。背を廻さずに前方だけで固定する場合は皮が持ち上がりますから、脱腸が顕はれます。従て効果はありません。

### 九、指趾の畸形

此内に含まるゝものは指趾の多すぎるもの即贅指症指趾の不足にて居る指趾缺損症、指趾の間に膜にて連なる駢指趾症及指趾の一二が特別に大き過ぎるもの、巨指趾症等であります。之等の症は専ら遺傳に因せるものが多く、人から見られて恥しい爲め現今では生れると直ちに専門醫に参りますから、遅れずに治療が出来る様です。實際之が治療は専門醫に取りては困難な事では無いのですから生れと直ちに診療を乞ふ事を勧めます。

### 十、肘、膝の屈曲症

本症は腕や大腿の筋肉の一部が索條となつて、そのため肘膝が屈曲した儘の状態に皮の下で引吊りが出来て居る爲めに來る病症でありまして、親に在りては年が経たら癒るだらうと時節を待つても駄目です、専門醫を訪ひて診察を乞ひ、經驗ある按摩手に皮の下の不自然な索條物を揉み切つて貰はねばなりません。二三週間で治に就くものです。

### 十一、彈撥膝

之は前者とは反對に膝の關節が伸過ぎ、反對に前方に屈曲する状を呈するものです。手にて後方に屈曲しますと抵抗

があつて屈りますけれども、手を放しますと、丁度發條を引くが如く、「ピン」と音がして前方に屈曲します。之も治療は至つて簡單です。自然の位置に屈曲せしめて、後方の伸び過ぎて居る筋腫が攣縮して正當の長さになる迄、器械又は「ギプス」鞘等を用ゐて固定いたします。二三ヶ月の経過にて治に赴きます。但生後直後で無いと、膝關節の骨に形狀の變化を來しますと治を促すに長時間を要する理です。

### 十二、先天性股關節脱臼

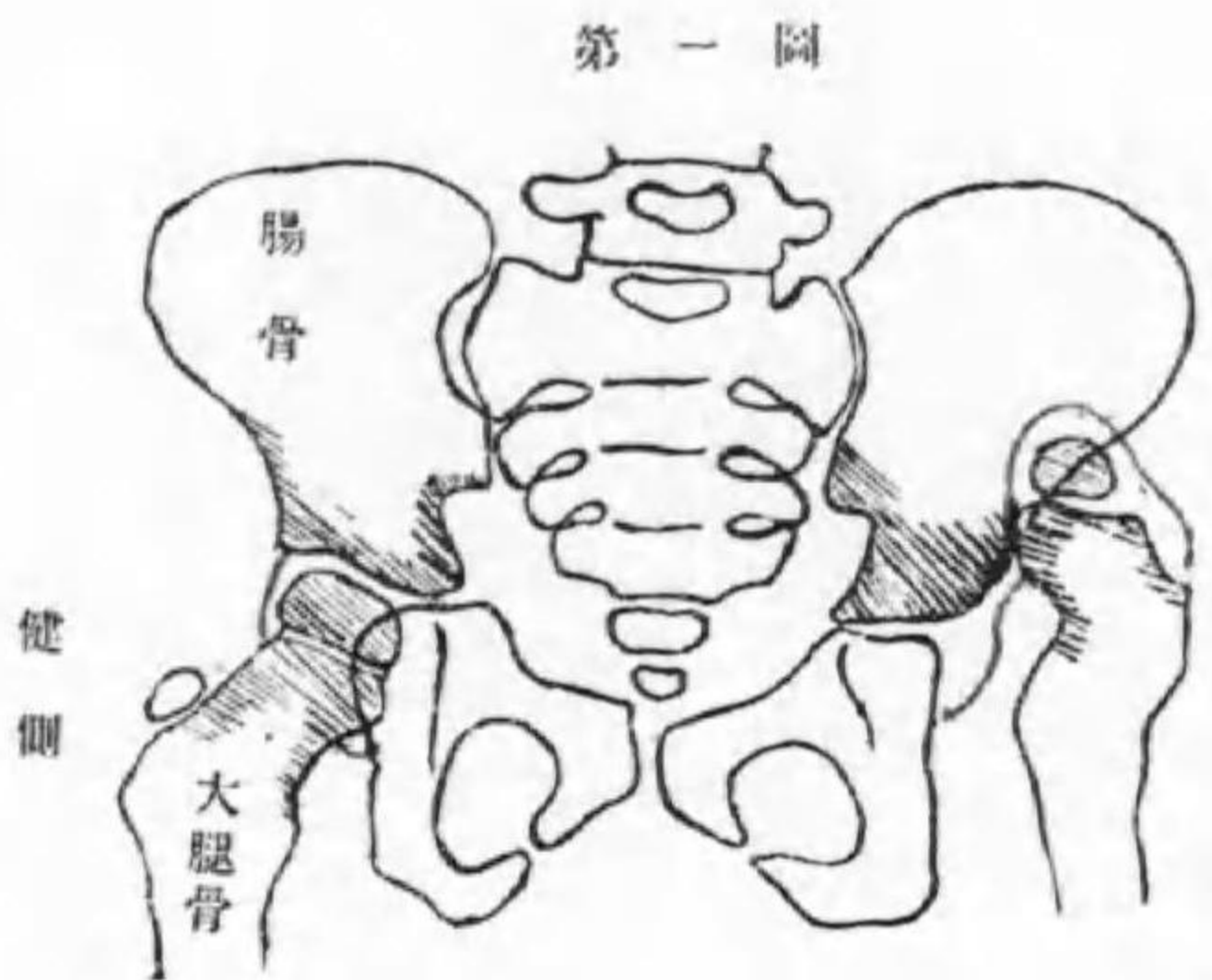
脱腸は男兒に多く、先天性股關節脱臼は女兒に多いのが統計の示す所です。何故に本畸形が女子に多いかは中々一朝一夕には定められない難問です。本畸形は讀んで字の如く股關節部で大腿骨が脱臼して居ますから、幼兒を直立させますと足の長さに差があり、歩行させると跛行します。然し疼痛がなき爲め患兒に苦痛はありません。兩側が脱臼しますと臀部が突出しますから、歩行時更に醜形を伴つて参ります。氣が付き次第直ちに、専門醫の診察を受けX線寫眞を取つて診察を受けるが宜しい。此畸形の手當は以前は「ギプス」繃帯が尿尿で汚れて治療が致し難いと云ふ見地から、乳兒が便通を母親に訴ふる様になつてから治療を初めるがよいと申されて居ましたが、總て畸形は放置して置く時には、患部に骨や關節囊の異常が甚しくなり、治療に時間を取る様になる爲め目下は氣が付次第治療を始めます。勿論専門醫でなくば困難です。其方針は普通外傷で來る脱臼と諸種の點が異なりますから、其點を申し上げ、患兒の兩親が之を治療するに充分の忍耐を要するものであることを申上げましょう。第一に普通外傷で股關節の脱臼したるも



のは単に關節囊が裂創を生ずるのみで、再度此裂目を通過して骨頭を關節囊内に收めますれば、後療法は關節囊の裂目が治癒する迄二週乃至三週で復舊するのであります、然るに先天性股關節脱臼の場合は關節の屋根が破壊して、柱である大腿骨頭を受ける場所が缺除して居ること。關節囊は存在して居ても伸過ぎて居て骨頭を關節窩に近づける働が缺除して居ること、の二點が主要の事項であります、之が治療は關節窩の端に當る部分、即ち骨頭の突き上げる力を受ける部分(髌白蓋)を充分に形成せしむること。之と同時に伸過ぎたる關節囊を運動障碍の起らぬ程度迄擧縮せしむることを致すので御座います。然も之は骨を修繕して作ると云ふものゝ、生體の成長力に依頼するのでありますから、一週や二週間では出来ませぬ。伸過ぎた關節囊を縮ませることも同様三週以上は要します。圖解を御覽下されば自ら明瞭となつて参りませう。斯くの如くして整復時ともに二度又は三度「ギプス」繃帯を掛け直します間に時間から申せば五六ヶ月位の経過の間に不足せる部分の骨の發育を來さしめ、同時に囊の變縮を計り、今度は大腿骨を沿直にして歩行しても骨頭が關節窩内部に止まり、上體の重さが直接大腿骨頭に及ぶ様になつて参ります。之が即治癒した理になるのであります。此際關節運動障害が残りますれば按摩法を施して運動を舊に復する様致すのであります。場合によりては先天性股關節脱臼にても關節窩縁が破壊されずに居ることもありますが、之等の際には單に關節囊の變縮に要する時日三―四週間にて歩行せしめ得る様な場合もあります。何れにもせよX線寫眞を相手にして経過を觀望して参ることが必要であります。

患側

第一圖說明



健側

大腿骨頭は關節腔に納つて居て腸骨を下から支へて居る、赤線は關節囊の方向を示します。

患側

大腿骨骨頭は關節腔外に脱し何等上方

に支ふるものがありません、只腸骨の後面に觸れて居るのみです。下から突き上げれば關節囊が力になるばかり。赤線は健側に比し伸びて居ます。

第二圖說明

健側、第一圖に同じ

患側



健側

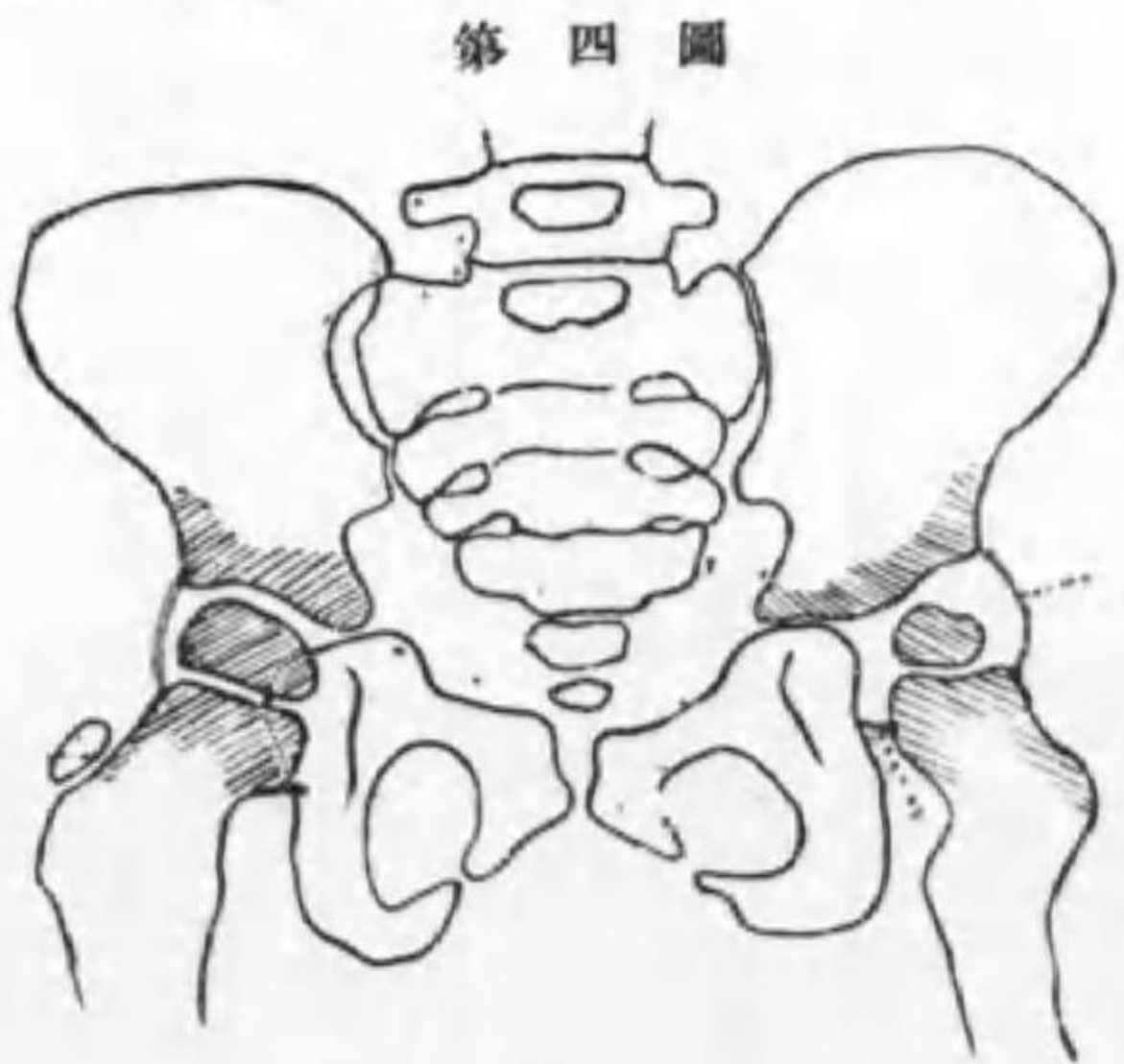
患側、第一圖に同じ。此際關節腔の中央と思はるゝ部分を突くことが必要です。餅に筒を入れるとき、丸き形の餅の中央を壓せば周圍が高くなり、中が凹みます。其理屈に似通した工合があります。關節腔の中央を突くときは其周圍の骨が新生されて來ます。關節囊(赤線)は整復された爲め皺襞を作ります。



第三圖、治癒の圖

第三圖の患側大腿骨を起立位に持來しても、關節腔が形成せられ、骨頭を受ける部分が新生せられたると、關節囊が短かくなつた爲め、骨頭が再び脱臼することはありませぬ。

第一圖より第四圖の様に患關節に變化を興ふことが、先天性股關節脱臼の治療であります。此圖は可成重症の説明ですが、約六ヶ月乃至一ヶ年を要します。

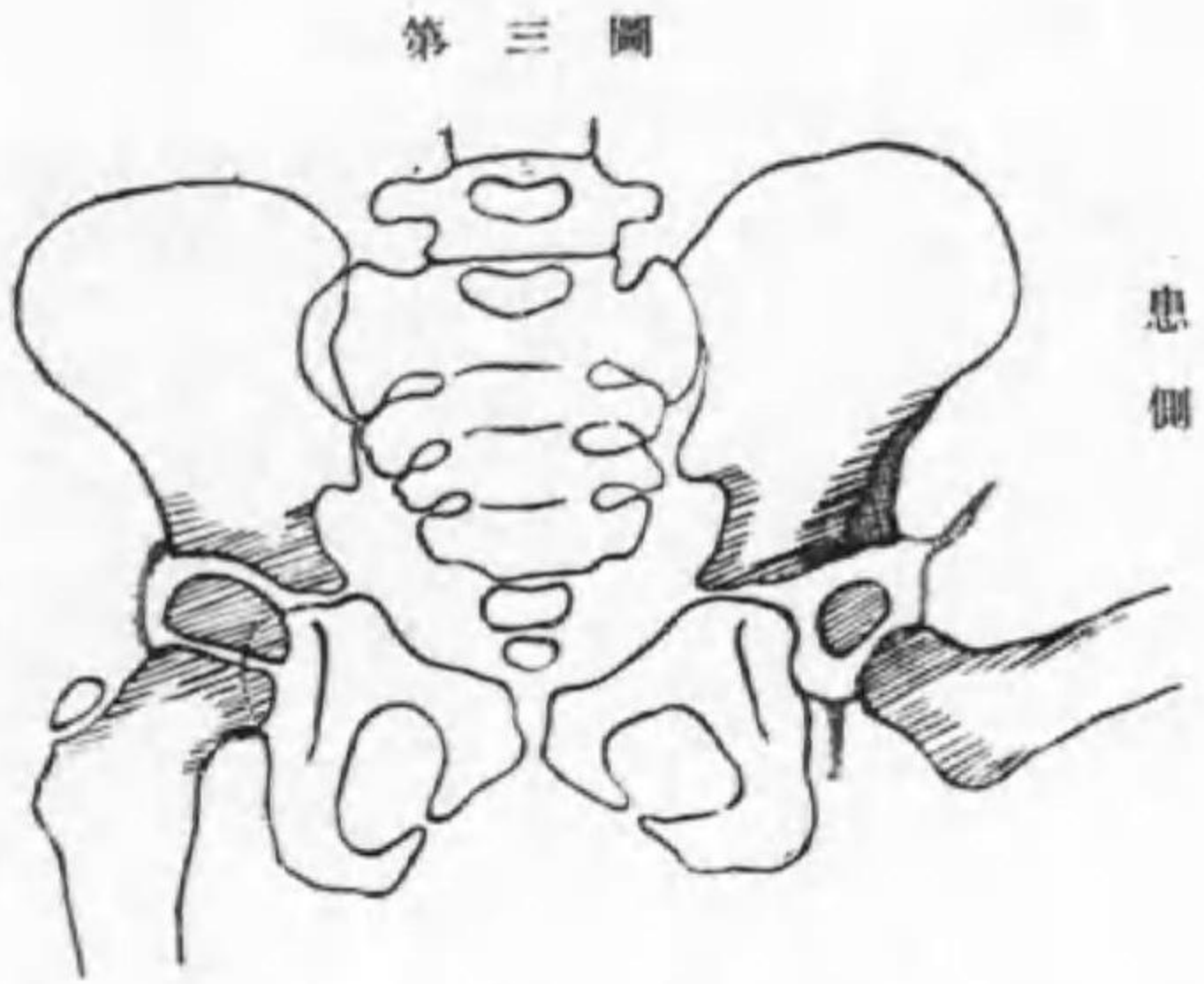


健側

第四圖

患側 大腿骨  
骨頭が關節腔の中央を突く爲め、其周囲の骨質が増殖し、特に關節腔の上縁に骨質が増殖します(赤線の交又せる部)關節囊は皸裂をなしたり

第三圖說明



患側

第三圖

健側

しものが漸次癒着して、次に挛縮を示す様になる。

如斯状態となれば大腿骨を縦てに移動して、兒童に起立位をとらしめても最早脱臼することはない。

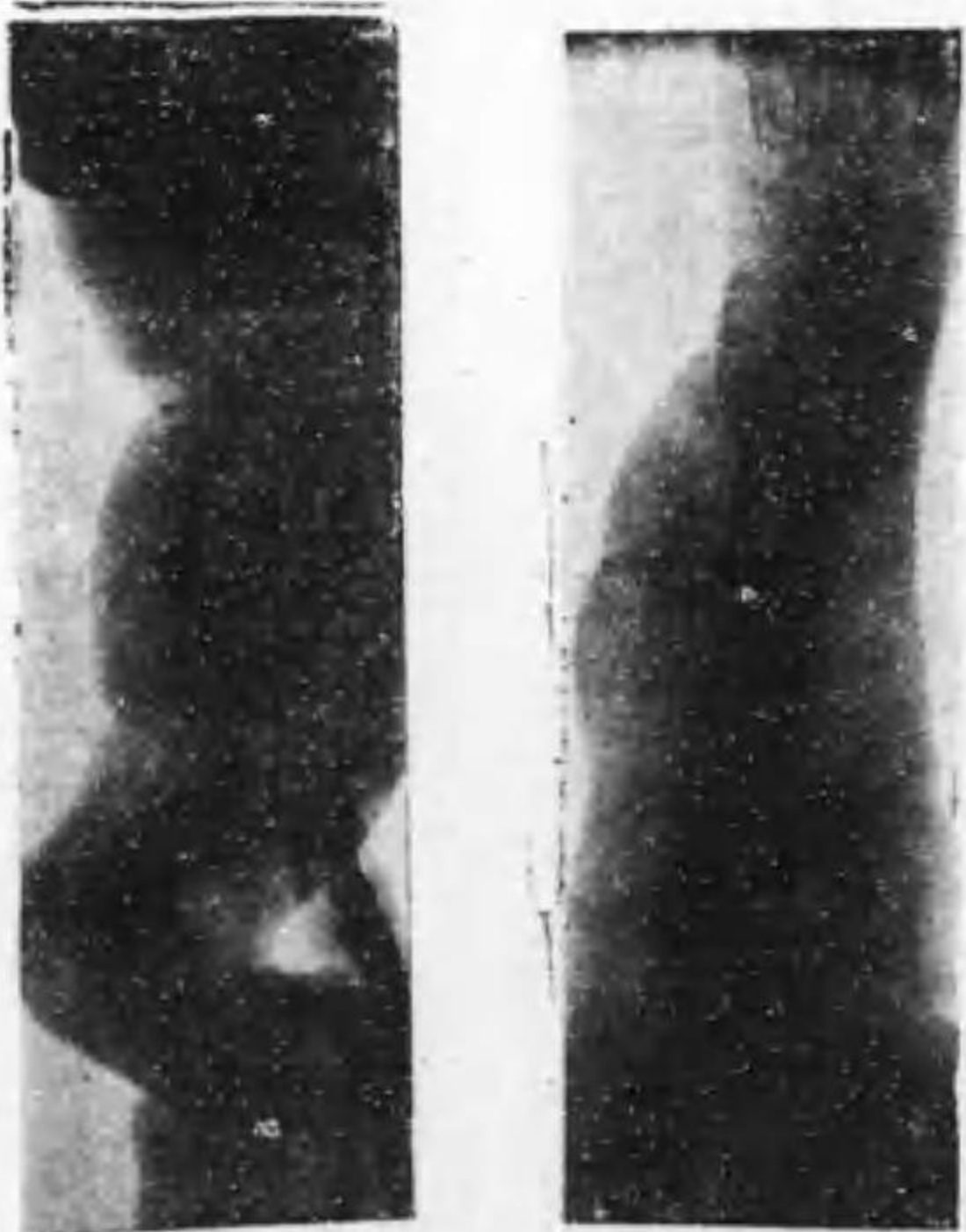
十三、O字脚、X字脚に並下腿骨屈曲症 (寫眞参照)

之は生後佝僂病が原因となりて參る疾患であります。中々遭遇致します。膝關節が内方に屈曲すればX字脚となり、外方に屈曲する時にはO字脚となります。又下腿骨の内脛骨が屈曲して「く」の字形になることがあり、之等は可

中、療治脚字



北



後前療治症曲屈骨腿下

成早く整形手術をなして整骨し、補助器を使用しながら歩行を許し、病氣の再發を惹起しない様にしながら一二年間を經過する内に補助器を除去出来る様になるのであります。勿論補助器使用の時は骨の再生機轉に並なうのであり



ますからX線寫眞を撮影しながら検査を續行致さねばならないのであります。

#### 十四、足の畸形

之に數へますのは内翻足、扁平足、跟骨足、馬足等が御座います。何れも先天的に參るのですから、生後可成早期に、骨や髓等が畸形の形に固まらない内に治療を初めねばなりません。早期であれば畸形を單に按摩法と之に依る固定法との二つで治療することができますけれど、二年以上を経過したもになると切髓術をなすとか、髓短縮術をなすとか、種々の外科的手術を必要とする様になりますから、此點は兩親に當る看護者の充分理解して頂きたい點であります。

#### 十五、先天性骨發育不全症、骨脆弱症

本症も一年に二三人位私共は遭遇致します。骨折を起し易く、下肢の骨が大腿、下腿の二個所で骨折する故屈曲する上に短縮し、實に畸形が甚しくなるのであります。時に左

中、療治脚字



其二

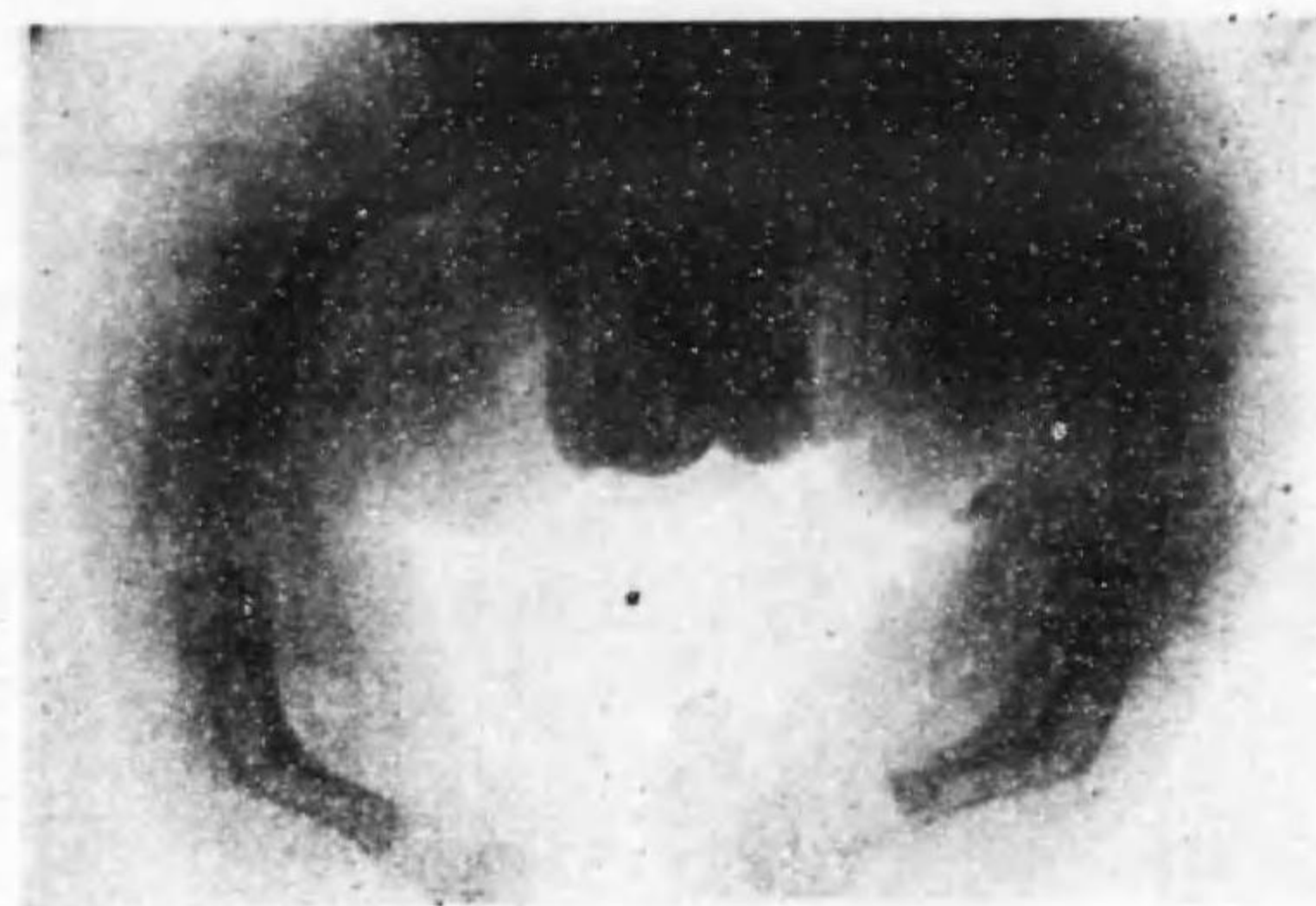
右の上膊前膊に骨折を見ることもあります。之を全身栄養を採らしめることにのみ氣を取られず、早く整骨して固定して置き、然る後栄養療法に歸ることが必要であります。生後間もなき乳兒にても手術には案外よく堪へるものがありますから、不取敢専門醫に診察を受くる必要があります。(寫眞参照)

#### 十六、小兒麻痺による畸形

小兒麻痺は通常は脊髓前角炎と云ふ病氣をして後に來る病症ですから、所謂後天性の畸形であります。手や足の一部が自發的に運動不能に陥るので見出されます。捨て、置けば畸形を遺す様になりますから注意の要があります、以上は大體畸形を略述しましたが治療法の詳しきことは御話の間に申上げたいと思ひ略しました。

—【完】—

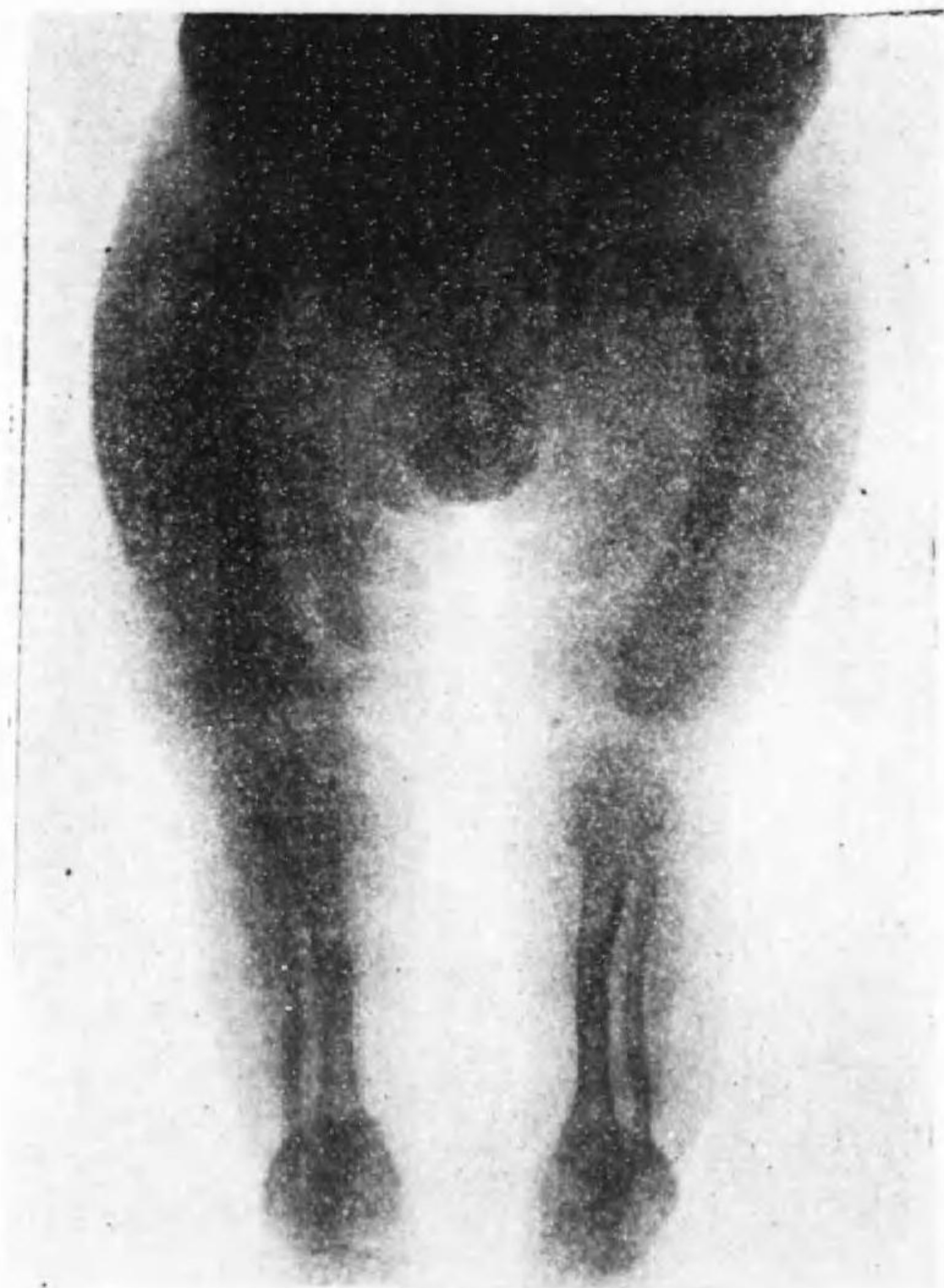




時産山(一)症弱脆骨



骨整テ = 術手(二)症弱脆骨



年一後骨整術手(三)症弱脆骨



妊娠より分娩迄

【放送三回】

竹内茂代



# 妊娠より分娩迄

## 目次

一、胎教(肉體上精神上).....	一三
二、妊娠中に起り易き病氣.....	一三
三、妊娠中の運動.....	一四
四、初着と襦袢と寝具.....	一五
五、産室と備品及分娩具.....	一五
六、産婆を定むる標準.....	一六
七、自宅分娩と入院分娩.....	一七
八、初産を親里に歸る習慣の可否.....	一七

竹内茂代氏





## 妊娠より分娩迄

竹内茂代

### 一、胎教

胎教など、甚だ儒教めいた古い言葉であります。遠く三千年の昔から唱へられた胎内にある兒に、其影響の大きいことは今日の醫學上いろいろの形に於て立證され、人爲的によき影響を及ぼし得る事から優秀な子孫を次代に送り出すために胎教の必要を説かれて居ります。

胎教と申ましても精神的方面ばかりではなく、肉體的方面にも非常の影響を與へます。胎兒の始めは單なる一の卵と、精系の結合したもので、顯微鏡の強廓大でやうく見得る程度の細胞が、二百八十日の間に三千グラムの重さの胎兒と、五百グラム以上の胎盤と其他の卵膜羊水等のものが細胞分裂によつて出來上るのでありますから、これに要する體要素は皆食物中の養素が血液となつて送らるのであります。其れ故如何なる程度にどんな物を食べてよいかと、精神の持方が如何に其子供の生後に影響があるか等について詳しく放送いたすつもりであります。

### 二、妊娠中に起り易き病氣

妊娠は一種の生理的作用でありまして病氣ではありません。然し妊娠中は種々の病氣に犯され易く、又其病氣も重



症に陥り易いことは事實であります。其れ故特に妊娠中の攝生としてこれ等の病氣について如何にすべきかを大略申述べるのであります。茲に述べる病氣は特に妊娠に係属しておこる病と、特別妊娠に深い關係を持つ病氣とについてであります。其れは惡阻、脚氣、腎臟炎(浮腫)、子癇、尿毒症、妊娠中の出血、流産早産、子宮外妊娠、葡萄狀鬼胎、前置胎盤等について詳しく御話いたすことと致します。

### 三、妊娠中の運動

妊娠中よく運動すればお産が軽いとは、昔からの教へです。又一方近頃は大切に大切に云はれます。唯一口に運動と申てもどの位運動してどの位歩いてよいか、其程度は甚だ六ヶしいものです。臨月になつて餘り強く動き過ぎますと、羊膜は破れて早期破水をおこし、豫定日より早く生れたり、お産が重くなつたりいたします。

さればとて運動不足の場合は豫定日になつてもお産が始まらず、過熱胎兒となつてお産が重くなるのであります。昔の人に比べて、今の方は一般にお産が重い。お産の苦しみが多いことは事實であります。この事實と、今の若い人が勤勞を厭ふと云はるゝ二つの現象は何のためであるかと云ふことを、多くの人は唯精神的方面にのみ原因を求め心が弱いとか、思想の惡化のためとかに重きを置かれますが、これは決してそんな單純の理由ではなく、若い人の筋肉の薄弱の結果であると思ひます。

汽車に乗ることも何日頃がよいか。夫れ等を詳しく語ることに致しませう。

### 四、初着と襪褌と寢具

初着は男兒にも女兒にも共通の作り方をするがよいのです。地質は常に木綿を本位としオランダネルを配します。或は絹、羽二重等もよろしいのです。唯毛織物は避けたいものです。皮膚の弱い初生兒は此の刺戟で皮膚に發疹をおこしますから、どの位の厚さに用意すべきか、どんな形にすべきかは寒暑の候によつて違ひますから、夫れを詳しく申述べることに致しませう。唯一言申して置きたいことは、近く生れやうとする子供のために胎動を感じつゝ、心から彼よ、これよと品を選び、母や姑に教へを乞ひつゝ、一針一針心を込めて初着を自から縫ひ上げるとは、此上ない美しい、又よい胎教であることを御承知願ひたう御座います。特別の仕事を持つ人と準備の間に合はない人は赤ちやん着物が出来て居りますから御使ひなると便利です。

襪褌も種々新型品も工夫されましたが、結局従來の形で、晒し木綿で作るがよいのです。縮と毛織物はこゝにも有害です。唯オムツカバーには毛織物も結構です。こゝに油紙、ゴム布等は用ひてはいけません。巾の広いオムツを股間にはさむは有害の様に云はれますが、決して有害でないわけを御話いたしませう。

寢具 小兒の寢具、子供を親の肌につけたり、抱寝したりするのはいけないので、別に用意するのです。

### 五、産室と備品及分娩具

産室 理想的の産室と申しますと、日光と空氣の入り易い消毒装置の完備した、そして便利で靜閑な處とを望みた



いのでありますが、一般的には其んな贅澤は申されません。出来るだけ明るい、日光の直射する室で、消毒と保温に適した場所がほしいものです。

備品は初湯盥を始め、薬品に至るまで一通り揃へいものであります。

分娩具は分娩の時と、産褥中に使用する消毒材料を整へます。必需品一切を揃へて分娩具として市中に販賣してありますから、其れを求めてもよろしいのです。唯こゝに納められたものは清潔にはなつて居りますが、消毒はしてありませんから、分娩時使用のものと、産褥用直接品と膈帯に用ふるものは、消毒罐につめて別に消毒しなければなりません。其れは産婆の手にゆだねべきものであります。自宅で分娩具を調へやうとする場合の品数と消毒とは放送に於て詳しく申述べませう。

## 六、産婆を定むる標準

自宅で分娩をなさらうとする人は、産婆を頼まなければなりません。現今の産婆は生理的の妊娠、分娩、産褥、初生児の取扱等を學理と實地に學び、消毒のこと、病的に陥つた場合の診断と醫師を招く時期を見定め、又應急の處置をなすべき道を學んで居る筈であります。大切の親子二ツの命を托すに足る資格を供へて居らなければなりませんから、必ず一定の教育を、受けた人でなくてはなりません。お産は生理的のもので病氣ではないとは申しながら、間髪を容れざる程度に病的に陥り易いものですから、早く既に變化の起る前に見極めて醫師を招く用意のある人でなくて

はなりません。唯近所の評判とか、流行家だからとかに依らずに、技倆と人格とのすぐれた人を求め、一度依頼した人には幾度でも頼める様にしたいものと思ひます、それ等具體的のことについて詳しく述べませう。

## 七、自宅分娩と入院分娩

お産は病氣ではないが取扱の如何によつては容易に病氣を起し易いところから、近來殊に初産などは病院で分娩する人が多くなりました。これは今の人は昔の人に比べて健康も劣つて居り、お産も昔の人に比べて重くなりましたので、衛生上と經濟上兩方面から入院する人が多くなつた様であります。

如何なる場合に入院して分娩すべきか。如何なる状態ならば自宅で分娩をしても差支なきかについて詳しく申上るつもりであります。

## 八、初産に親里へ歸る習慣の可否

地方によつては如何たる場合でも、初産は親里に歸るものと習慣つけられて居る處があります。これは昔の嫁住十年の苦節を守つた時の遺風であると存じます。昔は初産の年齢も若く、舅姑や小姑に對する氣兼苦勞も多く、又嫁家と親里との距離も近く、産後二十一日位には歸つて來られる處が多かつたので、かうした習慣にもさほど不便を感じ



なかつたものと思はれます。近頃の様に百里、二百里距る親里へも、必ず歸るものとするのは改むべきものであります。

如何なる場合に親里にかへるがよいか、如何なる場合は歸つて悪いか、歸らないとすれば、どうすればよいか、又長く家を留守にした爲めに起る弊害等について實例を擧げて詳しく申上ませう。

—〔完〕—

## 幼少兒童の日記の記入事項と其効果

【三回放送】

醫學博士 高田義一郎



# 幼少兒童の日記の記入事項と其効果

## 目次

一、 發育程度と健康状態……………	一三
二、 子供の言語や動作……………	一四
三、 小學校の成績品……………	一四
四、 寫真……………	一五
五、 幼兒の日記の價值……………	一五

醫學博士 高田義一郎氏





## 幼少兒童の日記の記入事項と其効果

醫學博士 高田義一郎

赤ん坊や幼少な兒童の爲に、親がかはつて日記をつけることの必要が、漸く多くの人に認められて來ましたが、扨て何をつけていゝかわからないといふ人、或は如何云ふ事をつけるのが最もよいかを知りたいと云ふ人々の爲に、重要な項目を列擧して御参考に供したいと考へます。そしてその書いた事項が何の役に立つかに就ても、序に一言して見ませう。

### 一、發育程度と健康状態

いろ／＼の健康上の問題、並に子供の發育の状態を書きつけて置く必要があります。例へば何月何日から食事が進まなくなり、何日には何回嘔吐した。熱は何日には三十八度五分、何日には三十七度五分、何日には又三十九度、それから咳は何月何日から出たといふ様なことは、單に日記として役に立つばかりでなく、醫師を招いて治療を受ける場合に非常に利益を受けることが多いのであります。即ち大人ならば自分で病歴もよく覚えて居りますが、子供は覚えて居ませんし、両親としても細かい點まではよく記憶して居ない、そして日數が經過して不明になれば、醫師も診



断を誤る場合が決して少くないからであります。それから又どん／＼成長して行く幼少な兒童の身長や體重、或は胸曲などを、生後滿一年以内ならば毎月、それ以上は半年、又は一年に一回つゞは、少くとも記入して置く必要があります。之も後年の思出のみならず、重要な記念になるばかりでなく、醫師を訪問して診断を求めるとき、或は健康診断を受ける時などに、非常に良い参考となつて、利益を蒙ることが少なくないのであります。

## 二、子供の言語や動作

赤ん坊であれば、笑ひ初め、首のすはる程度、お話の工合、這ひ方、立ち初め、歩き工合から、一日の睡眠時間、大小便の度數、泣き方、齒の出た順序、その他いろ／＼目についたことを書く必要がありますし、三四歳頃からは無邪氣にする言語や動作の中に、いろ／＼面白いことやおかしい事がありますから、之をその時々書きつけます。そしていたづら書き等も面白いものは、日記帳に貼りつけて残して置くがよろしい。之は小學校入學以前の成績品として、非常に貴重な資料であります。

## 三、小學校の成績品

學齡兒童の成績品としては、學校の通信簿だけを殘して置けばいゝと考へる人が多い様であります。高張つても習字、圖畫、算術その他いろ／＼の成績品を、全部まとめて一學期づゝ一冊として、スクラップ・ブックかルースリ

ーフ式に遺して置くがよろしい。之は子供が成長の後に役に立ちますが、その時には兒童としては捨て、しまひ勝ちで、殊に點が悪ければ見せない傾向もありますが、之はまとめて居れば、スグにわかつて矯正することも出来ます。

## 四、寫眞

寫眞は寫した度毎に必ず、その時に撮影の年月日や、場所、或は寫した目的、乃至集つた人々の氏名年齢を一々書いて置く必要があります。その時には記憶して居てもデキに忘れて、數年後には全く譯らなくなります。そしてそれが不明になれば、寫眞の紀念品としての價値は、殆どゼロになつてしまひます。

それから又寫眞は、兎角紛失し易いものでありますから、臺紙のまゝでバラ／＼にして置かずに、一枚だけは臺紙無しのを注文して、それをアルバムか、又は當人の日記帳に貼付して置けば、最も良い紀念となるのであります。

一人々々の寫眞は別として、一家族全體の寫眞を一年に一度づゝ寫して殘して置くことは、子供のある家では殊に必要なことと思ひます。其の撮影の日は、その家の紀念日と定めて置くがいゝでせう。毎年々々成長して行く家庭の人々の姿は、それが三枚四枚と數が重つて行く程、益々意義が明かになつて、價値が高まつて行くことを、實行して知つて戴きたいと思ふのであります。

## 五、幼兒の日記の價値

中學校や女學校に入る以前の兒童には、親が代理として日記を書いてやらなければ、兒童自身では書きません。小



學校で書方や綴方を習つても、日記の様な仕事は、未だ中々困難であります。苦心慘憺して書くことは出来ても、容易でない爲に苦痛でもあり、時間や労力が多過ぎる上に、本人としては毫も日記の必要を感じないからであります。然し此の日記の書けない時代、殊に未だ記憶の不十分な幼少な時代の記録は、將來成長の後に兒童自身の秘史として、萬金にも換へ難い貴重な書物となるのみならず、親に對する恩恵を深く感ぜしめる等、個人の家に對して、多大の利益を與へることは、特に説明するまでもありますまい。所が之が世間一般にも裨益することに就ては、一言を費さなければなるまいと思ひます。

赤ん坊から學齡に達するまでの數年間の、男女の兒童の智能發達の工合、即ち生後何ヶ月の赤ん坊の智能は、どれ位が正常であるかとか、或は滿三歳の兒童は、どれ位の事が出来て、どんな事の出来ないのに無理はないか等いふ標準は、一向まとまつたものがありません。僅かに一、二の學者が、自分の子供や、二、三の小數の兒童に就て調査した研究報告はありますが、こんな問題は決して、小數の者を標準として一般を律すべきではありません。又外國の學者の作つた標準があつて、之が用ひられて居りますけれども、日本人の兒童の知識の程度が、外國人そつくりだと見るのは間違つて居ります。しかも間違ひを知らながら、それによつて居るのは、日本人の多數の兒童を材料とした研究成績が無いから、仕方なしにそれで間に合せて居るに過ぎないのであります。

しかし若しも世間の多數の父母に依つて、多數の兒童の智能發達の記録が出来たならば、學者は之を總括して、容易に日本兒童の多數を基礎とした、智能發達の標準を作つて、小兒科學や、精神病學や、或は兒童心理學等に貢獻し

て、社會全般に裨益する所が決して小さくはあるまいと信するのであります。

日々僅々數分間の手間に依つて、自分の愛兒の爲に貴重なる記録を作ると共に、廣く學界に貢獻し、併せて社會に裨益することが出来ることを考へて、是非此の日記を作つて載きたいと思ひ、又之を書く人の一人でも餘計にあることを切望して止まないであります。(完)



體質異常の話

【放送三回】

宇都野研



# 體質異常の話

## 目次

第一講	體質及び體質異常概論	一三
第二講	滲出質—神経素質	一四
第三講	胸腺淋巴質	一六



宇都野 研氏



# 體質異常の話

宇都野 研

## 第一講 體質及び體質異常概論

1 體質とは、之を字義的に云へば、身體の性質とか身體の組成とか云ふことで、つまり身體の出来あそばいと云ふ程の意であるが、やかましく云へば、廣汎な意義を有し、捕捉しがたい。一般に學問の上では形態的方面と機能的方面との二つの意義に分析して考察されてゐる。

2 體質は遺傳物質に由來すること勿論であるが、母胎内並に後天的生活に於ても體得される。

3 外界の刺戟（傳染病ならば病原微生物）即ち外因のみでは發病するものではない。同時にその人自身に内具する内因が之に加はり、内外相呼應して、始めて發病するものである。この病氣にかゝる内因と體質異常とは、同一本態を異なりたる觀點より名づけたものである。

4 體質異常の意義は、持続的に病氣の下地のある状態と云ふことである、その基礎の上に、病氣がともすれば起つては來るが、病氣その物を指示してはゐない。つまり外界の刺戟に對して、引き続き、強い反應を呈する状態を云ふのである。



5 體質異常の素地があつて、その上に顯はれた症候は、正常體質に顯はれたものとは、おのづからその経過を異にする。

6 實用上の見地から、二三の體質異常について述べる。

### 第二講 滲出質

1 皮膚及粘膜に弱點のある状態であつて、そこに滲出性炎症を起し易いのと、淋巴線の増殖とを特徴とする。そして多くは神経素質を伴ふ。

2 先天的殊に遺傳的素因が認められてゐる。

3 營養状態は正常であることもあるが、異常である方が多く、或者は羸瘦し、又或者はぶく／＼肥りである。

4 皮膚には脂漏、乳癬、間擦性濕疹、痒疹、ストロフルース等を發す。

5 粘膜には地圖舌、上氣道、喉頭及氣管枝の加答兒、胃腸及泌尿器の炎症等。

6 之等の症候の續出するのは乳兒期で、以後だん／＼輕くなり、思春期に近づくると自然に消退する。

### 注意すべき事項

1 栄養品に申分がなくても、體量の増進せぬことがある。

2 消化不良便を排泄し易い。

3 體温の動搖し易いこと。

4 發汗の傾向あること。

### 神経素質

1 外界の刺激に對する異常反應が神経系統にあらはれるもので、その感受性の亢進してゐる状態。

2 先天的に來り、遺傳的關係も認められてゐる。しかし後天的に環境の影響もある。

3 啼泣が多い。(夜啼)

4 物に驚き易い。

5 睡眠不良。

6 下痢の傾向あり。

7 嘔吐し易い。(神経性嘔吐、週期性嘔吐)

8 食慾不振を起し易い。

9 精神状態不安、叡智の發育よく、早熟の傾向がある、感情のみに走り易く、意志薄弱、屢々虚偽の言を弄し、物に倦きつばい。



### 第三講 胸腺 淋巴質

- 1 (胸骨の背後に在る)胸腺の肥大と、淋巴装置全體の増殖とを特徴とし、凡ての刺戟に對して反應が強く現はれ、抵抗の極めて弱い體質である。
- 2 本體質の危険のあらはれるのは、幼兒期及び年長兒期であつて、乳兒期には少い。しかし遺傳的で、家族的にあらはれる。
- 3 本體質の危険、即ち種々の刺戟に對して強く反應し、抵抗力の弱いと云ふ極端な例は、いはゆる胸腺死である。之は何等の原因なしに急死するのを云ふ。
- 4 血清注射、麻醉劑の使用、手術的操作等に對して強く、反應し又種々の傳染性疾患(疫痢、赤痢、チフテリ、猩紅熱等)に罹り易く、豫後も悪い。
- 5 何が原因となつて、斯る危険がおこるのか、よくは分つてゐない。が、とにかく解剖の結果では、胸腺や淋巴装置の増殖以外、心臟血管系統の發育が概してよくない。又他にも注意すべき變化が認められてゐる。
- 6 實際問題として困らせられるのは、本體質の形態的特徴が解剖によつて始めて分ると云ふ點にある。即ち臨床では診斷を下し難いと云ふ點にある。
- 7 但し多少の手がかりはある。本體質の小兒は脂肪肥りで皮膚が生白く菲薄で、緊張が足りない。頭が大きい。第二次性的特徴を缺くことがある。しかし又すらりと瘦せたものもある。何れにしろ、生前、はつきりと診定し得ない。
- 8 今の處本體質を治療によつて左右することは出来ない。

—【完】—

## 小兒の病氣の見方と主なる小兒病に就て

【放送五回】



# 小兒の病氣の見方と主なる小兒病に就て

## 目次

第一回	第一、小兒の冬の病氣……………	一五
緒論……………	第四回	二五
小兒の病氣の見方……………	第二、小兒の夏の病氣……………	一〇
第二回	第五回	
小兒の病氣の見方(續き)	第三、小兒の傳染病……………	一四
一、體溫の測り方……………	一、麻疹……………	一四
二、脈搏の測り方……………	二、猩紅熱……………	一五
三、吸呼の測り方……………	三、百日咳……………	一五
第三回	四、チフテリ……………	一六
主なる小兒病……………	附表四、圖四、	
		一六

醫學博士 青木醇一氏





# 小兒の病氣の見方と主なる小兒病に就て

醫學博士 青 木 醇 一

## 第一回

### 緒 論

我が國では小兒の死亡率が非常に多い、殊に乳兒では近年の統計によるも、約一七%を越えてゐる、これを英國又は米國の約七乃至八%に比すれば正に二倍以上である。斯やうに死亡率の多いのは何故であらうか、之には色々の原因がありませうが、我國に於ける一般婦人に育兒に關する知識の充分でない事も、確かに有力な一つの原因と見なければならぬ。小兒を健全に育てるには育兒の知識が必要である、今後我國の婦人に育兒の知識が充分に普及された時、必ず我が國の乳幼兒の死亡率は現在よりも遙かに減少するに違ひないと思ふ。私共には色々の知識が必要である。しかし小兒を健全に育て、立派な人に作り上げてゆくに役立つ知識は、殊更大切でなければならぬ。

かやうな意味に於て、私は育兒法の一部として、小兒の病氣に就ての話をしたいと思ふ。病氣に就ての知識は決して醫師にのみ必要なものではない。日常吾々の健康や生命を絶えず脅かしてゐる恐ろしい病氣に就て、私共が全々無



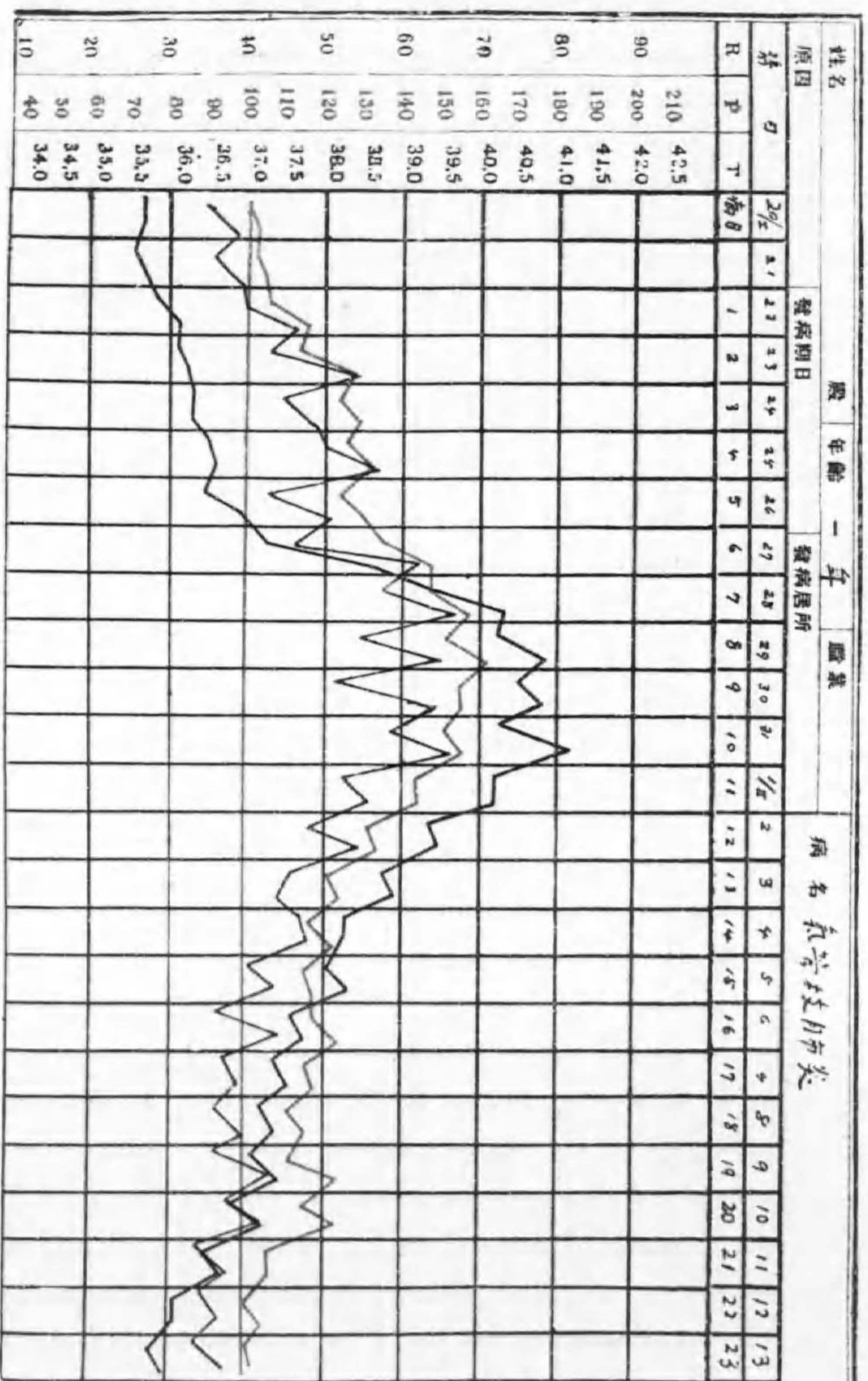
知であつてよい筈はない、殊に小兒は病氣の危険など全然知らないものであるから、親としては是非とも小兒を襲ふ危険な病氣に就て充分の理解と正しい知識とをもつて愛兒を保護してやらねばならぬ。

### 小兒の病氣の見方

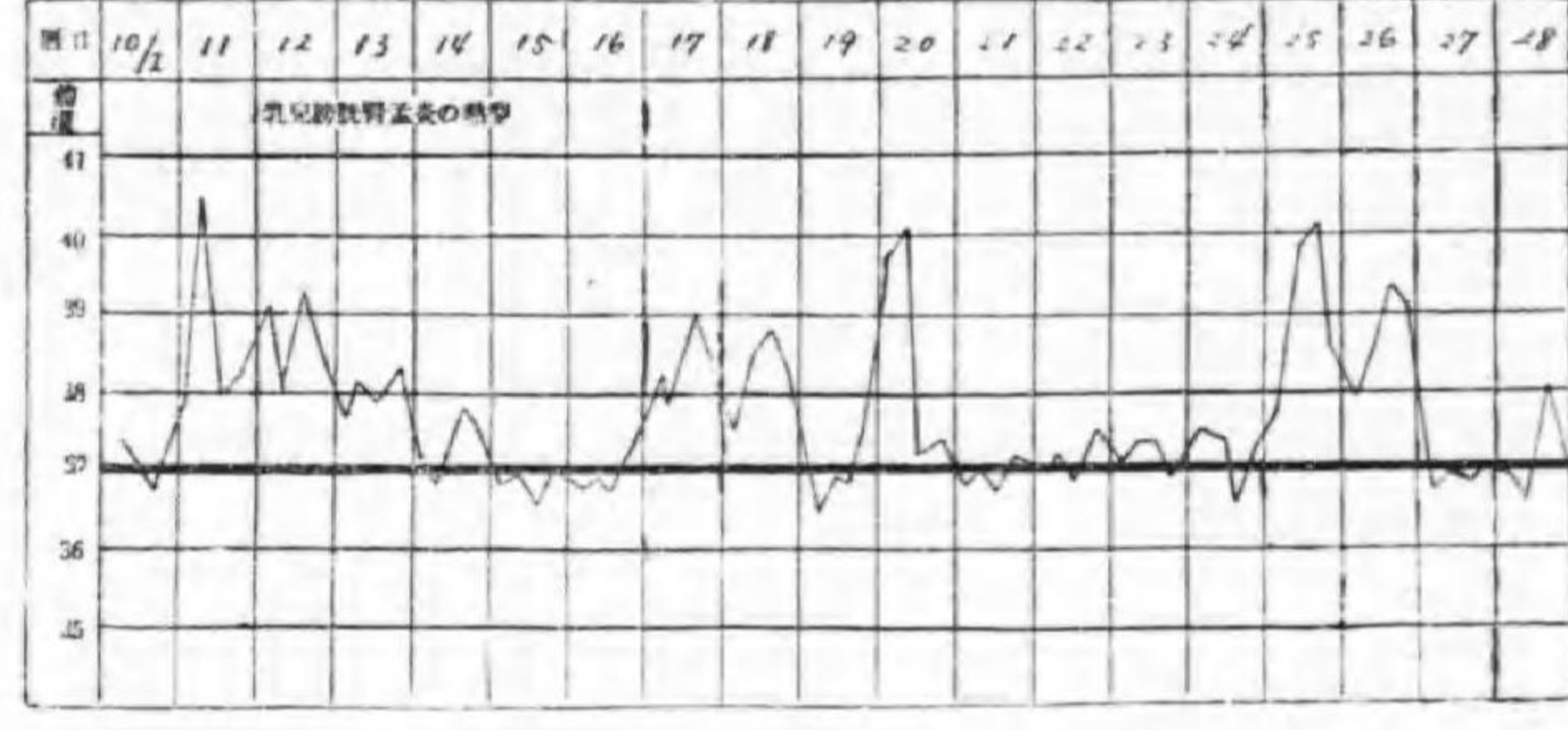
小兒は大人とちがつて病氣の際に自ら正しく容態を述べない、それに小兒の病氣は急に發する事も多く、又突然容態の變る事も少くない。それ故母親は平素からよく我兒の健康状態に注意し、病氣の時には早く之を見出し、その容態を正しく判断して、最も適切な處置をとるやうにしなければならぬ。それには小兒の病氣の見方が上手でなければならぬ。小兒の健否を見分け病氣の輕重を判断するには特に次の諸點に注意するがよい。

第一に小兒の顔貌によく注意する事である。眼は口ほどに物を言ふと云ふが、小兒の「眼つき」なり、顔貌なりは随分口以上に雄辯に病氣の容態を物語るものである。第二に食欲の良否に注意する事が大切である。幼兒が食物をよく食べるやうな時、又乳兒が乳をよく飲むやうな時は、たとへ病氣としてもさう重くない事は確かである。第三に小兒の機嫌の良し惡しに注意しなければならぬ。乳兒が玩具に興味をもつやうな時、又は折々笑ひ顔のであるやうな時は先づ安心してよい時である。その他顔色、皮膚の色、又時には大便の模様、嘔吐の有無なども、乳幼兒の健否の判断には極めて大切である。

以上の諸點に細心の注意を拂へば、病氣の輕重、容態の良否は、大體正しく判断出来るものである。しかし更に的







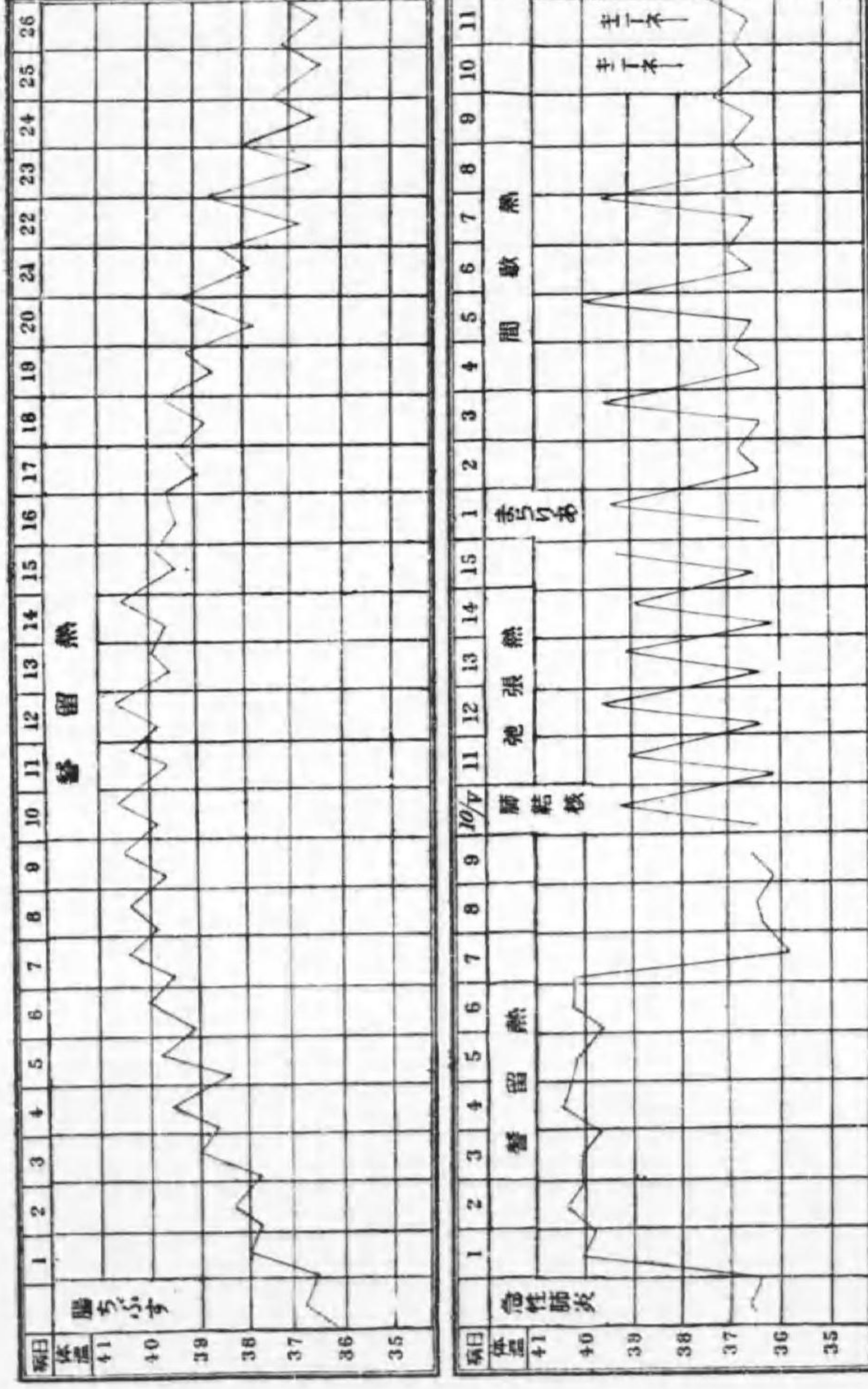
人の體温は腋下で測つて、三六度乃至三七度が普通である、之は大人でも小兒でもはゞ同様である。大人では腋下で測るのが最も便利であるが乳幼兒に於ては却つて股間が便利な事が多い、又幼少な小兒では體温測定を腋ふ場合が多い、殊に永く檢温器をかけておく事が困難であるから檢温器はあの小型の短時間で測る事の出来るものを用ひるがよい。次に體温を測るには單に熱の高いやうな時のみ測らないで、凡そ時刻を一定して少くも一日の中朝夕二回測るがよい。そして病中は毎日かかさず規則的に計つて、之を記録しておく必要がある、で成る可く體温表に書き込んでおくがよい。斯うすれば毎日の熱の動き方がよく判る、又所謂熱の型が一目瞭然とする。殊にある種の病氣ではその病氣特有の熱型を示すものであるから單に體温表を見ただけで、ほゞ如何なる病氣であるかが判るものである、次の體温表に示したのは既ち種々の熱型であつて、

確に病勢の如何を知らうとすれば、體温、脈搏及び呼吸の測定を怠つてはならぬ。

## 第二回

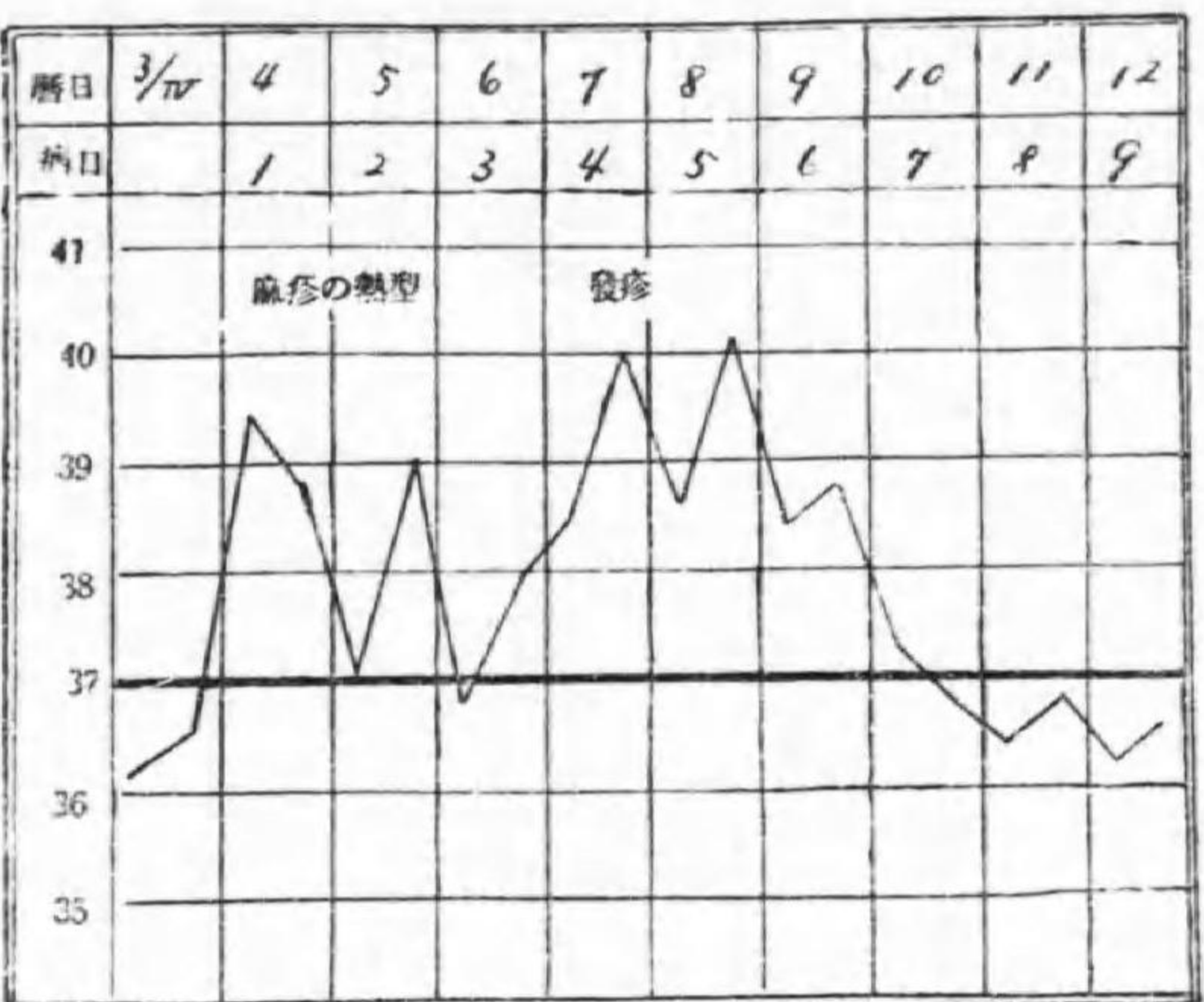
### 一、體温の測り方

#### 種々の熱型





如何にある種の病氣がその病氣に特有な定型的な熱の動き方を  
 するものであるかがよく知られる。通常病氣の際に起る體温の  
 變化は所謂熱になつて現はれるが、時には體温が平温以下に降  
 る事がある。例へば病兒が著しく衰弱して心臓の力が全く衰へ  
 た時や、又は幼弱な小兒を熱があるに任せて無暗に冷し過ぎた  
 りした時に、**三十五度**或はそれ以下にもなる事がある。此の時  
 は大抵顔色は蒼くなり、手足は冷え、脈搏は微弱になつて數へ  
 きれぬ程早くなるものである。斯やうな症狀は虚脱と稱へて極  
 めて危険な症狀である。



### 二、脈搏の測り方

病兒の容態を知るに脈搏を見る事の大切な事は云ふまでもない。脈搏は運動後や神経の亢奮してゐる時は著しく速

くなるものである。それ故靜かな時に測らなければならぬ、乳兒が泣いたり、ちれたりしてゐる時は單に測り悪いばかりでなく、正しい數が得られない、乳兒や幼少な小兒は眠つてゐる時に測るが一番よい。小兒は大人に比して脈搏の數は著しく多いものである、例へば大人は通常六〇乃至七〇であるが、初生兒では一四〇位である、そして小兒が成長するにつれて、大人の脈搏數に近づいてくるものである。脈搏の數は熱のある病氣では通常熱に平行するものである、しかし病氣によつて熱の割に脈搏の少い事があり又熱の割に脈搏の多い事もある。又前にも述べたやうに虚脱症狀の時は體温は平温以下に降るが、脈搏數は逆に非常に多くなるものである、これ等も心得ておくべき事である。脈搏を測るには單に數を數へるばかりではない、規則正しく打つてゐるや否や、又大きく力強いか或は小さくて微弱であるかなども注意すべきである。

### 三、呼吸の測り方

體温と脈搏を測ると共に呼吸の状態を見ておく事も極めて大切である。呼吸數は大人では一分間に一六乃至一八が普通であるが、小兒では遙かに多く、生後一ヶ月以内の乳兒では、三五乃至四〇である。呼吸の見方は慣れないと判り悪い、胸部又は腹部に軽く手を當て、おけば、呼吸毎に胸又は腹部が動くので判る、又呼吸のあらい時など近くでこれを聞きとる事も出来る。小兒が泣いてゐる時など呼吸は著く早くなり又不規則にもなる。それ故成るべく安靜にしてゐる時に測らなければならぬ。呼吸數は特に呼吸器の病氣の時に早くなる、小兒の病氣では氣管枝カタルや肺炎



の時は殊更呼吸の状態に注意しなければならぬ。呼吸を測るには單に呼吸数のみならず呼吸の仕方にもよく注意しなければならぬ。

斯やうにして呼吸数を測つたなら體溫及脈搏と共に同一の溫度表にこれを書き込んでおくがよい、さうすれば一見して體溫、脈搏、呼吸の有様が判る。そしてそれによつて病氣の状態が可なり正しく判斷出来るものである。

次に示した體溫表は乳兒の氣管枝肺炎の際に於ける體溫・脈搏・呼吸の變化である、これによつて一見して病の輕重とその経過とを判斷する事が出来る。

### 第三回

#### 主なる小兒病

容態の如何は、以上述べた病氣の見方によつてほど之を察する事が出来るが、更に小兒の病氣に就ても、相當な理解と知識とが必要である。小兒の病氣は冬と夏と多く、春や秋のやうな溫暖快適な季節には極めて少い。しかして冬はおもに呼吸器の病氣が多く、夏は消化器の病氣がおもである。かやうに夏の病氣と冬の病氣とは全く趣を異にしてゐるから、小兒の病氣に對する一般の注意や豫防法にしても、夏と冬とは全然異なる譯である。斯やうな譯で私は小兒の病氣をば大體冬の病氣と夏の病氣とに分けて話したい。なほ小兒には小兒に特有な色々な危険な傳染病がある、

之をも共に話したいと思ふ。

#### 第一、小兒の冬の病氣

晩秋から嚴冬へかけて小兒の病氣は日一日と多くなる、しかもその殆んど凡てが呼吸器系の病氣である、即ち鼻咽喉カタル、氣管枝カタル及びカタル性肺炎が之である。鼻咽喉カタルと云へば極めて簡單なもので氣にとめる程のものでないやうに思ふ人もあるが、乳兒にとつては之が仲々の大敵で、決して油斷は出来ない。鼻がつまつて呼吸が苦しくなる、乳が飲めなくなると云ふやうな状態で、長びけば随分危険を伴ふものである。それに病勢が進めば氣管や氣管枝のカタルを起して来るから、早く充分な手當をして癒すやうにしなければならぬ。

氣管枝カタルは乳兒や二、三歳の幼兒に特に多い病氣である。通常咳嗽・熱發及び呼吸の忙しくなる事がおもなる症狀である。病勢が進むと所謂毛細氣管枝炎になる、毛細氣管枝炎になると呼吸が著しく速くなつて来る、通常健康な乳兒では呼吸数は一分間に二五乃至三〇であるが、それが六〇、七〇或は更にそれ以上になる、従つて呼吸は可なり苦しくなる、同時に咳嗽もずつと増して来る、かうなると誰の眼にも容態のただならぬ事が判つて来る。

カタル性肺炎は又氣管枝肺炎とも云ふ。乳兒の病氣の中で殊に恐るべき病氣で、その死亡率も可なり多く、冬の小兒の死亡数の大半を占めてゐると云つてもよい。流行感冒性のものが最も多いが、通常氣管枝カタルに引き續いて起つてくるものである。症狀は氣管枝カタルの一層進んだものと思へばよい。



氣管枝カタル及カタル性肺炎は病勢が進んでからでは癒り悪くもあり、又危険も多いから、初期に適當な手當をする事が必要である。しかし更に大切な事は、平素から乳・幼児の健康に注意して、斯様な病氣にかけぬやうに心懸ける事である。それには平素から乳兒を成る可く戸外に出し、よく日光と外氣とにあて、身體を丈夫にし、皮膚や呼吸器の粘膜を冷い空氣に慣らしておくがよい。しかし萬一氣管枝カタルやカタル性肺炎になつた際はかやうな鍛鍊主義をすて、よくこれを保護してやるやうにしなければならぬ、即ち適當な温度と湿度とを保ち、しかも空氣の清潔な室内に安靜にしておくやうにしなければならぬ。温かいがよいからとて無暗に火を多くしたり、徒らに閉め切つて空氣の流通を悪くするやうなのは却つて過ぎたるは及ばざるに如かずである。

なほ特別の手當として吸入法や濕布なども勿論必要である。吸入は呼吸器の粘膜を濕ほし、痰の嚥出を容易にし咳嗽を樂にする上に効果がある。濕布は胸部の血液の循環をよくし、内部の充血を外へと誘導して病勢を輕快させる上に大切である、しかし濕布も仕方が拙劣であると却つて病勢を悪化させる原因ともなるから注意しなければならぬ。その他芥子泥の濕布が卓效を奏することあり、又重篤な際には酸素吸入の如きも缺くべからざるものである。

#### 第四回

### 第二、小兒の夏の病氣

夏も亦冬に劣らず小兒の病氣の多い季節である。初夏新緑の頃から梅雨の候、更に盛夏にかけて、小兒の消化器病

は日毎に増してゆく、殊に乳兒の消化不良症や、幼兒の疫痢などは甚だ危険な病氣であつて乳・幼兒の之に斃れるものは決して少くない。

**消化不良症** 乳幼兒が胃腸障害を起し、下痢や嘔吐を伴ふ病氣を大體消化不良症と呼んでゐる。しかし此病氣は決して大人の胃腸カタルと全然同一のものではない、更に範圍もひろく又危険も多い病氣である、しかして又同じく消化不良症と云つても乳兒と幼兒とは著しく趣を異にしてゐる。

乳兒の消化不良症、おもに牛乳榮養兒に多く母乳榮養兒には遙かに少い、又母乳榮養兒では、たとへ消化不良症を起しても、一般に輕症で、殆んど危険な症候を起すやうな事はない。此點から見ても母乳が乳兒にとつて如何に大切であるかが窺はれる。消化不良症の症候はおもに**下痢**、**熱發**、**體重減少**などであるが、病勢が更に進むと乳を吐くやう、食慾が全くなくなる、そして急に瘦せて眼が凹み、顔貌がぼんやりしてくる。斯やうな状態になつたものは極めうになて重篤であつて、俗に云ふ處の所謂腦へ上つた形である、醫學上の言葉では之を食餌性中毒症と呼んでゐる、昔は之を小兒コレラと呼んでゐたか、それを見ても如何に此症候が危険であるかが察せられる。

消化不良症の症候の一として乳兒の便の状態に注意しなければならぬ事は誰でも知つてゐる。しかし乳兒の便の見方に就ての知識のある人は甚だ少い、従つてそのため随分誤つた判断をする場合が多い。殊に牛乳榮養兒の便と、母乳榮養兒の便とは全く趣を異にしてゐるから、その見分け方は大切である。それ故特に此處に便の見方に就ての注意を促しておく。



さて次に乳児の消化不良症の豫防と治療の問題であるが、今述べたやうに危険な消化不良症はおもに牛乳栄養児に多いのであるから、豫防には成る可く牛乳を用ひずに母乳で育てることである。然し母乳のない場合は止むを得ないから、牛乳を用ひなければならぬ。その際にはその乳児に適當した正しい栄養の仕方をする必要がある。栄養の仕方さへ正しければ牛乳でも決して消化不良症を起すものではない。もし消化不良症を起した場合には一日も早く醫師に托するがよい、軽症の間ならば簡単に癒る、消化不良症は特に治療に技能を要する病氣であるから、素人療治などは危険此上もない事である。

離乳期の消化不良症。我が國では離乳期に於ける消化不良症が殊に多い。通常母乳のみで養はれてゐる間は消化不良症の危険は殆んどないが、乳児が追々成長して一年前後となり、母乳以外に色々の食物を食べるやうになると屢ば重い消化不良症を起すことがある。それ故離乳期には餘程注意して消化不良症などを起さぬやうにしなければならぬ。

幼児の消化不良症。夏はとかく小児の消化機能も衰へるので二、三歳以上五、六歳の幼児が僅かの食物の不攝生から消化不良症をおこすことが屢ばある。症状はおもに下痢、嘔吐、發熱などであるが、乳児と違がつて四、五日も食物をひかへおけば大抵癒る、しかし激烈ものになると、可なり容態が悪くなつて疫痢のやうになることがあるから注意しなければならぬ。

疫痢。疫痢は法定傳染病の中にいれてあるが、未だ必ずしもその原因が明かでない。矢張り消化器系の病氣で、おもに夏期に流行するからこゝでお話しておくことにする。急激な赤痢が疫痢やうの症状を呈してくることが間々ある

ので、疫痢は赤痢と同じものだと言ふ人も可なりあるが、必ずしもさうとも云へない。罹り易い年齢は三、四歳から六七歳まで、ある、乳児には先づない、又八九歳以上の年長な兒童には極めて少い。一般に食物の不攝生が直接の原因となることが多い。

症状は色々であるが、初めに下痢や嘔吐を起す事が多い。下痢は通常赤痢のやうに回数多くはない、大抵粘液、血液又は膿やうなものを混じてゐる。食欲は全くなり、渴のみが激しくなる。發病後間もなくウトウト眠るやうになる、即ち嗜眠状態になるのが多い、又屢ば痙攣を起す事がある。熱は最初から非常に高い事もあるが又低い事もある、それ故熱が低いからとて必ずしも安心は出来ない。脈は大抵初から數へ切れぬ程早くなつてゐる。かうして早いのは一日、通常二、三日の後には大抵死亡して了ふのである。

豫防と應急の手續。疫痢は夏のみとは限らないが、おもに夏の病氣である、それ故幼児に對しては夏は特に食物の不攝生に注意しなければならぬ。又暑さ當りなどが疫痢を誘發する事があるから氣をつけなければならぬ。萬一以上述べたやうな症状があつたならば、一刻も早く醫師に診て貰ふがよい。しかし醫師の来るまでに何とか應急の手續をしなければならぬ事もある。例へば食べ過ぎなどした後に、以上述べた症状が起つたら早くヒマシ油でも與へて、腸の内容物を排泄して了ふがよい、渴の強い時は適當に湯冷し、番茶などで渴を醫してやるがよい、熱の高い時は勿論頭や心臓部を氷嚢で冷すべきある。足の冷い時は湯タンポなどで温めてやらなければならぬ。



## 第五回

### 小兒の傳染病

一六四

小兒には特に小兒のみを犯す多くの傳染病がある、例へば麻疹、猩紅熱、百日咳、チフテリー、疫痢など何れも幼兒に多く、しかも極めて危険な傳染病である。あの無心な乳兒、無邪氣な幼兒は勿論傳染病の恐ろしさなど知る筈はない、母親が眞に我が兒を愛し、その健全な成長を希ふならば是非等の危険な傳染病から、愛兒を救つてやるやうに努めなければならぬ。それには第一に是等の傳染病に就て充分な知識をもつ事が必要である。

#### 一、麻疹

麻疹は昔から小兒の命定めと云はれてゐるが、小兒にとつては誠に恐ろしい病氣である、我が國では年によつて勿論大變相異はあるが、年々麻疹で死亡する小兒が一萬人もある。麻疹は極めて傳染力の強い病氣で、殆んど凡ての小兒が一度は罹ると云つてもよい程小兒には多い病氣である。しかし一度罹れば通常一生涯免疫性になるので、二度罹る事は殆んどない。

症状は初めは風邪の時のやうに、咳嗽や熱發がおもである。三、四日たつと、頭から足のさきまで、即ち全身に赤い發疹が現はれてくる。然し此發疹は通常二、三日後には又自然と消えて行く、同時に熱も下り、病勢は輕快してくるの

である。しかし時には氣管枝カタル、又はカタル性肺炎を併發して随分危険なことも少くない、又時には麻疹に引つづいて結核を起すこともある。

麻疹の手當。乳兒が最も危険であるから、成る可く乳兒期には傳染させぬやうにしなければならぬ。小兒が麻疹に罹つたならば、成る可く温かな室に靜かに寝かして置くがよい、冷い風にあてるのは禁物である、然かし俗間で一般に行はれてゐるやうに無暗に温めるには及ばない、何事も中庸を得る事が必要である、非常な高熱の時に頭を冷す位の事は少しも差支ないばかりでなく時に却て必要である。

#### 二、猩紅熱

猩紅熱は矢張り麻疹のやうに、皮膚に發疹の出来る病氣である。おもに三、四歳から七、八歳までの小兒に傳染するが、大人に傳染する事も決して少なくない。近年東京には可なり流行してゐる。

急に發熱して皮膚に極く細かな赤い發疹が現はれてくる、又扁桃腺が赤く腫れて咽頭が痛む。大抵一週間も経つと、發疹も消え熱も下つてくる、併しその後になつて腎臓炎や中耳炎などを併發してくる事が屢ばある。

#### 三、百日咳

百日咳は百日咳菌と云ふ細菌で起る病氣である、乳兒期から五、六歳までが最も罹り易い。

一六五



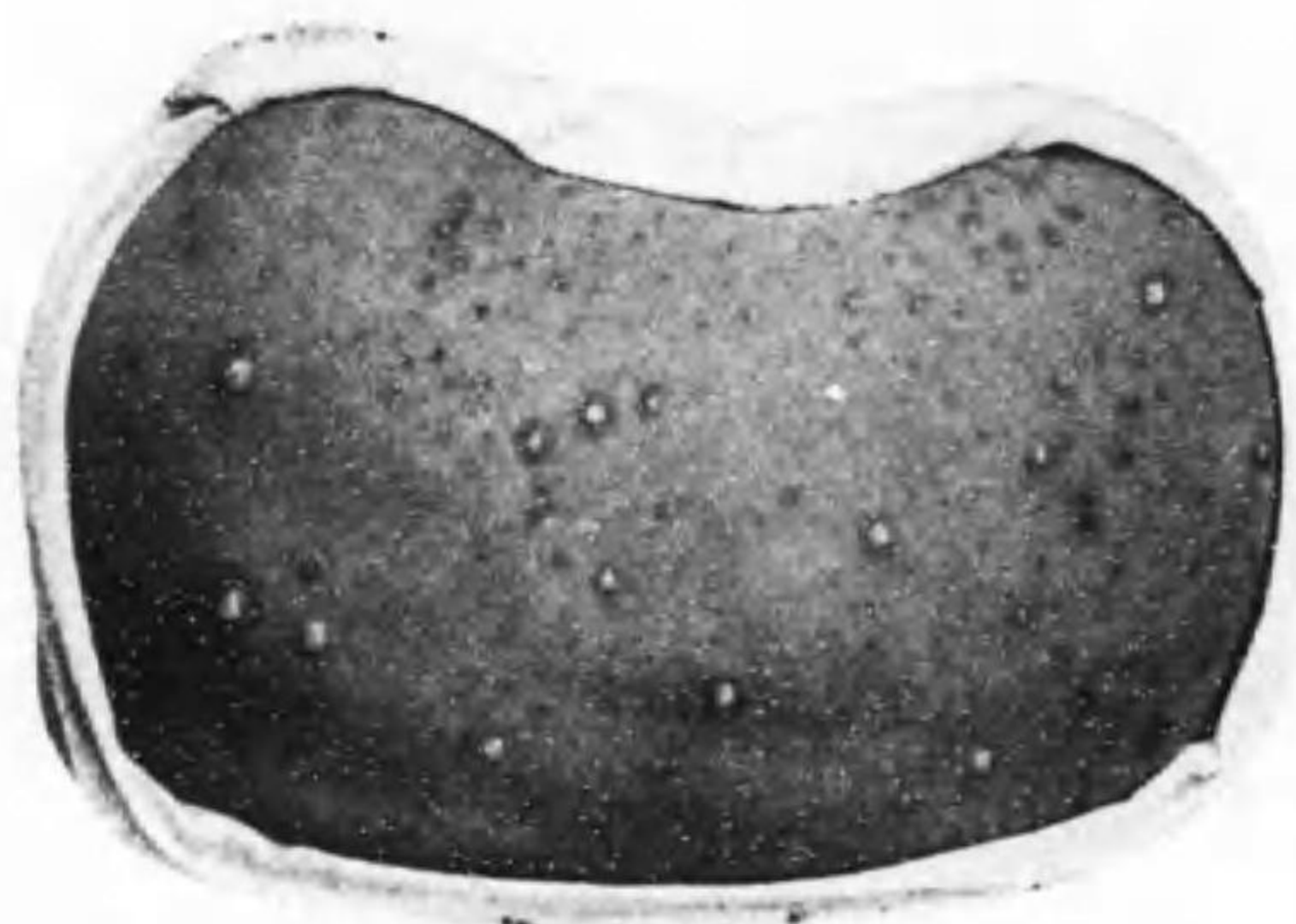
初め数日間は一吋普通の風邪と區別がつかぬやうな咳嗽をしてゐるが、一週間もたつと、獨特な激しい咳き込みをするやうになる。この激しい咳き込みが一月又はそれ以上もつゞく、そしてすつかり咳嗽のなくなる迄には更に二、三ヶ月もかゝる。此の長い間に次第に小兒の食欲は減じ、栄養は衰へ、顔色は蒼くなつてくる、そして小兒の健康状態は著しく悪くなるのみならず、百日咳の経過中には氣管枝カタルやカタル性肺炎を併發し易く、その爲め死亡する例も少くない。

かやうに百日咳は小兒にとつて極めて危険な病氣であるから、成る可く小兒に傳染させぬやうにしなければならぬ、それ故流行期には乳、幼兒を小兒の多く集まる所へ連れ出さぬがよい。小兒が百日咳になつた時は、徒らに室内にのみ閉ぢ込めて置かないで、風のない日など成る可く戸外に出して日光に浴させ新鮮な空氣を呼吸させるやうに努めるがよい。

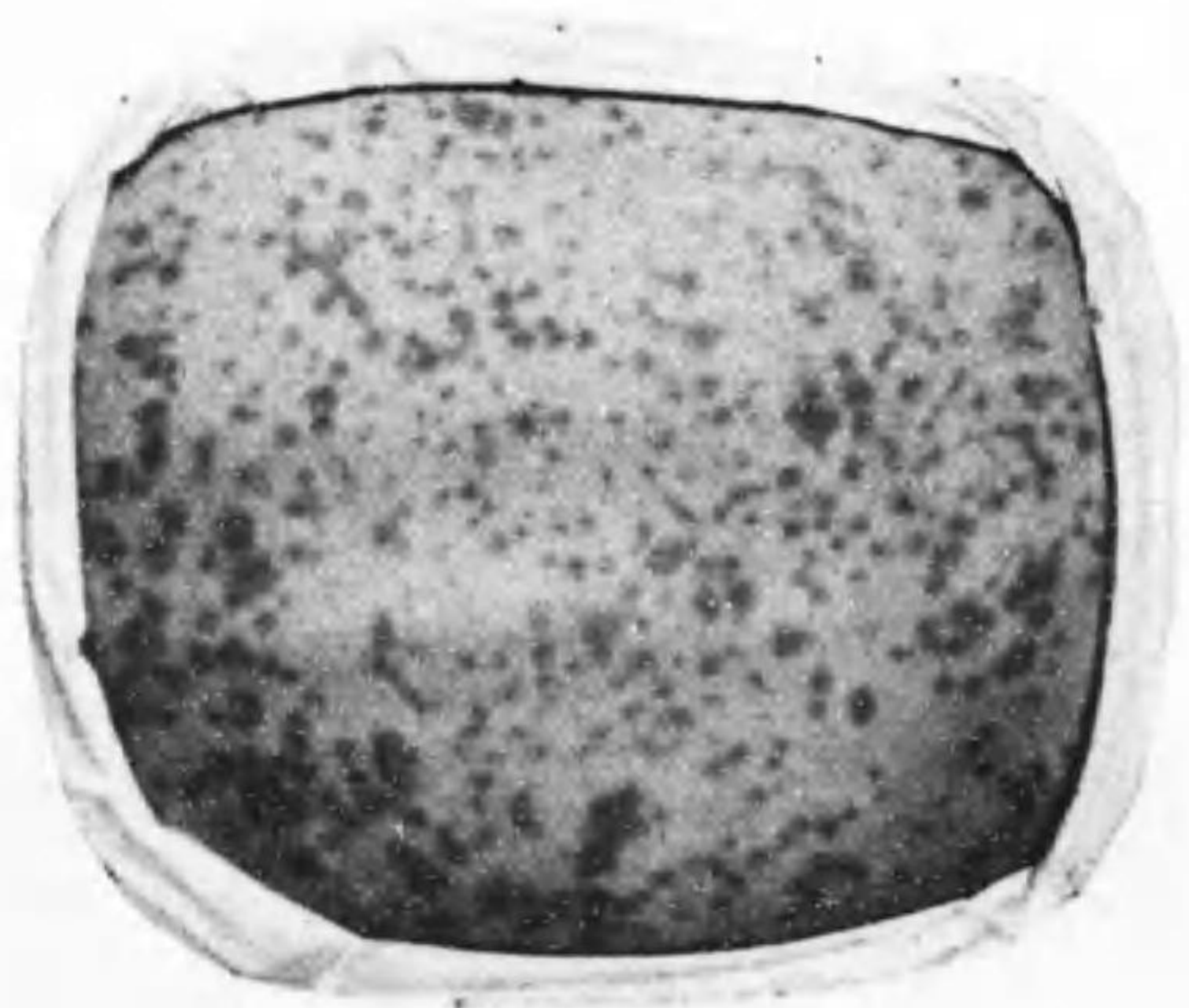
#### 四、チフテリー

チフテリーは小兒の傳染病の中でも、特に危険なものとして一般に知られてゐる。病原菌はチフテリー菌と云ふ一種の細菌で患者の咽頭に澤山ゐる。

急に熱が出て氣分が悪くなる、半日か一日経つと物を呑み込む時に咽頭が痛がるやうになる、大きく口を開かせて咽頭を見ると、扁桃腺が腫れてその表面に義膜と云つて白いものがついてゐる。かやうな症状を示すのが一番多く、こ

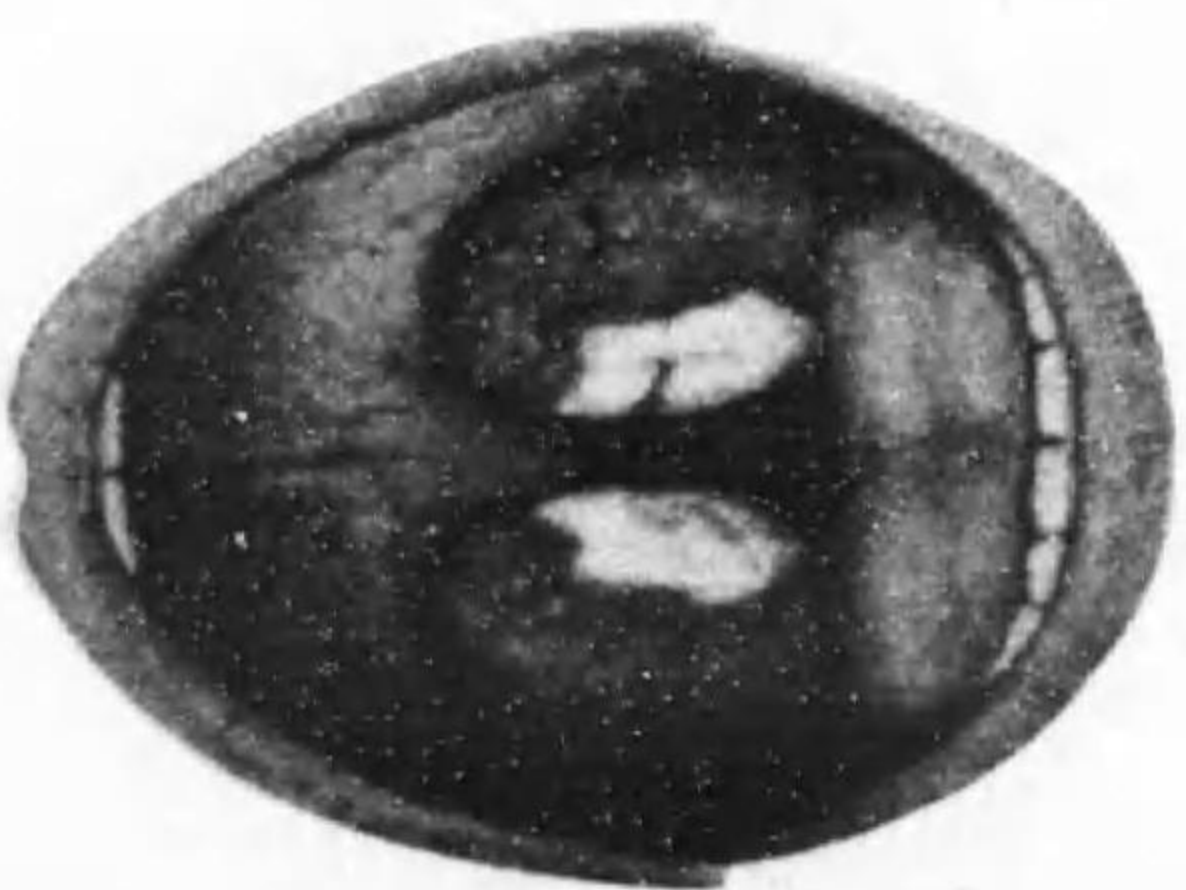
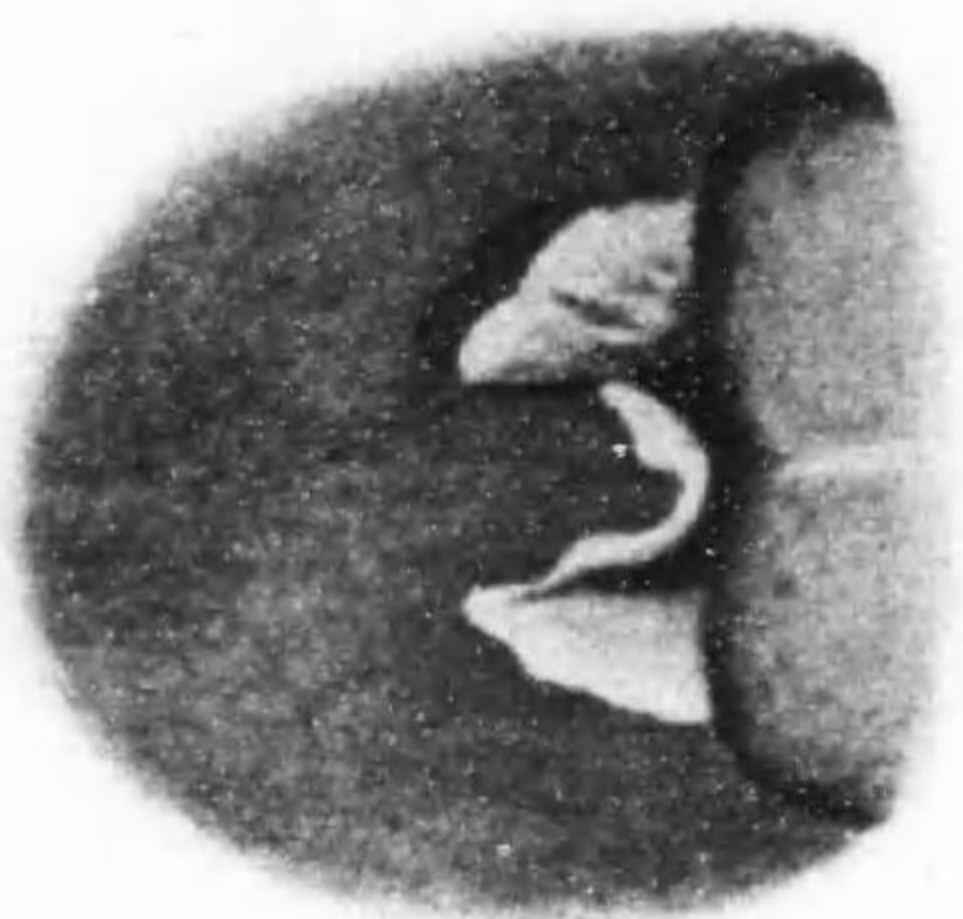


水痘



麻疹





これを咽頭チフテリーと呼んでゐる。然しチフテリーが更に深くへ進むと聲が啞れ、呼吸が苦しくなってくる、それから一種特異な丁度犬の遠吠のやうな咳嗽をするやうになる。これを喉頭チフテリーと呼び、チフテリーの中でも最も危険なものである。

チフテリーはチフテリー血清を注射すれば容易に癒るから、疑はしかつたなら一刻も早く醫師にかけるがよい、注射の時期がおくると血清の効果は著しく減るものである。

以上述べたものは小兒に特有であつて、然も又最も危険な傳染病のみである。その他水痘、風疹、流行性耳下腺炎など、何れも矢張り小兒に特有な傳染病である、しかし是等は概して危険の少い病氣であるから省略しておく。尙又赤痢、チブスなどのやうな危険な傳染病は大人と同様に、小兒にも可なり多いのであるが、これ等は小兒特有のものでないから省略することにする。――〔完〕――



お産の話

【放送六回】

醫學博士 澤

崎

元



お産の話

目次

普通のお産(安産).....	一五
異常のお産(難産).....	一八
産褥に就て.....	一七
お産後の心得.....	一七
産褥中の異常.....	一八
初生児に就て.....	一九
(寫眞十七枚)	
以上	

醫學博士 澤 崎 元 氏





# お産の話

醫學博士 澤崎元

## 普通のお産（安産）



子宮内ノ胎兒 (1) 臍帶 (2) 胎盤  
(3) 子宮壁 (4) 卵膜 (5) 内子宮口

分娩 即ちお産は、妊娠の終りに、胎兒と後産が自然の力で、母體から生れる事であります。自然の力は陣痛と腹壓であります。

**陣痛** は、子宮筋肉の收縮で、同時に疼痛として感ずるものであります。陣痛には發作の時と間歇の時があつて、お産の始は弱く、次第に強くなるのであります。

**腹壓** 腹壓といふのは努責する事で、お産が進んでくると、陣痛と同時に強く起すことが出来ます。

**胎兒の位置及姿勢** 普通のお産の時は、胎兒は子宮





子宮内ニアル胎児ノ姿勢

一七六  
の中で頭を下に、臀部を上にして腕を曲げ、あぐら胡坐をかいて、この圖のような姿勢をとつてゐます。  
産道は、胎児の通る道で、骨盤と子宮口、膣及外陰部であります。

**お産の三つの時期**

- 1、開口期 お産が始まつて子宮口が全く開くまで。
- 2、娩出期 子宮口が全開して胎児が生れてしまふまで。
- 3、後産期 胎児が生れて後産が出るまで。

**お産に要する時間**

人により、又初産と後々お産をする人とは違ひがあります。

経産	初産	開口期	娩出期	後産期	平均
一—六時間	七—二二時間	二—三時間	一五—三〇分	一〇—二〇分	一四—一五時間
一時間					五—七時間

**お産の準備**

**お産の場所** 産院ですか、自宅ですか。  
**産婆を選ぶ事**

産婆は熱心親切で経験のある人を選ぶこと。  
成るべく近い處に住む人がよろし。

**産婆を招く時期** 少しでもお産の始まつた徴候があれば直ぐに来て貰ふこと。

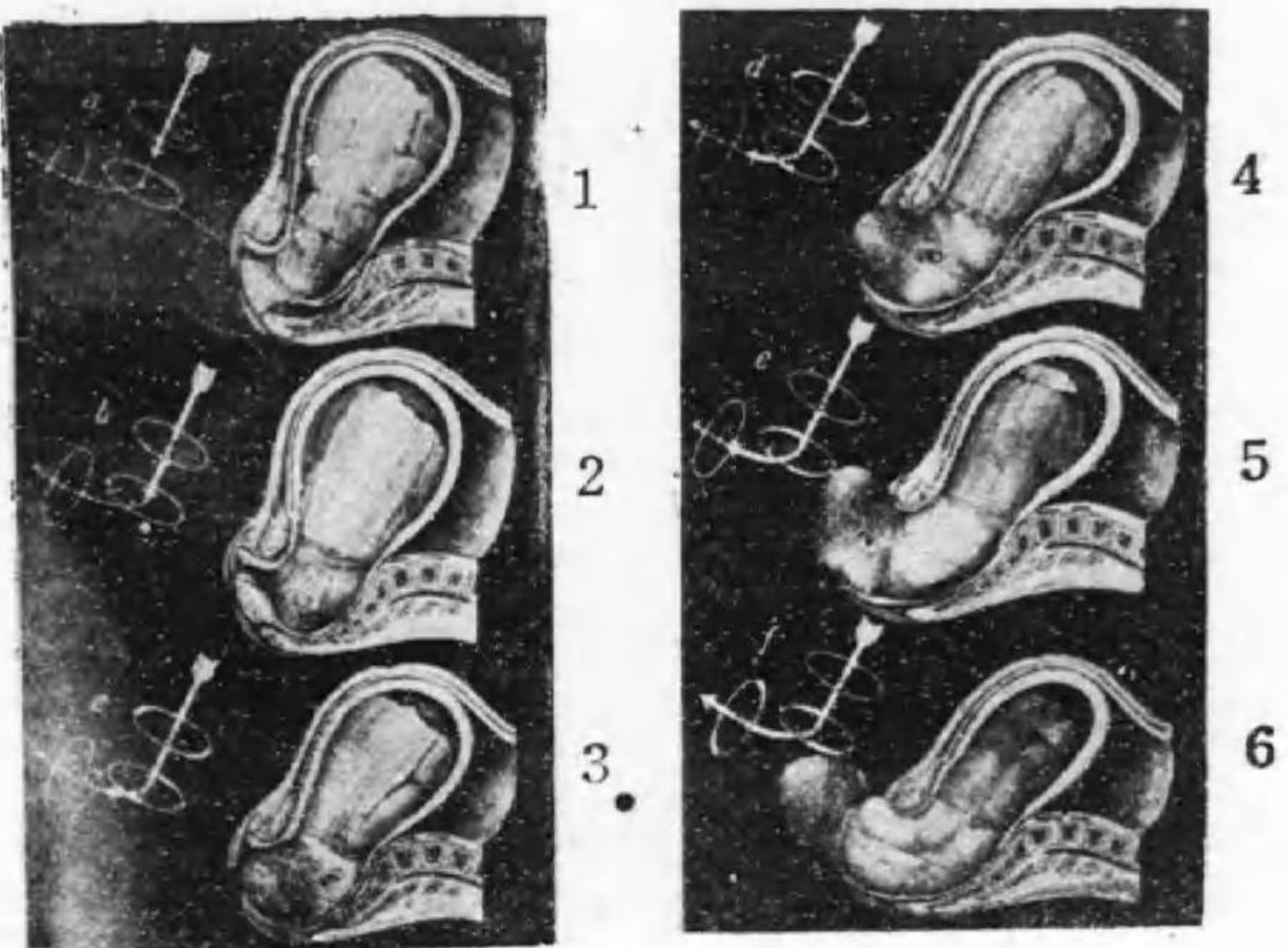
**お産に必要な器**

**具材料及薬品**

- 褥蒲團 二枚
- 腹帯
- 丁字帯
- 腰枕
- お産用股引
- 臍輪帯



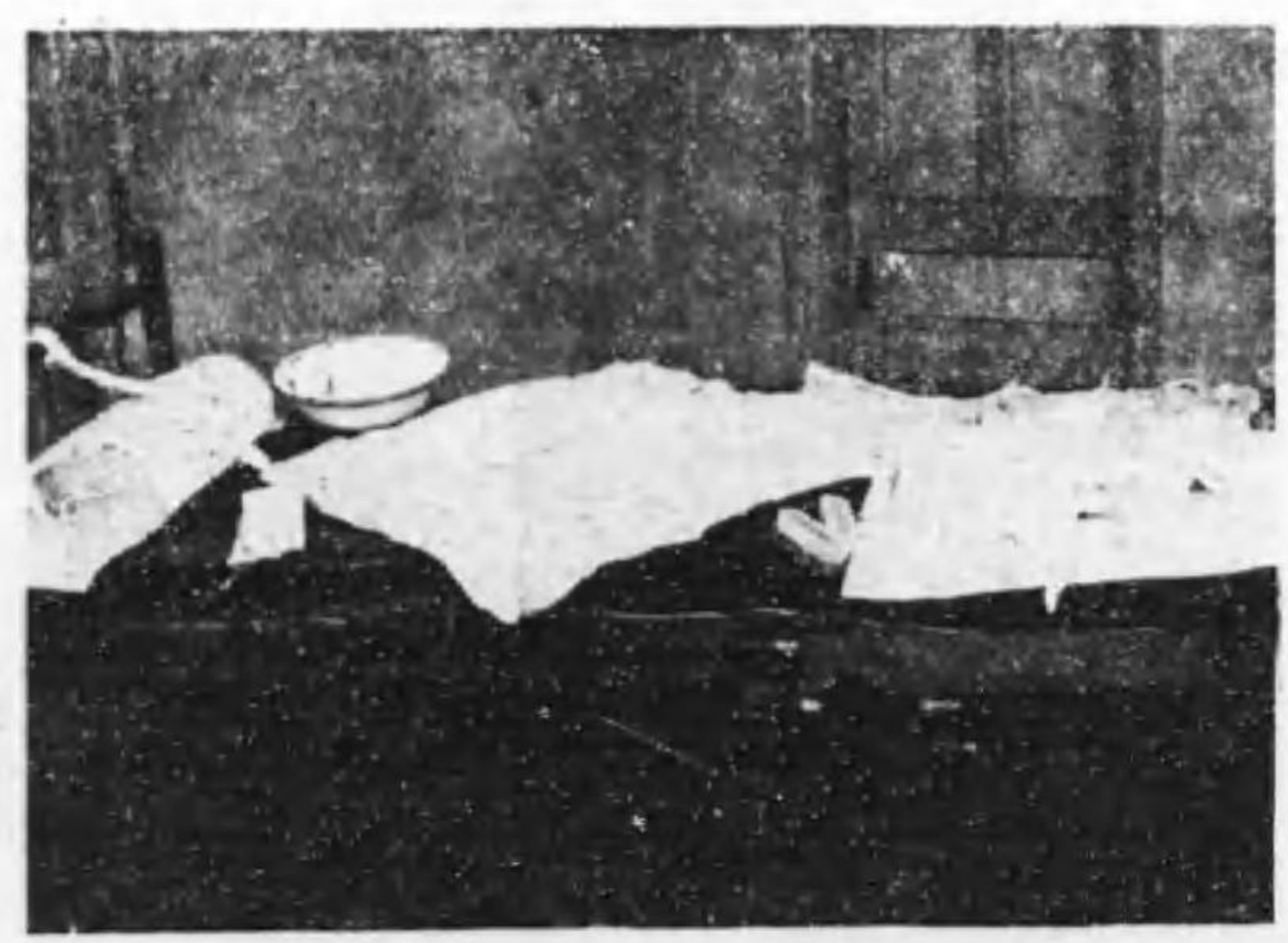
位



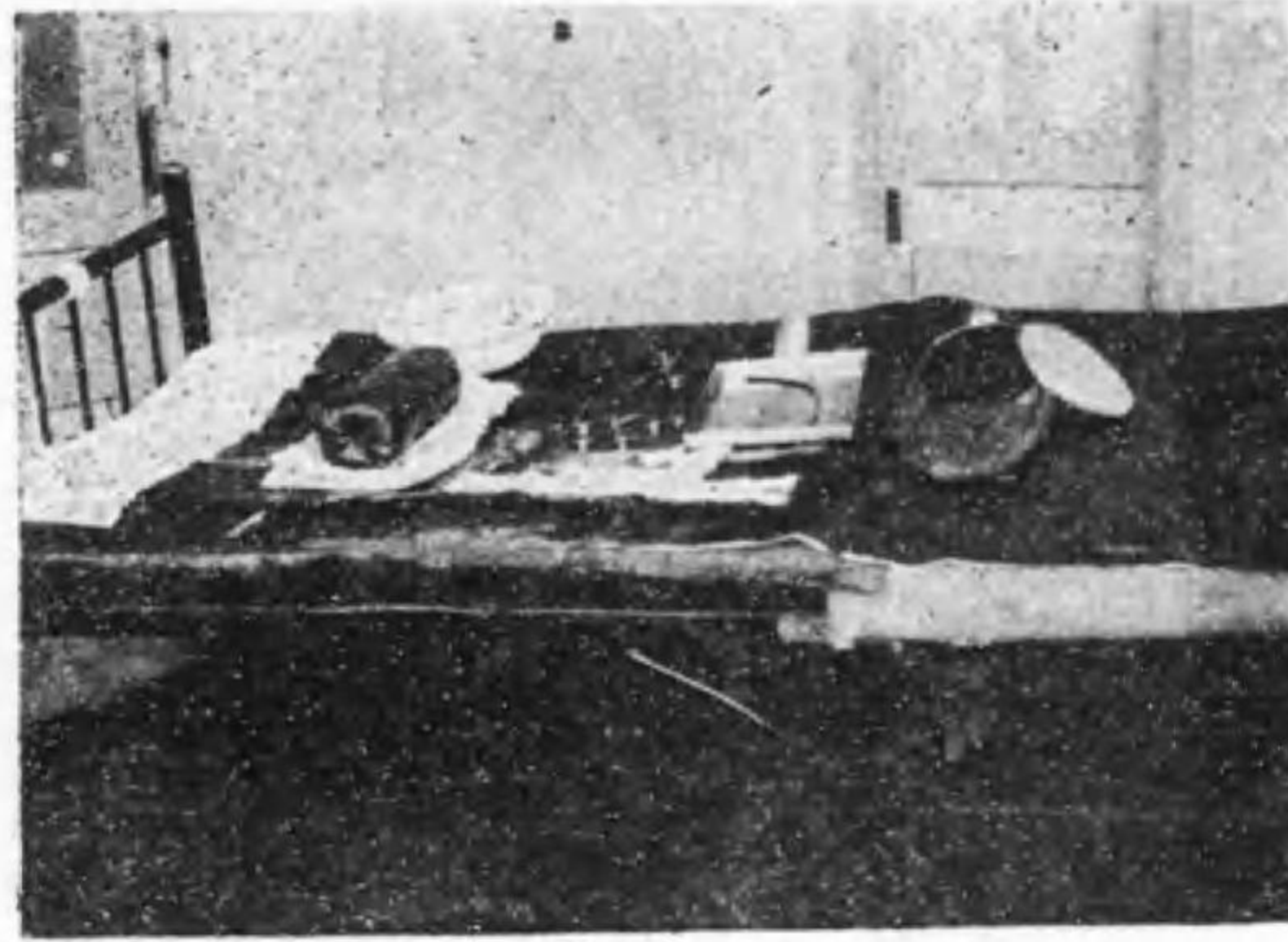
娩出期 兒頭ガ生レ出ル順序



- 護謄布
- 油紙
- 青梅綿
- ガーゼ
- 脱脂綿
- タオル
- 半紙及櫻紙
- 沐浴用鹽
- 瀬戸引洗面器 三箇
- 瀬戸引小鉢
- 蓋附容器 (硝子又は陶器製)
- 此の外に産婆が携帯してくる品物
- 聴診器
- 検温器
- オレーフ油、硼酸ワセリン
- 止血劑子
- 消毒罐
- 手洗刷毛
- 灌腸器
- 剪刀
- 臍帶剪刀
- ピンセット
- 産室 廣くして日あたりよく、空氣の流通のよい部屋がよろし。室温は華氏の七十度位。夜は照明を充分にして置くこと。
- 産床 清潔であり厚くない敷蒲團に敷布をかけて明るい方へ足を向けるやうにすること。
- 産衣 お産をする時は、冬でも寒さを感じないから成るべく薄着をすること。
- 尿道カテーテル
- 氣管カテーテル
- 臍帶結紮糸
- 點眼瓶
- 吸吞
- 胞衣容器
- 湯婆
- 氷嚢
- 挿入便器
- 酒精
- 硼酸水
- 亞鉛華濁粉
- 葡萄酒 一瓶
- 石鹼
- 多量の熱湯及湯さまし



お産 = 必要ナ材料



お産ノ器具

規則な陣痛のやうな痛みが起ることがあります。之を豫備陣痛と云ひます。  
 お産の前兆 お産の前兆お産の豫定日の數日、又は十數日前から不規則な陣痛のやうな痛みが起ることがあります。之を豫備陣痛と云ひます。  
 お産の始まつた徴候 本當の陣痛が起ると、陰から粘液又はうすい血液をませた粘液が下りて來ます。

お産の経過



お産の進んだ時の模様 に就てお話しします。

### お産の時の攝生及注意事項

**お産と消毒** お産には消毒が最も大切であります。産婦を取扱ふ醫師や産婆の手の消毒、お産に使ふ器械や材料の消毒、産婦の消毒等はすべて嚴重にしなければなりません。其消毒の仕方をお話しします。

**入浴** お産が始まつてからは入浴せぬこと。

**産婦の臥位** お産の始のうちは、横でも仰臥でもよろしいが、お産が進んでからは仰臥が都合がよろし。

**排尿排便** お産が始まつたら、一度灌腸をした方がよろし。排便排尿は室内ですること。

**飲食物** お産に長い時間がかゝつて、産婦が空腹になつた時は、少量の粥とスープ、鶏卵、又咽のかはく時は、

麥湯番茶等を與へること。

**産婦の慰安** 家人及附添人はお産を心配せぬやうに産婦を慰めること。

**産婦の忍耐力** お産の時には、苦痛に堪へられるだけの忍耐力を持つやうに心掛けること。

**陣痛の模様** 常に陣痛が規則正しく順調に進んで居るかを注意すること。

**産婦の體温と脈搏** お産中には、時々體温や脈を計る事必要です。

**お産の綱** 陣痛の起つて來た時に強く努責ことが出来るやうに、産婦の頭の方にある柱に綱を結びつけて、其を

固く握つて引かせるやうにする。

**會陰の保護** お産が進んでくると、會陰が兒頭の爲に壓し擴げられて裂け易いから、そこへ産婆は手をあて、豫

防するのです。

**臍帯の纏絡** 頭が生れてから頸に臍帯がよくまきついて居る事があります。其時には直ぐに臍帯を軽く引き地めてはづす。

**胎兒の生れた直後の處置** 胎兒の顔や身體に着いてゐる羊水や、粘液血液等をよく拭き取ること。若し粘液等が

口や鼻の中に溜つてゐて、よく泣く事が出来ない時は、氣管カテーテルで吸ひ取つてやります。

**臍帯の切斷** 臍帯の脈搏が自然に止るのを待ち、臍帯を糸で結んで切る。其の方法に就いてお話をします。

**沐浴** 初生兒にうぶ湯を使はせる前に、身體に着いてゐる胎脂をオリーブ油に浸した綿でよく拭き取り、攝氏四十度位のお湯の中で洗ふ。眼や口は別のお湯で洗つてやります。お湯が耳の中に入らぬやうに注意する事。



初生兒ノ沐浴



臍帯 沐浴後 臍帯の斷端から出血の有無を検査して後、消毒ガーゼで包み、其上に臍帯で巻き着物を着せるのであります。

點眼 沐浴後成るべく速く眼薬をさすやうにする。二プロセツトの硝酸銀水を一滴づゝたらします。

體重を計ること

臥床 寢床は寒い時期には暖くして置き、初生兒を横向きにし、時々左右交代に向を換へる様にする。仰むきにする時は咽から出た物を吸込んで窒息する恐があるから注意せねばなりません。湯たんぽを入れる時は、火傷しないやうに注意すること。



臍帯ヲナシタル圖

體温及呼吸に注意する事



臍帯ノ斷端ヲ臍ガーゼニテ包ム

初生兒の假死とその處置 胎兒が娩出した後心音は聞えるが、呼吸をしないで死んだやうになつて居る事がある。斯様な假死の状態にある時、どういふ風にして蘇生させるかをお話します。

後産の處置

後産期の陣痛が起ると、自然に後産が娩出されます。其の際後産の一部が残つて居らぬかを検査してみる事。後産が長く出ない時には、子宮底をつかんで押し出す様にし、なほ子宮の收縮と出血の模様を注意します。

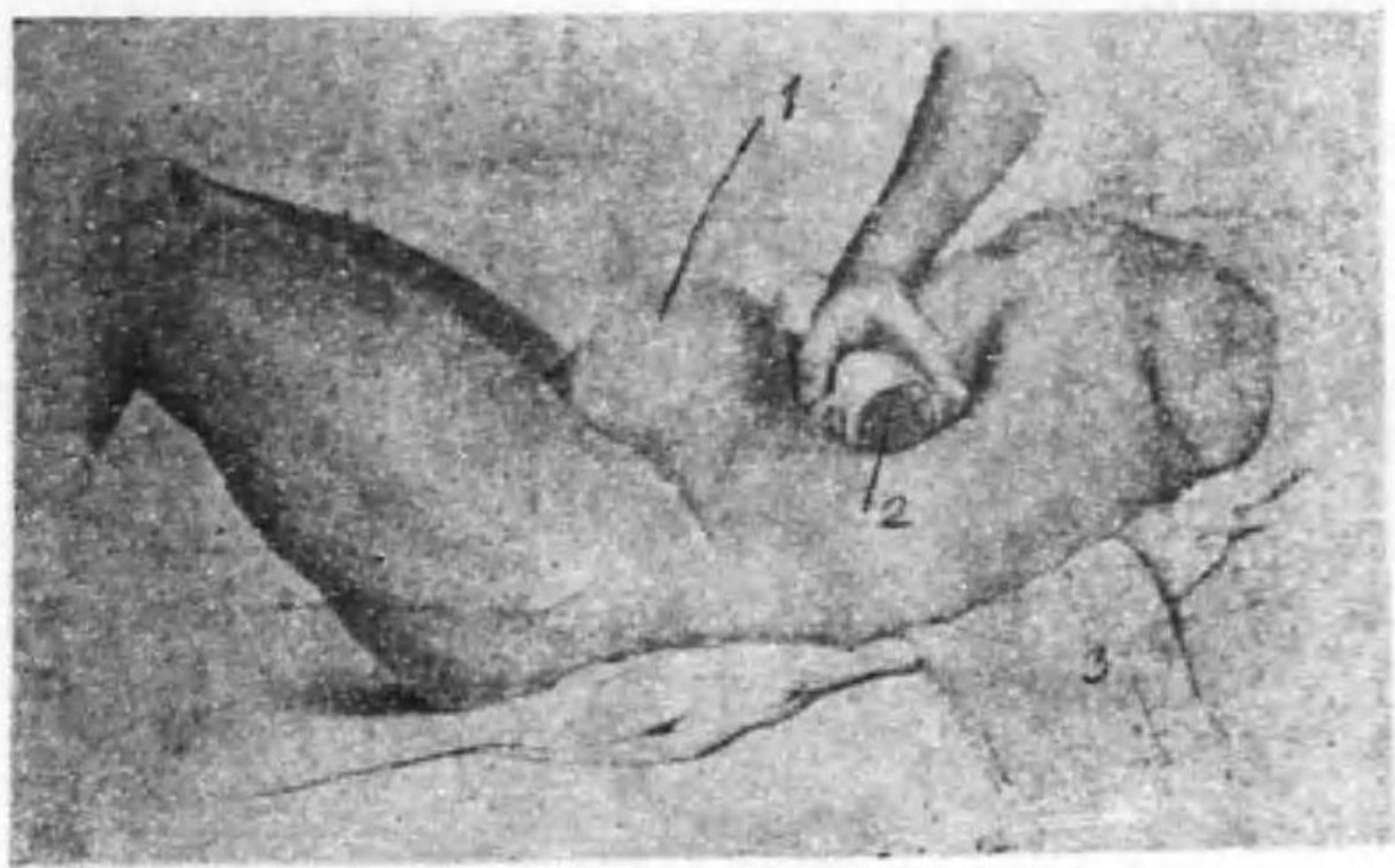
後産娩出後母體の處置

後産の娩出後は成るべく速く産婦の汚れた處を清潔にし、腹部に氷嚢を貼て、其の上に腹帯をかける。外陰部には消毒したガーゼ及び脱脂綿を貼て、丁字帯をつけ衣服を着換へさせて、産婦を休養させるのであります。

異常のお産 (難産)

お産は普通障り無くできる筈のものであるが稀に難産になる事があります。さうした場合に平常から多少異常のお産に就て心得があれば、大事にならぬ内に豫防する事が出来る。或は起つてからでも手遅れせずに醫師の治療を受け、母體及胎兒の危い生命を救ふ事が出来るのであります。異常のお産は澤山あります。その主なものを擧げると、





子宮ト腹壁トヲ強ク壓迫シテ腹帶ヲスル  
(1) 子宮 (2) 枕 (3) 腹帶

又狭くて出難い事があります。(狭窄骨盤)

胎児の位置の異常 胎児が子宮内で逆さになつて居て、足或は臀部が先に出る事があります。(骨盤端位)或は横になつて手を先に出して



大出血ノ時太キ護膜管ニテ強ク腹ヲ縛リ大動脈ヲ壓迫シテ止血セシメル  
(1) 子宮 (2) ゴム管 (3) 大動脈

陣痛の異常 陣痛には弱くてお産の進まぬ事があり(微弱陣痛)、又強過ぎることがあり、或は痙攣のやうに絶えず起つて産婦を苦しめる事があります。其等の處置はどうすればよいか。

産道の異常 子宮口が固くて容易に開かず、又陰や外陰部が伸展が悪い事があります。

子宮に筋腫と云ふ瘤が出来てゐたり、又は卵巣嚢腫といふ腫瘍があつて、産道を狭めて胎児が出られぬ事があります。

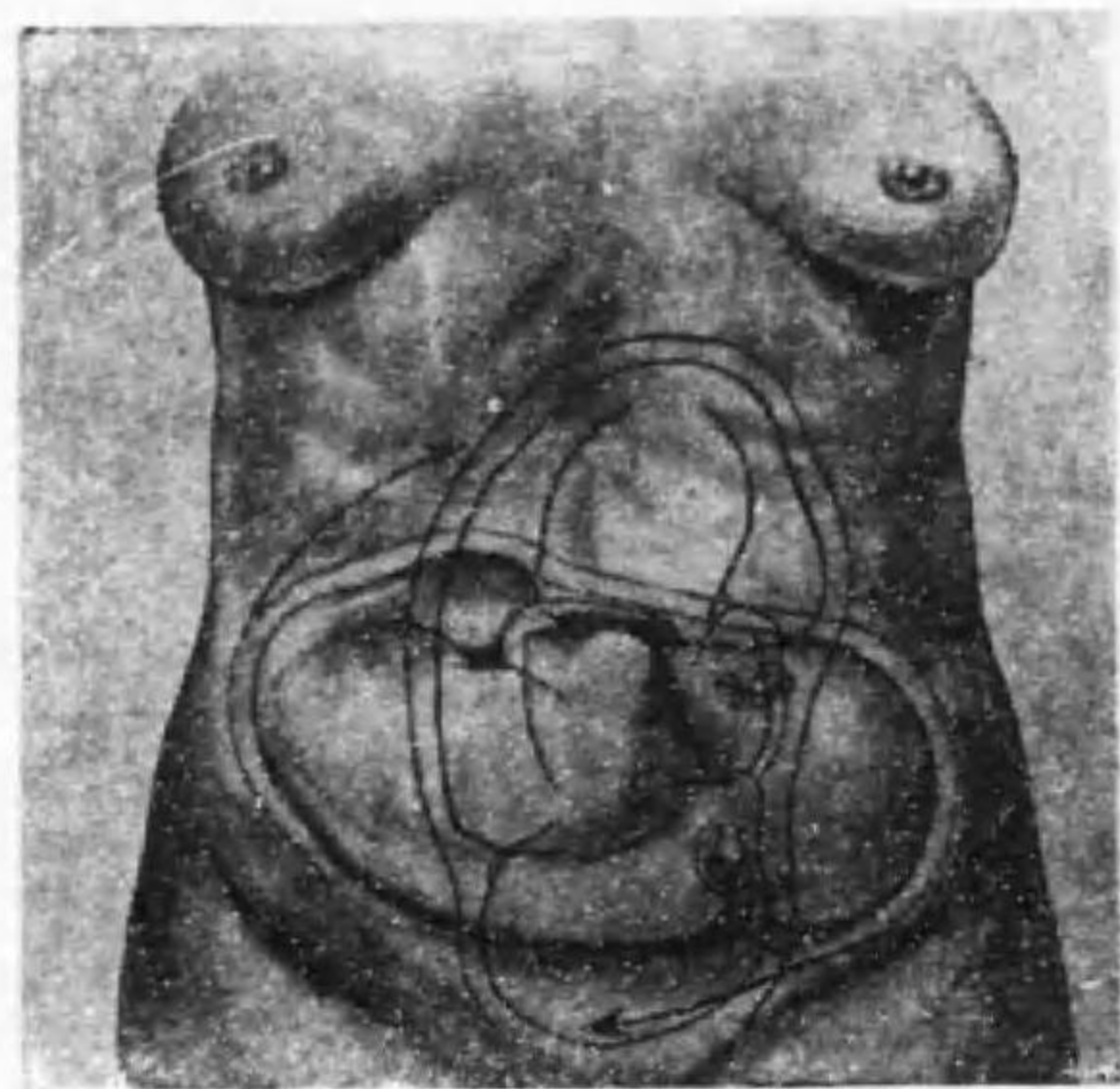
骨盤が大き過ぎて(過大骨盤)危険な事があり、

胎児は生れる事の出來ぬ場合があります。(横位)

胎児の姿勢の異常 普通後頭から先に出るのが間違つて額が最も先に出る事がある。一番先になつた處は膨れ上つて醜い形となり、頭の形が色々になります。

胎盤の異常 子宮の口に接近して、胎盤が着いて居る事は普通ではない。(前置胎盤)お産が始まると必ず出血をする。

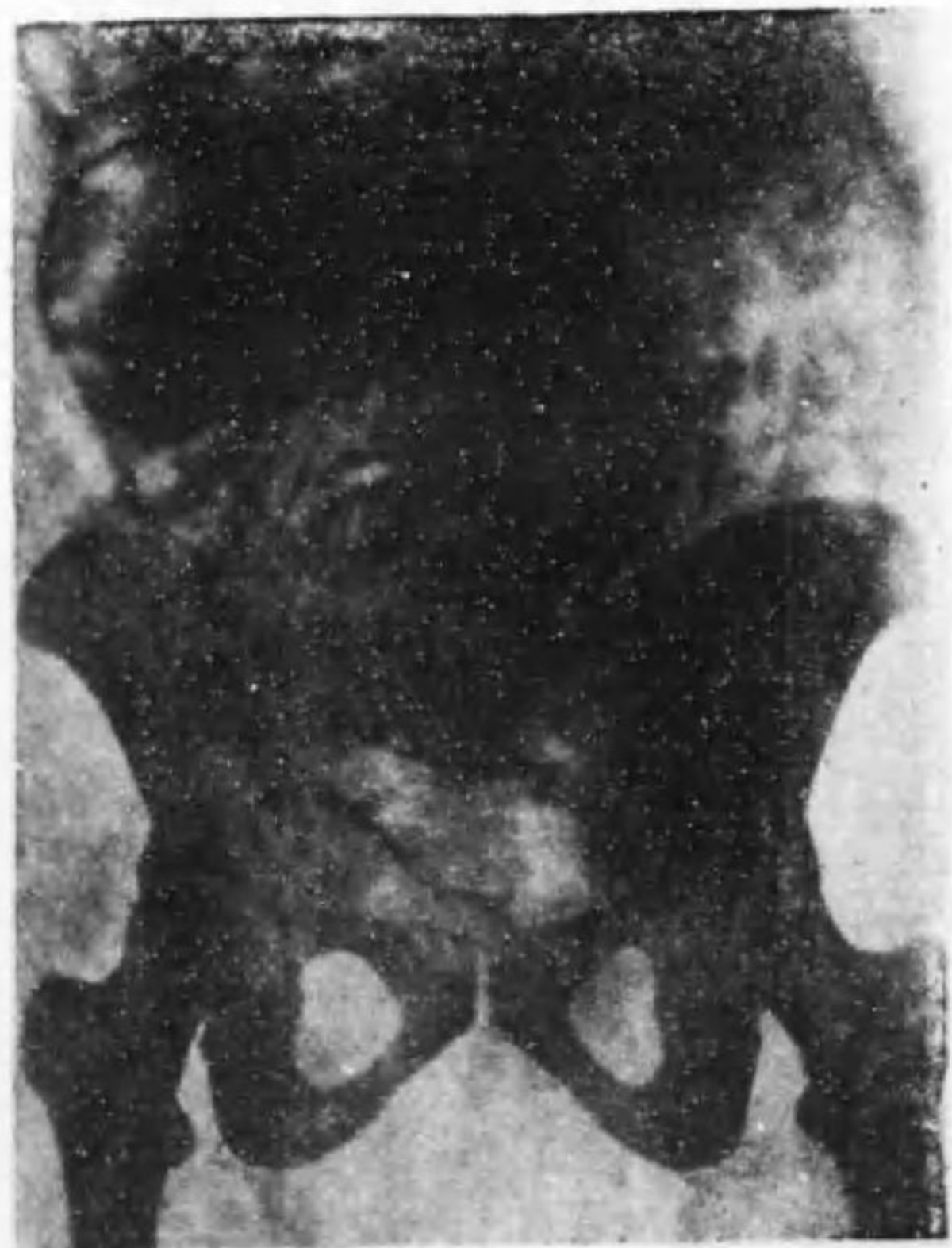
胎盤の位置によつて



横位及横ニナレル胎児ガ自然ニ縦ニ回轉スル時ノ模様

は恐しい出血で、命を失ふ事があります。胎盤が普通の處に着いてゐるのに、胎児の出ない内に既に早く子宮から剝がれて、子宮の中で恐るべき出血ををする事があります。(胎盤の早期剝離)

臍帯の脱出 お産が始り、やがて羊水が出ると同時に、臍帯が子宮の口から外へ出る事があります。之



横位ヲX光線ヲ見タル間

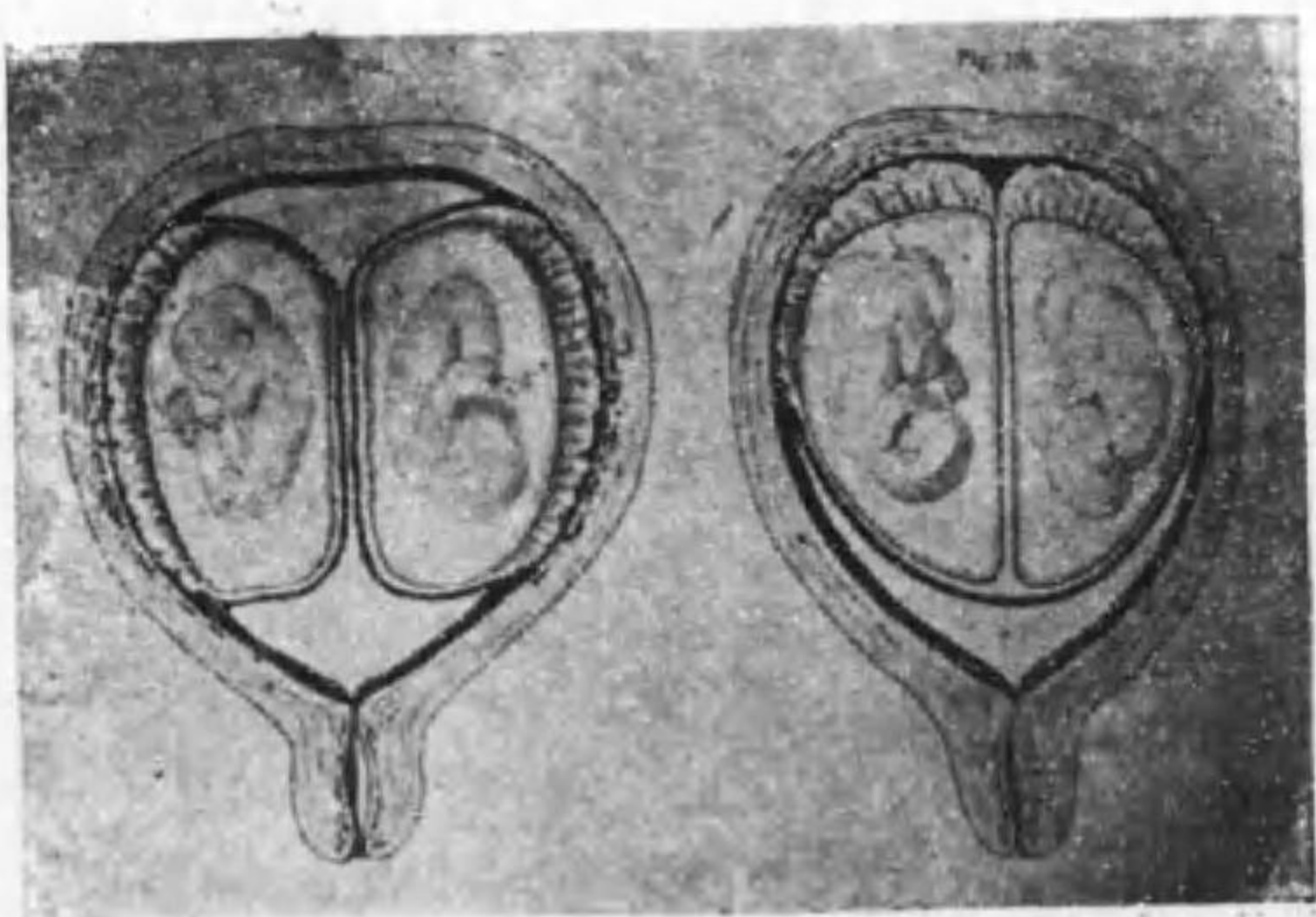




後頭位普通=生レタル時ノ頭ノ形



前額位(額ガ先=出タ時ノ形)



双胎(ふたご)ノ子宮内ニアル状態

は胎児にとつて非常に危険であります。

早期破水 子宮の口がまだ充分開かぬ内に破水して、羊

水が多量外

へ流れ出る

と、陣痛が

弱くなり、

お産は爲め

に進まなく

なります。

異常の出血 會

陰 子宮口

及子宮が破

裂した時、

又はお産直後の子宮が弛緩して居るために起る出血

は、最も恐るべきものであります。之を止めるのに

どんな方法があるか。

子癇 といつて癲癇に似た病氣があります。

双胎のお産

### 産褥に就て

お産がすんだ後六週間乃至八週間を産褥といひます。

一度大きくなつた子宮が此の間に小さくなり、お産で出

來た創傷は癒る。産褥中の人を褥婦といひます。

來た創傷は癒る。産褥中の人を褥婦といひます。



双胎ヲX線ニテ寫シ出シタルモノ

子宮の大きさ 子宮の小くなる模様は、お産後の日數とどんな關係になつて居るか。  
 惡露 とは、お産後子宮の中から滲み出して來る分泌物で、最初赤い色から薄桃色となり、次で白い色となりま  
 す。

### お産後の心得

産褥中の心得 此時期によく攝生を守らなければ、子宮の恢復が悪くなり、種々の婦人病を残し、色々故障を起



すものである。

**體温** 熱の有る無しを調べる事は、お産後の最も大切な仕事であります。

**食事** どんなものをとらせるか、又何時頃常食にしてよろしいかを話します。

**便通** が秘結し易く、小便が出難いのは何故か。

**發汗** 褥婦は非常に汗をかき易い。

**褥婦の消毒** 外陰部の處置はいつまで続けるか。

**衣服及寢具** 清潔と保温を第一とすること。

**起坐** 歩行、入浴、離床、外出等は何日頃許されるか。

早目に床を離れることは、無害であるかに就て述べます。

**授乳婦人の心得** 母が其の子に、自分の乳をやることは親子双方のためであります。そこで母乳は何時から與へ初めるか。其の飲せ方。

**初乳** は飲ませると薬になる、乳をやるのに最も大切なことは、回数と時間とを正確に定める事であります。

**乳汁分泌を増進させる法** 母體の食餌、催乳劑(乳の出る薬)、乳房のマッサージ(乳もみ)、人工太陽燈をかける事。

人乳の自家注射等をやつて見るのであります。

**母乳** は如何なる場合に飲ませぬか、種々の場合に就て述べます。

**乳頭に創傷** が出来た時の處置。

**乳腺炎** の起つた時の模様と處置。

## 産褥中の異常

**産褥熱** お産の時に出来た創傷から微菌が入つて、高い熱を出す。毒の強い微菌では、生命を失ふ事があります。

其の原因、症候及び豫防法を述べます。

**産褥熱以外の熱** の出る疾患では、膀胱炎、腎盂炎、腎臓炎等があります。

**異常の後陣痛** お産が餘り速くすんだ後でよく起る。度々お産をした方に多いのであります。

## 初生兒に就て

**臍帯が落ち、臍の窩が清潔になつてしまふ迄、約一週間乃至二週間位を初生兒といひます。**

**體重** 生後一時減じて、一週目には普通元の目方になる。

**胎糞** 黒緑色の泥のやうな便、所謂「かにばゞ」を、生後二三日出し、それから次第に黄色に變ります。

**黃疸** 生後二三日より全身黄ろくなり、一週間位で無くなる。

**沐浴** 毎日お湯をつかはせる方がよろし。

**初生兒の種痘** 之に就いて、私の行つた經驗をお話してお薦めしたいのであります。

—【完】—



幼 兒 の 眼 の 爲 に

【四回放送】

醫學博士 松 本 保 三